雜用品		
鐵網	〃	十
挾止	〃	十
篠皮	〃	十
試驗管洗	〃	十
磨粉	袋	十

備考

一　收容人員ハ最近三箇年間ニ於ケル收容者ノ一日平均人員ニ依ル

二　收容人員欄ニ十印ヲ附シアルハ使用スルコトヲ得ル刑務所ニシテ其ノ數量ハ適宜ナルコトヲ示ス

三　製劑成分ノ分量ハ任意トス

第二　衛生材料ノ整備等ニ關スル件

一　衛生材料ノ制式、定數其ノ他指定事項ヲ變更スル必要アルトキハ事由ヲ具シ認可ヲ受クルコト

二　現ニ使用中ノ器械ニシテ規定外ニ屬シ又ハ指定ノ制式ニ違フモノト雖他ニ代用シ得ルモノハ當分之ヲ使用スルコト

三　指定ノ定數ヲ超過スル器械ニシテ使用ニ堪ヘ得ルモノハ附近ノ刑務所ト協議ノ上可成保管換ヲ爲スコト

四　指定ノ衛生材料ハ速ニ之カ補充ヲ要スルモ豫算其ノ他ノ關係上困難ノ事情アルモノハ漸次充實ノ方法ヲ講スルコト但シ緊急ヲ要シ配賦豫算內ニテ支辨シ難キモノハ相當增額相成筈ニ付事情ヲ具シ申請スルコト

五　定數ヲ指定シアル衛生材料ハ每年三年末日ニ於テ其ノ定數ト現在高トヲ照合シ過不足アルトキハ其ノ品目、數量ヲ四月末日迄ニ報告スルコト

六　從前ノ規定ニ依ル藥品ノ處方箋拂ハ自然廢止トナリタルニ付瓶又ハ包等ノ內容品ハ使用開始ニ當リ其ノ內容數量ヲ衛生材料受拂簿ニ拂トシテ記入スルコト

第三　衛生材料ノ保管上注意ノ件

一　ニツケル鍍金製品ハ硼砂ワセリンヲ塗布シ置クコト

二　注射針ノ鐵針及縫合針ハ硼砂ワセリン貯藏法ニ依ルコト

三　革砥ハ時時オレーフ油ヲ塗布スルコト

四　護謨製品ハ可成密閉セル容器ニ貯藏シ暖所ニ保管シ置クコト

五　檢査藥品ハ使用上差支ナキ範圍內ニ於テ可及的小量ヲ備付シ特ニ變質防止ニ努ムルコト

六　製劑ハ其ノ容器ニ必ス內容藥品名及其ノ處方ヲ明記シ置クコト

二四　醫療器具器械竝藥品類ノ保管方ノ件

（大正五年 臭類倉庫ニ於テ）

（注意）

醫務所備付ノ醫療器具器械類ノ手入不充分ノ爲往往錆ヲ生シ又劇毒藥保管方粗漏ノ向アリ器具器械類ハ平素手入ヲ怠ラス且總テ保管上ニ付テハ粗漏ニ失セサル樣注意ヲ要ス

二五　衛生材料使用數量ノ定期報告廢止ノ件

（大正十四年十一月 行刑局長事務取扱依命通牒 行甲第一七三一號）

衛生材料ノ使用數量ハ司法省訓令第二號ニ依リ定期ニ報告スヘキコトニ相定居候處衛生材料ノ配給ニ付テハ今般本省指導ノ下ニ刑務協會ヲシテ之ニ當ラシムルコトニナリタルヲ以テ當分ノ間標記報告ハ提出ニ不及候條右ニ御了知相成度

二六　醫務ニ關スル補助簿廢設ニ關スル件

（大正十一年六月 行刑局長依命通牒 行甲第九四四號）

監獄醫務ニ於ケル諸簿冊ハ明治三十五年十二月及大正二年十一月司法省訓令ニ依ルノ外公ニ之ヲ規定シタルモノ無之ニ拘ラス曩ニ各監獄ヨリ具申セル補助簿ヲ通覽スルニ其ノ種類總計二百八十二種ヲ算シ內容亦區區ニ亘リ中ニハ記載事項殆ント同一ナルニ拘ラス數冊ノ

帳簿ニ區分シテ記入スルモノ或ハ【監獄醫】ノ備忘ニ過キサルモノ等モ有之殊ニ一監獄ニシテ補助簿十種以上ヲ規定セルカ如キハ徒ニ事務ノ負擔ヲ倍加スルノミニシテ之カ爲【監獄醫】ノ活動ヲ妨ケ延テ行刑衛生ノ發達ヲ阻害スルコトトモ可相成候條此ノ際貴監ニ於ケル日常ノ醫務衛生上ニ使用相成居候補助帳簿ヲ整理シテ其ノ必要缺クヘカラサル帳簿類ハ左記事項ヲ明確ニシ本省ノ認可ヲ受ケラレ度尙今後特別ノ事情ニ依リ特殊ノ帳簿ヲ新設スル場合ニ於テモ前同樣ノ手續ヲ經ラレ度要ハ【監獄醫】ヲシテ可成繁瑣ノ勞ヲ避ケ其ノ餘力ヲ擧ケテ在監者ノ保健事務ニ傾注セシメ漸次監獄醫務ノ刷新完璧ヲ期セラレ候樣致度候

左　記

一　帳簿ノ名稱
二　該帳簿ノ設置ヲ必要トスル詳細ノ事情
三　樣式及記載例
四　帳簿存置期間ノ見込

二七　同上ノ件

（大正十一年六月行刑局長通牒行甲第九八四號）

六月二十四日行甲第九四四號ヲ以テ標記ノ件通牒相成候處諸表小票及諸箋類等モ右通牒ノ趣旨ニ準シ御取扱相成候樣致度候

二八　醫務補助簿ニ關スル件

（大正十四年十一月行刑局長事務取扱依命通牒行甲第一七六九號）

大正十一年六月行甲第九四四號ヲ以テ標記補助簿廢設ニ際シ其ノ都度認可ヲ受クヘキ旨通牒相成候ハ從來補助簿ノ態樣名稱等各所區區ニ渉リ其ノ種類數百ヲ算シ實ニ煩瑣ノ極ニ達シタルニ依リ醫務改善ヲ期スルノ目的ニ有之候然ルニ其ノ後ノ經過ヲ觀察スルニ其ノ趣旨モ徹底セル樣被認候ニ就テハ自今一一認可ノ申請ヲ要セス左記ノ範圍内ニテ貴官限リ處理相成差支無之儀ト御了知相成度候

左　記

一　醫務日誌　醫務ニ關スル備忘等
二　請診簿　受診手續竝其ノ結果ニ關スル事項等
三　處遇變更簿　收容者ノ處遇變更ニ關スル一切ノ事項等

四　調査資料原簿　諸調査ノ資料タルヘキ一切ノ事項等

二九　刑務所藥局方製劑等指定ノ件

（大正二年六月監獄局長通牒監甲第五八九號）

今般監獄ノ藥局方、製劑、衛生材料及醫療器具指定相成候ニ付テハ左記ノ事項御注意相成度

一　將來ニ於テハ指定以外ノ藥局方、製劑、衛生材料又ハ醫療器具ヲ使用セサルコト
一　若シ特ニ指定以外ノ藥劑、材料又ハ器具購入使用ノ必要アル場合ニ於テハ其ノ都度所要ノ品目及價格ヲ明記シ司法大臣ノ認可ヲ受クルコト
一　各監獄ニ現存スル藥劑、材料又ハ器具ハ指定外ノモノト雖引續キ使用スルコト
一　試藥、診斷用藥品及醫療器具ハ各會計年度末ニ於テ監獄毎ニ次年度内所要ノ品目及價格ヲ豫計シ司法大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ購入スルコト但シ本年度内購入使用ノ必要アル監獄ニ於テハ此ノ際特ニ認可ヲ受クルコト

三〇　刑務所藥品等取扱方ノ件

（大正十一年五月監獄局長通牒監甲第六二五號）

曩ニ監獄ノ藥局方製劑衛生材料等取扱方ニ付注意ノ件及通牒置候處尙取扱上不穩當又ハ不適法ナル點之レ有ル哉ニ見受ケラレ候條左記事項特ニ御注意相成度候

記

一　受刑者ニ藥品ノ自辨購求ヲ許シ之ヲ使用セルモノアリ
二　現品ト藥品受拂簿トヲ照合スルニ符合セサルモノアリ
三　一時ニ多量ノ藥品ヲ購求シテ之ヲ全部醫務係ニ供用セルモノアルモ保存上特別ノ容器又ハ裝置ヲ要スルモノ等ヲ除ク外ハ凡ソ一ヶ月分ノ所要高ヲ醫務係ニ交付シ爾今ハ物品會計官吏直接之ヲ保管シ濫用ニ陷ラサルヲ要ス
四　劇毒藥容器ノ鎖鑰ハ【監獄醫】ヲシテ保管セシムルヲ要ス
五　物品會計官吏保管中ノモノニシテ永年使用セサルモノアリ將來尙使用セサルモノナラハ附近監獄ニ照

會ノ上保管轉換ヲ爲ス等適宜ノ方法ヲ講スルヲ要ス

六　物品會計官吏ニシテ多種多量ノ藥品衛生材料ヲ保管スルモノアリテ中ニハ新藥ニシテ高價ナルモノアリ【監獄醫】ヲシテ時時見廻リ之等在庫品ニ付保存竝使用上配慮セシムルヲ要ス

七　指定外藥品ニシテ認可ヲ經サルモノアリ

三一　收容者ノ藥品自費購入ハ監獄法ノ認メサル件

（大正二年十二月　福岡監獄典獄問合　發第五一八〇號）

先般御省訓令ヲ以テ監獄ニ於テ使用スヘキ藥品、製劑衛生材料及醫療器具等御指定相成候處玆ニ在監者ニシテ右御指定外ノ高價藥品ヲ自費購入請願スル者アルトキハ典獄ニ於テ治療上必要ナリト認メタルトキハ之ヲ許可シ差支無之候哉監獄法第四十二條ニ依リ病者醫師ヲ指定シ自費ヲ以テ治療ヲ補助セシムルコトハ規定有之候モ前述ノ如キ場合モ亦之ニ準シ許可シ得ヘキ義トハ存候ヘ共聊カ疑義相生候條何分ノ御指示相煩度

（大正二年十二月　監獄局長回答　監丙第一二一七號）

監獄法第四十二條ハ萬已ムヲ得サル場合ニ對スル例外規定ニ屬シ極メテ嚴正ニ解釋スヘキモノナルカ故ニ之ヲ援引シテ藥品ノ自費購入ノ場合ニ類推スルヲ許サス要スルニ在監人カ自費ヲ以テ藥品ヲ購入使用スル事ハ監獄法ノ認メサル所ナルヲ以テ許可スヘキ限ニ在ラスト思料致候

三二　指定外衛生材料購入方申請ノ場合注意ノ件

（大正十年　典獄會議ニ於テ）

（注　意）

指定以外ノ藥劑衛生材料竝醫療器具購入方申請ノ場合ハ左ノ點ニ付注意ヲ要ス

イ　品名殊ニ藥品目ヲ誤記スル向アリ正確ニ記載スルコト

ロ　初テ購入セムトスル藥品ニ付テハ特ニ使用ノ目的及理由ヲ詳記スルコト

ハ　醫療器具ニ付テハ細目ニ亘リ使用ノ目的ヲ詳記シ尙數量ヲ記載スルコト

三三　「サルヴアルサム」使用ニ關スル件

（大正十三年五月　刑局長通牒　行甲第六六三號）

今般衛生材料取扱規則訓令相成候處治療藥品中ヨリ**サルヴアルサム**ヲ除外セラレタルハ其ノ使用ニ伴ヒ諸種ノ弊害ヲ釀ス虞アルト一面經費ノ關係ヲ慮リタルモノニシテ收容者ニ對シ此ノ治療方法ヲ絕對ニ施ササル趣旨ニハ無之候條將來徵毒患者ニシテ**サルヴアルサム**使用ヲ行刑衛生上最得策ナル方法ト認定セラレ候場合ニハ別紙形式ニ依リ認可申請相成度候

日記番號

年　月　日

何刑務所長　何　某　印

司法大臣宛

サルヴアルサム使用認可申請

左記患者ニ對シ標記藥品使用致度候條御認可相成度候

罪名	殘刑期	氏名	刑名刑期	犯數	年齡

症狀		病歷						黴毒血清診斷成績	使用豫定	
		收容			收容					
罹患部位及範圍	其ノ他一般症狀	發病時期	治療日數	前	治療方法	發病時期	治療日數	後	治療方法	數量	金額
		年　月　日				年　月　日				瓦	

使用ヲ得策トスル理由	備考

記載例

一　其ノ他一般症狀ハ本疾患ニ基因スルモノヲ記入スルコト

二　黴毒血清診斷成績ハ檢査方式名竝其ノ成績ヲ表ハスコト

三　備考欄ニハ豫後ニ對スル意見其ノ他參考事項ヲ記入スルコト

三四　「サルヴアルサム」使用認可申請書ノ記載方ニ付注意ノ件

（大正十三年九月　行刑局長通牒　行甲第一三四七號）

本年五月二十八日付行甲第六六三號ヲ以テサルヴアルサム使用ノ件ニ付通牒致シ置候處認可申請書記載方ニ付自今必ス左記事項ニ付御注意相成度候

左記

一　病歷、收容後、治療日數欄ニハ休養何日非休養何日ト記載スルコト

二　使用ヲ得策トスル理由欄ニハサルヴアルサム使用ニヨリ治癒スル程度ニ至ル迄他ノ驅梅療法ヲ施行シタリトセハ其ノ經費及治療ヲ遲延セシメシ爲ニ蒙ル利害等殊ニ作業賃金ノ增減ヲ具体的ニ數字ヲ以テ表ハスコト

三　備考欄ニハ現下ノ作業種類ト其ノ成績、治療後ノ豫定成績ヲ記載スルコト

三五　「ノボカイン」使用ノ場合認可ヲ要セサル件

（大正十五年六月　行刑局長通牒　行丙第一〇〇三號）

從來ノホカイン使用ノ場合ハ一一認可ヲ要シ居候處用途ニ依リテハ却テコカインヨリモ毒性少ク且近來價格モ低廉ト相成候ニ付テハ當分ノ間貴所限リ施用シ差支無之候

三六　「オリザニン」使用ノ場合認可ヲ要セサル件

（大正十五年八月　行刑局長通牒　行甲第一二〇三號）

從來オリザニン使用ノ場合ハ一一認可ヲ要シ居候處本藥ハ脚氣症等ニ對シテハ相當效果アルモノト被認候ニ付テハ當分ノ間認可ヲ要セス貴所限リ使用差支無之候

三七　絆創膏使用ノ場合認可ヲ要セサル件

（大正十四年十一月　行刑局長事務取扱依命通牒　行甲第一七五八號）

絆創膏ハ其ノ使用方簡便ニシテ醫療上ノ效果モ相當認メラレ居リシモ只比較的高價ナリシヲ以テ使用上考慮セラレ居候處今般刑務協會ニ於テ衛生材料ヲ供給スルニ至リ絆創膏モ低廉ニテ使用シ得ラルルノミナラス之カ使用ニ依リ松脂硬膏使用上ノ不便（例ヘハ硬膏ヲ紙ニ伸フル等ニ要スル相當ノ熟練ト手數）ヲモ避ケ得ラルヘク候ニ付テハ向後絆創膏ヲ使用セラルル場合ハ豫メ認可ヲ要スルコトナク當分ノ間貴所限リ施用シ差支無之候

三八　衛生試驗所製造藥品讓渡ノ件

（大正五年四月　警視局長通牒　監甲第三三七號）

衛生試驗所製造藥品讓渡ノ件ニ付內務次官ヨリ當次官宛別紙寫ノ通通知有之候間貴監ニ於テ該藥品讓受希望ノ場合ハ直接內務省ニ御申出相成度

追テ別紙記載ノ藥品中大正二年六月司法省訓令第三號指定外ニ屬スルモノハ認可ヲ經タル後ニ非サレハ讓受クルヲ得サル義ト御承知相成度

（別紙）（大正五年四月　內務次官通知內務省發衛第三三號司法次官宛）

當省所管衛生試驗所ニ於テ試製ノ爲製造シタル藥品ハ當分ノ內相當代價ヲ以テ官公署、官公立病院、診療事業ヲ爲ス公益法人其ノ他本省ニ於テ適當ト認メタル者ニ限リ讓渡スコトニ相成候間右御了知ノ上可然御取計相成度候

（追書以下省略）

三九　醫藥用阿片交付手續ニ關スル件

（大正八年十月　警視局長通牒　監甲第八二一號）

標記ノ件內務次官ヨリ當省宛別紙ノ通通牒有之候間貴監ニ於テ交付希望ノ場合ハ直接東京衛生試驗所ヘ御申出相成度候

（別紙）（大正八年十月　內務次官通牒　內務省發衛第二六六號司法次官宛）

阿片法中改正法律本年八月一日ヨリ施行相成候ニ付テハ同法第八條ノ三及同法施行規則第十九條ノ規定ニ關シ醫藥用阿片交付手續左ノ通東京衛生試驗所ニ訓令相成候條貴管內官廳病院若ハ學校ニ於テ醫藥用阿片ヲ要スルトキハ其ノ數量、容器ノ種類箇數及用途ヲ記シタル交付請求書ニ代價ニ相當スル收入印紙ヲ貼付シ東京衛生試驗所ニ提出候樣通達方可然御取計相成度候

（內務省訓令第六百九十七號）

醫藥用阿片交付手續左ノ通心得ヘシ

官廳又ハ官立ノ病院若ハ學校ノ請求ニ依リ交付スヘキ醫藥用阿片ノ代價左ノ如シ但シ運送賃ヲ要セス

第一號（五　瓦　入）　金　五　十　錢

第二號（二十五瓦入）　金二圓五十錢

第三號（四百五十瓦入）　金四十二圓五十錢

四〇　工場居房等ノ標準濕度ニ關スル件

（大正十二年一月　行刑局長通牒　行甲第五八號）

輓近一部刑務所ノ監房及工場等ニ曖昧ヲ設置スルニ至レルハ多季間受刑者ノ健康ヲ保持シ就業者ヲシテ作業ニ緊張セシムル趣旨ニ外ナラス然ルニ往往其ノ溫度ヲ過度ニ昇騰セシムル向アリ斯ノ如キハ設備ノ趣旨ニ反シ行刑上不良ノ影響ヲ齎スヘキモノト思料セラレ候條爾今之カ使用ヲ爲スニ當リテハ左記ノ點御留意相成度候

左記

一　建造物ノ位置、種類、構造、廣狹及暖爐ヨリノ距離等ヲ考慮シ場内ノ平均溫度ヲ定ムルニ最適當ナル場所ニ寒暖計ヲ裝置シ如何ナル場合ニモ其ノ表示溫度攝氏十五度ヲ超ヘサル程度ニ調整スルコト

二　特殊ノ事由ニ依リ常時前項溫度以上ヲ必要トスル場合ニハ其ノ理由ヲ申報スルコト

追テ本通牒ハ暖爐ノ設備ナキ一般刑務所ニ在リテモ爲參考御承知置相成度候

四一　食後ノ休憩ニ關スル件

（大正十二年一月　行刑局長通牒行甲第八五號）

曩ニ行甲第一五二七號ヲ以テ標記ノ件通牒ニ及置候處其ノ後從來ノ慣行ニ因リ或ハ作業訓練ニ熱心ノ餘又一面受刑者ニ於テモ成績ヲ競フ等ノ爲食後直ニ任意ノ就業ヲ默認シ又ハ暗ニ之ヲ慫慂セラルルカ如キ向有之哉ニ相見ヘ候得共單ニ右休憩時間ヲ作業時間ニ充テタリトテ强チ生産能率ヲ增進シ得ヘキニ非サルハ勿論如此ハ作業疲勞恢復ノ爲ニ一定ノ休憩時間ヲ設定シ此ニ依リテ緊張シタル作業狀態ヲ維持セムトスル前記通牒ノ趣旨ニ反シ又一面急飲粗嚼ノ弊ヲ招ク等衛生上ニモ考慮ヲ要スルモノ有之且部分的ニ作業ヲ開始スルカ如キハ工場ノ規律保持ノ關係ニ於テモ適當ナラサル次第ニ有之候條萬一斯カル事實有之候ハハ御改メ相成候樣致度爲念及通牒候

四二　呼吸保護器貸與ノ件

（大正十二年三月　行刑局長通牒行甲第三一〇號）

作業ノ種類ニ依リ就業者保健上ノ見地ヨリ呼吸保護器貸與方申請ノ向往往有之候處實際塵埃若ハ粉末ノ飛散夥シキ等衛生上就業者ニ呼吸保護器ヲ使用セシムル必要アルモノ尠カラスト被認候ニ付テハ爾今該保護器ノ貸與ハ別ニ認可申請ヲ要セス貴官限リ施行差支ナキコトニ決定相成候條可成經費ノ節約ヲ計リ其ノ必要アルモノニ對シテハ之ヲ貸與セラレ候樣致サレ度

追テ本件施行ノ際ハ理由ヲ付シ其ノ都度報告相成度申添候

四三　出張所ニ於ケル刑事被告人ノ理髮ニ關スル件

（大正十五年四月　山形刑務所長照會　山發第三六〇號）

（大正十五年六月　行刑局長通牒　行丙第七六六號）

標記ノ件ニ付別紙甲號ノ通問合有之乙號ノ通回答致置候

（別紙）

甲號

當所ニ於ケル被告人ノ理髮ハ受刑者ヲシテ之ヲ行ハシメツツアリト雖出張所ニ於テハ從來衛生上必要ト認メタル場合ハ職員又ハ小使ヲシテ頭髮ヲ短離セシメ來リタルモ頭髮ヲ短離セサルモノニ對シテハ理髮ノ技能ナキ職員又ハ小使ニ於テ之ヲ剪刈スルコトハ困難ノ事情モ有之ヘク候ニ付被告人ヨリ出願アル場合ハ相當營業者ヲ雇入剪刈セシムルモ差支無之候哉何分ノ御指示相煩度

（大正十五年六月　行刑局長回答　行丙第七六六號）

右ハ衛生上必要ト認メタル場合ハ費見ノ通取計差支無之之ニ要スル費用ハ收容費雜費諸手數料ヨリ支出相成度候

追テ他人ト接見禁止中ニ係ル者ナルトキハ一應當該裁判所ノ承認ヲ經タル後本文御取計相成度

四四　豫防衛生ニ注意方ノ件

（大正十三年　刑務所長會議ニ於テ）

（指示）

豫防衛生上ノ注意　保健職員ハ單ニ收容者ノ診療ニ從事スルヲ以テ足レリトセス拘禁生活ノ内容ヲ觀察シテ豫防衛生ニ留意シ疾病ヲ未然ニ防止スルノ注意アルヲ要スルハ大臣ヨリ訓示セラルル所ノ如シ此ノ趣旨ヲ貫徹スル爲ニハ特ニ左ノ事項ノ勵行ヲ必要トス

1　收容者ヲシテ自發的ニ衛生ヲ重ンスルノ習慣ヲ馴致セシムル爲常ニ之カ指導誘掖ニ努力スルコト

2　教誨其ノ他集會ノ機會ヲ利用シ收容者ニ對シ衛生講話ヲ爲シ注意スヘキ事項ヲ指示シ衛生思想ノ普及ヲ圖ルコト

3　時時居房工場等ヲ巡視シ一般衛生ノ監督指導ヲ爲スト共ニ收容者ノ健康狀態ヲ視察シ疾病アリト認ムルトキハ本人ヨリ診療ヲ出願セスト雖進テ之ニ治療ヲ加ヘ速ニ恢復ノ方法ヲ講スルコト

4　被服寢具ノ澣濯運動入浴理髮方法ノ適否ニ注意シ飲食物並飲料水ノ檢査ヲ行ヒ便所其ノ他ノ消毒ヲ勵行スルコト

四五　臥具乾燥方ノ件

（明治三十八年典獄會議ニ於テ）

（注　意）

在監人ノ臥具ヲ乾燥スルニ當リ其ノ了否ヲ徵證スヘキモノナキカ爲往往普及ヲ缺キ或ハ其ノ一部ヲ脫漏シ又ハ順番ヲ誤ルコトナシトセス右ハ相當ノ帳簿其ノ他標識ヲ設ケ遺漏ナク乾燥ヲ周到ナラシムルノ注意アルヘシ

四六　墓地ノ掃除井戸溝渠浚渫方ノ件

（明治三十八年典獄會議ニ於テ）

（注　意）

監獄墓地ノ内ニハ往往雜草繁茂シ墓標朽倒シ管理ヲ等閑ニ付セラルル向少カラス宜シク時時之カ清掃ヲ行ハシメ尙必要ニ應シテ合葬建碑等ノ措置ヲ施スヘシ井戸、溝渠ノ浚渫及水質ノ檢査ハ時時之カ施行ヲ怠ルヘカラス殊ニ初夏ニ際シ諸種ノ病症發生ノ虞アルヲ以テ一層之ヲ勵行スヘシ

四七　收容者ノ屋外運動ニ關スル件

（明治四十年典獄會議ニ於テ）

（注　意）

在監人中常ニ内役ノミニ從事スル者ハ日光ノ直射ヲ受クル機會ニ乏シキカ爲ニ皮膚ノ機能減退シ健康ヲ害スルコト尠カラス午飯休憩時等ヲ利用シ屋外運動ヲ爲サシムルノ注意アルヲ要ス

囚人一般ノ習慣トシテ運動ヲ好マサルノ傾キアリ殊ニ病者ノ如キハ横臥靜養ヲ好ミ屋外散歩ノ如キハ寧ロ之ヲ嫌忌スルノ風アルヲ見ル取扱者ニ於テハ運動ニ關スル規定ヲ勵行スルハ勿論病者ノ望ナリトノ故ヲ以テ之ヲ放任スルカ如キコトナク醫師ニ於テ支障ナシト診定セシ者ニ就テハ一定ノ時間屋外ノ散歩ヲ督勵スルヲ要ス

四八　行刑衛生研究ノ結果發表ニ關スル件

（大正十二年三月行刑局長通牒行甲第三〇七號）

行刑衛生上調査ヲ要スヘキ事項ヲ研究スルコトハ刑務ノ改善進歩ノ爲ニ將タ學界及社會ニ裨補スル點ニ於テ大ニ勸奬スヘキ義ニ有之候ヘ共斯カル研究調査ノ結果ヲ當局ノ不知ノ間ニ周圍ノ事情ヲ考慮スルコトナク外間ニ發表セラルルコト有之コトハ甚タ遺憾トスルトコロニ有之候條將來前示ノ如キ場合ニ於テハ一應本省ヘ照會相成度尙所外專門家ニ研究調査ヲ委託シタル場合ニ於テハ其ノ氏名、研究ノ目的、項目、所内ノ部面、委託ノ條件ヲモ附記相成度且其ノ研究ノ結果ヲ學界等ニ發表セムトスルトキハ一應之カ可否ニ付當局ヘ伺相成候樣致度候

四九　醫務參考圖書備付ニ關スル件

（大正十一年十月行刑局長通牒行甲第一五四五號）

豫テ標記圖書目錄ノ御送付ヲ得調査致候處各監獄共内科及衛生ニ關スル圖書ノ如キハ比較的新刊書有之候得共其ノ他ニ至リテハ概ネ舊刊書ニ屬シ【監獄醫】職務上ノ參考書トシテハ不充分タルヲ免カレスト思料候ニ付テハ當局ニ於テハ前例ニ依リ漸次醫事衛生ニ關スル圖書配給ノ道ヲ講スル見込ニ候間貴監ニ於テモ圖書購入ニ際シテハ相當御留意相成度殊ニ差當リ醫事ニ關スル新聞類ヲ講讀セシメテ醫界ノ潮流ヲ悟ラシムルハ【監獄醫】職務上ノ新知識ヲ啓發シ行刑衛生ニ資スルコト多シト被認候條豫算施行上ノ關係モ可有之ト被存候得共醫事公論、醫海時報、日本ノ醫界其ノ他適當ト認メラルヘキモノ選定ノ上講讀セシメラレ候樣御取計相成度候

第二節　醫療

一　刑務所醫師ノ職務分擔等ニ關スル件

（大正十一年五月監獄局長通牒監甲第七一二號）

【監獄醫】ノ職務上ニ於ケル分擔ヲ調査スルニ各監區區ニ亘リ中ニハ部分的ニ其ノ分擔ヲ定メ之ヲ固守スルノ

結果協同輔翼ノ利益ヲ失ヒ延テ診療其ノ他ノ措置ニ適切ヲ缺クモノ往往有之樣被思料候ニ付テハ此ノ際左記趣旨ニ基キ斯界ノ刷新ヲ圖リ監獄衛生及醫務行政ノ改善發達ニ資スル樣致度候間貴官ニ於テモ此ノ意ヲ體シ【監獄醫】ヲ督勵シテ協力一致醫務ニ膺ラシメ其ノ實績ヲ宣揚セラルル樣致度候

左記

一　一般監獄衛生ニ對スル分擔ヲ見ルニ大體ニ於テ主任主トシテ之ニ當リ次席以下ノ【監獄醫】ハ關與スルコト尠キカ如シ然レトモ廣汎複雜ナル一般監獄衛生ニ對シ主任ノミヲ以テシテハ到底十分ナル觀察ト施設トヲ期待シ得サルハ明白ノ理ナレハ主任監督ノ下ニ【監獄醫】全体ニ於テ觀察改善ニ從事スルコトヲ要ス

二　治療上ニ於ケル分擔ヲ見ルニ主任ハ病監ヲ擔當シテ休養患者ノ診療ニ從事シ其ノ他ノ【監獄醫】ハ工場ノ診察ヲ擔當スル等固定的ニ分擔スルモノ多キカ如キモ如此一方ニ偏倚スルコトヲ避ケ主任モ工場診察ニ從フトトモニ其ノ他ノ【監獄醫】亦病監殊ニ嘗テ自己ノ手掛ケタル休養患者ヲ診察シ彼此連絡ヲ保チ共同シテ診療ニ從事スルコトトセハ診斷ノ正鵠ヲ期シ施藥ノ適切ヲ得ル上ニ於テ至大ノ利益アルヘシ

三　工場出業者診療ノ場所ニ付テハ各監獄ノ事情ニ依リ劃一的ニ之ヲ定メ難シト雖工場ト醫務掛トノ間ニ相當ノ距離ヲ存スル監獄ニ於テハ工場ニ近接シ便利ナル場所ニ簡單ナル設備ヲ施セル診察所一、二ケ所ヲ設ケ工場出業者ノ治療ニ從事セシムルヲ良策ト認ム何トナレハ喧騷シ又ハ塵芥ノ飛散スル工場ノ一部ニ於テハ正確ナル診斷ト適切ナル治療トヲ期待シ得サルノミナラス自然受診出顧者ヲ多カラシムル虞アリ又相當隔離セル醫務掛ニ引卒治療ヲ受ケシムルハ戒護掛ノ煩累ト時間ノ空費トヲ招來シ延テ作業能率ニ惡影響ヲ及セハナリ

二　備藥箱設置竝其ノ內容及取扱手續

（大正十二年六月　司法省訓令　行甲第八三三號）

刑務所

患者應急治療ノ爲備藥箱ヲ設ケ其ノ內容及取扱手續ヲ左ノ通定ム

備藥箱內容品

品目	數稱	員數	品目	數稱	員數
機械					
體溫計	箇	三	繃帶	箇	二
消毒盤	〃	一	卷綿子	本	一
膿盤	〃	一	塗布用筆	〃	二
膏藥篦	〃	一	鋏	挺	一
藥劑					
解熱散	包	一〇〇	健胃散	包	一〇〇
整腸散	〃	一〇〇	酒精	瓦	二〇〇
沃丁	瓦	一〇〇	石炭酸水	〃	二〇〇

硼酸水	〃	四五〇	オキシフル　〃　二五〇
硼酸膏	〃	一〇〇	亞鉛華　〃　一〇〇
ピツク硬膏	枚	一〇一	皓礬水　〃　一二〇
消耗品			
油紙	枚	一	卷軸帶　卷　四
消毒ガーゼ	瓦	一〇〇	脱脂綿　瓦　一〇〇
絆創膏	枚	一	投藥瓶　箇　五

本表中器械類ヲ除キ藥劑及消耗品ニアリテハ其ノ數量ハ適宜增減スルコトヲ得

藥劑名		瓦
一　解熱散	アセチールサルチン酸	〇、五
	カフェイン	〇、一
	澱粉	〇、三

本品ヲ一包トシテ使用スルコト

二　健胃散	重炭酸ナトウリム	一、〇
	龍膽末	〇、二

本品ヲ一包トシテ使用スルコト

三　整腸散	次硝酸蒼鉛	一、〇
	澱粉	〇、二

本品ヲ一包トシテ使用スルコト

四　酒精		一、〇

第四改正日本藥局方ニ依ルモノヲ使用スルコト

五　沃丁	沃度	一、〇
	沃度加里	〇、七
	酒精	一六、〇

以上ノ割合ニ溶解シタルモノヲ適宜使用スルコト

六　石炭酸水

四%トシテ使用スルコト

七　硼酸水	硼酸	二、〇
	淨水	一〇〇、〇

以上ノ割合ニ溶解シタルモノヲ適宜使用スルコト

八　**オキシフル**

第四改正日本藥局方ノ過酸化水素水ヲ使用スルコト

九　硼酸膏	硼酸(細末)	一、〇
	グリセリン	一、〇
	單軟膏	八、〇

以上ノ割合ニ混和シタルモノヲ適宜使用スルコト

一〇　亞澱散	亞鉛華	一、〇
	澱粉	一、〇

以上ノ割合ニ混和シタルモノヲ適宜使用スルコト

一一　**ピツク硬膏**

第四改正日本藥局方ニ依ルモノヲ使用スルコト

一二　皓礬水	硫酸亞鉛	〇、五
	蒸餾水	一〇〇、〇

以上ノ割合ニ溶解シタルモノヲ適宜使用スルコト

備藥箱取扱手續

一　備藥箱ニハ鎖鑰ヲ施スコト

二　保健助手ハ內容品ニ付隨時醫務掛ヨリ交付ヲ受ケ之ヲ補充スルコト

三　內服藥ハ同時ニ一日量ヲ超エテ投與セサルコト

四　備藥箱ハ之ヲ一個トシ必要ニ應シ所內各所ニ携行シ得ルコト

五　備藥箱ノ數ヲ增減シ又ハ其ノ內容品目ヲ增減變更スルノ必要アルトキハ事由ヲ具シ認可ヲ受クルコト

六　備藥箱內容品ノ受拂及備藥投與ハ左記樣式ノ帳簿ニ依リ整理スルコト

備藥箱內容品受拂簿

年月日	摘要	受	拂	殘

記載例

一　本簿ハ品目毎ニ口座ヲ設ケ受拂ノ都度記入ヲ爲スヘシ

二　月末及年末ニ於テ計ヲ附スヘシ

三　本簿ハ少クトモ一週間ニ一回醫務主任ノ檢閲ヲ受クヘシ

四　本簿ハ丙部記錄トス

備藥投與簿

年月日	主訴	品種名	數量	稱呼番號	氏名	備考

記載例

一　本簿ハ各房寮又ハ工場別ニ備フルコトヲ得

二　房寮工場擔當看守（女監取締）ハ主訴、稱呼番號氏名欄ノ記入ヲ爲シタル上本簿ヲ保健助手ニ提出スヘシ

三　保健助手備藥ヲ投與シタル場合ニ於テハ品種名及數量欄ニ記入ヲ爲シ投與セサル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ備考欄ニ記入スヘシ

四　本簿ハ少クトモ一週間ニ二回醫務主任ノ檢閲ヲ受クヘシ

五　本簿ハ丙部記錄トス

三　保健助手及備藥箱設置ニ關シ醫師其ノ他ニ對シ注意ノ件

（大正十二年六月　行刑局長通牒　行甲第八三三號）

標記ノ件ニ關シテハ關係訓令ノ示ス所ニ依リ既ニ其ノ趣旨ヲ諒解セラレ候儀トハ思料致候得共尚此ノ際醫師並一般吏員牧容者等ニ對シテモ貴官ヨリ大体左記事項ヲ敷衍説明シ之カ實施上相互ニ誤解ナキヲ期セラレ候樣致度候

左記

一　醫師ニ對スル注意

刑務醫師ノ職務ハ刑務一般ノ衛生ニ注意シ變テ治療ニ從事スルモノタルコトハ夙ニ了知セラルル處ナルモ其ノ實績ヲ辿レハ今尚多ク消極的治療ノ末節ニ囚ハルルノ憾アリ之畢竟因襲ノ久シキ遽カニ其ノ面目ヲ一新スルノ困難ナル事情ニモ胚胎スト雖其ノ主因ハ人及設備ノ宜シキヲ得ルト否トニ係ルモノト認メ今回保健助手及備藥箱ヲ設置セラレタルニ付向後ハ從來ノ消極的治療ニ止マラス診察ニ付最善ノ處置ヲ

講スルト共ニ拘禁生活ニ伴フ被服、食糧、建築、作業等汎ク刑務保健ニ關スル細大ノ事項ハ各方面ヨリ之ヲ觀察研究シ遺憾ナキヲ期スルト共ニ其ノ補助者タル助手ニ對シテハ朝夕監督指導ヲ怠ラス積極的ニ保健衛生ノ充實ヲ企圖シ尚備藥箱ハ一般家庭ニ於ケル日常生活ニ關スル醫療ニ相當スルモノニシテ之カ爲ニ毫モ醫師ノ職責ヲ輕減セルモノニ非ス寧ロ從前ニ比シ實績ヲ擧ケ度趣旨ニ付尚一層奮勵ヲ望ムコト

二　一般吏員ニ對スル注意

收容者中眞ニ罹患病苦ヲ訴フルモノニ對シテハ速ニ醫師ノ診察ニ委スルノ處置ヲ講スヘク反之萬一詐病ヲ構ヘ病勢ヲ誇張スルモノアラハ飽迄其ノ不都合ヲ糺ササルヘカラス又等シク疾病ト云フモ其ノ程度ニ輕重緩急ノ差アルヲ以テ戒護者ハ常ニ嚴父慈母ノ思情ヲ以テ之カ觀察ヲ爲スヘク症狀ニ應シテ夫夫機宜ノ措置ヲ講シ家庭醫療ノ範圍ヲ超エサル一時的疾患又ハ不時ノ發病アリタル場合ハ保健助手及備藥箱設置ノ趣旨ニ反セサル樣有效且適切ニ之カ利用ヲ期スルコト

三　收容者ニ對スル注意

當局ハ眞實疾病ニ苦惱セル者ニ對シテハ努メテ完全ナル診療ヲ加ヘテ迅速ニ恢復セシメ以テ行刑ノ目的ヲ完了セムトス然ルニ從來ノ受診者ヲ見ルニ其ノ病狀ニ於テ家庭醫療ノ範圍ニ屬スルモノ例ヘハ風邪、腹痛、頭痛、一時ノ眩暈等ノ如キモノ著シク夥多ニシテ醫師ハ是等輕微ナル多數患者ノ爲常ニ其ノ大半ノ精力ヲ奪ハレ眞ニ診療ヲ加フヘキ程度ノ罹病者ニ對シ充分ノ措置ヲ講スルノ遑ナキ不幸ヲ招致スル處アリ今後ハ宜シク過去ノ實績ニ鑑ミ一般社會ニ於テ醫師ノ診察ヲ受クル程度ノ疾病ニ付テノミ診察ヲ請フヘク其ノ程度ノ疾病ニ付テハ充分ナル診療ヲ加フヘキヲ以テ受診者ハ發病前後ノ自覺的症狀ニ訴ヘ醫師ニ對シ成ルヘク無益ノ手數ヲ煩ハスコトナキ樣注意スヘシ今回家庭醫療ノ範圍ヲ超エサル一時的疾病又ハ不時ノ苦痛ヲ迅速ニ治療スル爲ニ標記ノ機關ヲ設ケ其ノ備藥箱ニハ各種ノ應急藥ヲ格納セルニ付之ニ依倚シ各自攝生ニ留意シ健康ヲ保持スルコト

四　保健助手竝備藥箱設置ニ關スル件

（大正十二年六月　行刑局長通牒　行甲第八三三號）

標記ノ件別紙ノ通訓令相成候處右ハ近時行刑施設ノ改善ニ伴ヒ醫務ノ職責モ益益重大視セラレ其ノ分擔事務モ曩日ニ倍加シ之カ周到ヲ期スルニ於テハ相當補助者ノ必要ヲ認メタルト一般家庭ニ於ケル日常生活ニ關スル醫療ノ趣旨ヲ參酌シタル結果ニ外ナラサレハ之カ人選及實施ニ付テハ愼重ノ注意ヲ拂ヒ先ツ其ノ人選ニ於テモ現任部長級ヨリ物色シ若シ適任者ナキ時ハ一般看守及女監取締中成ルヘク看護學ノ心得アル者或ハ特ニ斯ル方面ニ素養アリ又希望ヲ有シ或ハ嘗テ陸海軍等ニ於テ衛生事務ニ關與セシ者等ヲ選拔シ之ニ部長ヲ命セラレ度而シテ其ノ日常ノ執務ニ當リテハ職務規程ノ命スル所ニ從ヒ常ニ補助員タルノ心得ヲ以テ醫師ヲ介補セシメラレ候樣御留意相成度候殊ニ備藥箱ノ取扱ニ付テハ常ニ迅速周到過誤ナキヲ期シ成ルヘク之ニ依リテ一時ノ急ヲ救ヒ醫師ヲシテ濫リニ不必要ナル手數ヲ煩ハスコトナキ樣篤ト御指導相成度尚助手ノ定員ハ本支所共現實拘禁人員ノ多寡病者ノ多少等實際ノ必要ニ應シ貴官限リ適宜配置相成可然候得共本所ニ在リテハ當間少クトモ一名ノ專任者ヲ置キ夜間ハ兼務者ヲシテ代行セシムルモ差支無之專任者ハ現在各掛事務ノ繁閑及其ノ配置看守ノ員數等ヲ適宜斟酌整理シテ之ニ充當セラレ度候モ之カ爲ニ配置上全然差繰リ難キ向ニ對シテハ事情ニ依リ增員ノ詮議可相成候條其ノ際ハ詳細理由ヲ具シ上申相成度候

追テ助手ヲ部長ニ限定セルハ其ノ職責ノ重大ナルト且職務執行上往往監督作用ノ伴フヘキ場合アルヲ豫想シタル次第ニ有之候又備藥箱ノ形狀ハ其ノ內一定可致見込ニ付當分ハ從前在リ來リノモノヲ用ヰ若シ無之場合ハ整理携帶ニ便宜ナル樣相當製式ニ付工夫相成度候

五　保健助手ノ診療補助ニ關シ注意ノ件

（大正十五年九月　行刑局長通牒　行甲第一三四四號）

保健助手ハ醫師ノ監督ノ下ニ診療ヲ補助スル機關ニシテ之カ設置ノ目的ハ醫師ヲシテ積極的治療ニ全能ヲ發揮セシメ行刑衛生ノ充實發展ヲ期セムトスルニ有之候處該制度設置後ノ實績ニ鑑ミルニ往往ニシテ保健助手利用ノ妙ヲ得ス治療ノ時期ヲ失セシメタルニ非サルナキヤヲ疑ハシムルモノ有之候其ノ原因固ヨリ二三

ニシテ止マラサルヘキモ要ハ保健助手カ動モスレハ
(一)家庭醫療ノ範圍ヲ脫セル應急處置ヲ採ラムトシ
(二)醫師ニ對シ自己ノ取扱ヒタル患者ノ容体其ノ他
必要事項ニ付申告ヲ怠リ勝ナルト(三)備藥投與簿ノ
整理充分ナラサル等ノ傾向アルト一面醫師ノ監督周到
ヲ缺キ備藥投與簿ノ檢閲等モ等閑ニ付スルモノアルニ
鑑ミ醫師ハ特ニ御留意ノ上充分過誤ナキヲ期セラレ候樣致度候

六　患者治療日數經過報告改正ノ件

（大正十四年十二月行刑局長事務取扱依命通牒行甲第一八七九號）

標記ノ件ニ付大正十二年十月二十六日行甲第一六〇二號ヲ以テ通牒致置候處自今左ノ樣式ニ依リ御報告相成度候

樣式（用紙美濃半截）

【大正】　年　月　日作成　擔任醫師　㊞

患者治療日數經過報告書　刑務所

疾病關係 ＼ 身分關係	罪名刑名刑期	殘刑期間	犯數	氏名	年齡
病名					
既往症					

經過日數

症狀	主訴	
	他覺症	
診斷學的檢索	理學的	
	細菌血清學的	
治療及處置	內用藥	
	外科的處置	
保護者ノ有無	豫後	
	食等	滋養劑
備考		

追テ報告書作成ニ就テハ左記事項御注意相成度候

一　報告書ハ本支廳ノ區分ヲ明瞭ニスルコト

二　報告書ノ冒頭ニ休養、非休養ト明記スルコト

三　報告書ノ記載方ハ總テ簡單ニシテ要領ヲ得ル樣ニ努力スルコト

四　第一回報告ハ休養患者一箇月、非休養患者二十五日間引續キ治療ヲ加ヘタル者ニ付報告スルコト但シ結核、癩、精神病、梅毒、淋疾、傳染病ニ就テハ休養二箇月、非休養三箇月經過後報告スルコト

五　同一患者ノ第二回報告ハ前後通算シテ休養三箇月非休養二箇月目ニ又第三回以後ハ休養三箇月間非休養二箇月間經過毎ニ報告スルコト但シ結核、

癩、精神病、梅毒、淋疾、傳麻質斯ニ就テハ第二回報告ハ前後通算シテ休養五箇月非休養四箇月日ニ又第三回以後ハ休養五箇月間非休養四箇月間經過毎ニ報告スルコト

六　前回報告ノ病名ト異リタル併發症ニ基因スル場合ト雖前項日數ニ該當スル時ハ報告スルコト

七　殘刑期間ハ報告時ヲ起算點トシ年齡ハ滿何年ト記載スルコト

八　病名欄ニハ具体的病名殊ニ外科的疾患ニ在リテハ病名ノ下ニ（括弧）ヲ用ヰ罹患部位ノ大体ヲ表スコト

九　經過日數ハ收容後休養患者又ハ非休養患者トシテ處遇シタル時ヨリ起算スルモノニシテ收容前ノ罹病日數ハ之ヲ算入セス、又非休養患者ニシテ休養患者トナリ、休養患者ニシテ非休養患者トナリタル場合資格移動前ノ日數亦同シ

一〇　保護者ハ本人出所後確實ニ保護能力アリヤ否ヲ精査シ單ニ其ノ有無ヲ記載スルコト

一一　豫後ノ判斷ヲ得タル場合ハ其ノ意見ヲ付スルコト例ヘハ「殘刑期間治癒ノ見込ナシ」又ハ「向後何日若ハ何箇月間治療ヲ加フル時ハ漸次輕快ニ趣クモノト認ム」等ト記載スルコト

七　休養患者ノ給與、看護等ニ關スル件

（大正十一年十一月行刑局長通牒行甲第一六二五號）

藥餌ノ精撰、醫療器具ノ整備及醫術ノ進達ハ治病上ニ於ケル一大要件タルハ贅語ヲ俟タスト雖給與看護ノ價値タルヤ更ニ重且大ナルモノアリテ其ノ適否ハ直ニ治療上ノ効果ニ大影響ヲ及ホスモノアルモ亦明白ナル事實ニ有之然ルニ先般之ニ關シ各刑務所ノ實狀ヲ調査スルニ大體ニ於テ藥品ヲ偏重シ給與看護ノ適切ヲ缺クモノアルカ如ク被思料候ニ付テハ將來一層看護ノ點ニ留意シ殊ニ左記事項ニ對シテハ相當ノ改善ヲ加ヘ行刑ノ眞目的及人道上ノ要求ニ適應スルノ處置ヲ講セラルル樣努メラレ度候

左記

一　粥食ハ米粥（重湯ヲ含ム）ト混炊粥トノ二種ニ區分給與シ米粥ニハ內地三等乃至四等米ヲ使用スヘキコト

尙副菜品ハ熱量多キモノヲ給與スル樣考慮スルコト

二　通常食ヲ攝ル休養患者ニ對シテハ單ニ不就業者ナリトノ點ニ拘泥シ他ノ不就業者ト同樣一合二勺ニ限定シテ給與スル向アルモ體質、健康、年齡、就業當時ノ食量等ヲ斟酌シテ適量ヲ給與スヘキコト

三　滋養品ハ各所區區ナルヲ以テ之ヲ牛乳（練乳）鷄卵、葛湯、飴及果實ノ五種ニ限定ス但シ必要上特ニ他ノモノヲ給與シタル場合ハ必ス其ノ旨報告スヘキモノトス而シテ適當ナル時機ニ適量ヲ給與シ苟モ形式ニ流レ給與ノ時機ヲ失スルカ如キコトアルヘカラサルコト

四　病室其ノ他ノ設備ヲ改善シ殊ニ採光、換氣、採暖方法ニハ一段ノ考慮ヲ費スヘキコト

五　病者重症ニ陷リタルトキハ直ニ所長ニ報告シテ取扱上遺漏ナキヲ期スルト共ニ症狀ニ依リテハ必ス看病夫ヲ專屬セシメ又ハ之ヲシテ時時見廻リ注意セシメ看護ノ周到ヲ期スヘク尙一面相當ノ規定ヲ設ケテ看病夫ニ看護上ノ素養ヲ與ヘ其ノ常置人員ハ明治三十五年六月監甲第三七七號通牒ニ依據シ必要アル場合ニ限リ臨時增員スヘキコト

八　收容者ニ對スル齒科治療ニ關スル件

（大正十二年十一月行刑局長通牒行甲第一七一三號）

收容者ニ對スル齒科治療ハ口腔衛生上忽ニシ難キ所ナルモ近來較モスレハ之カ爲ニ多額ノ携有金ヲ消費シ殊ニ甚シキハ作業賞與金ノ全部ヲ充當シ尙且不足ヲ告ケタル事例モ有之候固ヨリ症狀ノ輕重治療ノ難易等ニ依リ出費一律ナラスト雖之レ概シテ收容者ノ通有性タル一種ノ衒氣ヨリ殊更貴金屬ヲ撰擇シタル等ノ事情ニ胚因スル場合多キ樣認メラレ候若シ斯ノ如キ傾向ヲ默許スルニ於テハ收容者敎化上憂フヘキ弊風ヲ助長シ將來容易ニ矯メ難キ惡習ヲ貽スコトト可相成候條向後齒牙疾病ノ治療ヲ乞フ者アラハ其ノ症狀ヲ嚴密ニ診査シ口腔衛生上必要アリト認メタル場合ニ限リ左記條件內ニ於テ治療セラレ度候

左記

一　齒痛ハ可及的速ニ治療ヲ爲スコト

二　充塡ハ護謨、セメント又ハ銀ヲ用ウルコト

三　齒冠ハ銀タルコト

四　義齒ハ磁製タルコト

九　齒科醫師ノ收容者治療ニ關スル

件

（大正十三年五月行刑局長通牒行甲第六一五號）

收容者ノ歯科治療ニ就テハ口腔衛生上ノ見地ヨリ常ニ御留意相成候義トハ存シ候得共從來之カ治療ニ關シ各刑務所ニ於テ其ノ方法ヲ區區ニ致シ居リ候樣見受ケラレ候斯クテハ行刑ノ公平ヲ維持スル上ニ於テノミナラス直接治療上ニ於テモ種種ノ障碍ヲ招致スル樣思料セラレ候條將來ハ左記ノ方法ニ依リ御取扱相成度候

左　記

一　歯科醫師ノ治療ヲ乞フ者アル時ハ保健技師（技手）ニ於テ充塡、鉸筷、義歯、歯冠繃帶及加工、歯列矯正並口蓋補綴ノ技術ヲ要スルモノト認メタル場合ニ限リ之ヲ許スコト

二　前項ニ依リ許可セラレタル歯科ノ治療ハ賃メ有給又ハ無給ニテ囑託シタル歯科醫師ヲシテ之ヲ行ハシムルコト但シ囑託手當等ハ其ノ處配賦豫算内ニ於テ支辨スルコト

三　歯科治療代ハ第一領置金、第二作業賞與金ノ順位ニヨリ之ヲ支辨スルコト但シ特殊ノ事情アルモノニシテ萬不得止場合ニ限リ官費ニテ支辨シ得ルコト

一〇　收容者ノ歯科治療ニ金材ヲ使用シ得ルノ件

（大正十五年二月行刑局長通牒行甲第二五〇號）

收容者ノ歯科治療上注意スヘキ事項ニ就テハ兼ニ行甲第一七一三號ヲ以テ通牒シ置及候通ナルモ治療上金材ノ使用ヲ餘儀ナクセラルル場合（例ヘハ鉤ニ金材ヲ使用スルノ必要アル特殊ノ場合ノ如キ）ニ於テハ別ニ認可ヲ要セス金材ヲ使用セラレ差支無之候

一一　歯科診療ノ取扱ニ關スル件

（昭和二年七月行刑局長通牒小倉、長崎兩刑務所長宛行甲第九〇八號）

今般貴所ニ囑託歯科醫師ヲ配置相成候ニ付テハ收容者ニ對スル歯科醫師ノ診療ハ大正十二年十一月行甲第一七一三號、同十三年五月第六一五號及同十五年二月同第二五〇號通牒ノ趣旨ヲ斟酌シ行ハルル外概ネ左記ニ依リ御取扱相成度候

左　記

一　歯痛ノ治療並護謨、セメント、銀ノ充塡ニ要スル材料及器械ハ官費ニテ支辨スルコト

二　其ノ他ノ歯科醫師ノ特技ヲ要スル治療例ヘハ義歯又ハ鉸筷歯等ノ如キモノハ歯科醫師ヨリ實費ニテ提供セシメ收容者ノ自辨タルコト

三　義歯ノ整形等特ニ加工技術ヲ要スルモノハ囑託歯科醫師ノ自宅ニテ爲スコト仍右ニ要スル材料器械ハ囑託歯科醫師ニ於テ自己ノモノヲ使用スルコト

四　歯科治療ニ要スル材料及器械ハ衛生材料取扱規則ニ基キ整備シ尙他ニ特ニ必要ナル材料及器械ハ認可ヲ得テ補充スルコト

五　囑託歯科醫師ノ治療ハ通常之ヲ隔日ニ行フコト

一二　收容者ノ診療ニ關シ注意ノ件

（大正十三年十月行刑局長通牒行甲第一六〇三號）

收容者ノ診療ニ就テハ常ニ遺憾ナキヲ期セラレ候義トハ存候得共其ノ重大犯人又ハ主義者等ノ診療ニ關シ往往物議ヲ醸シ爲ニ行刑ノ威信ニモ影響スル所不尠候ニ就テハ爾今收容者ニ對シテハ一層此ノ點ニ留意スルノ外診療ニ關スル諸帳簿殊ニ健康診斷簿、病床日誌、調治簿、身分帳簿等ノ記載方ニ付テモ遺憾ナキヲ期セラレ度候

一三　同上ノ件

（大正十二年三月行刑局長通牒行甲第二八七號）

拘禁者ノ疾病診療ニ關シテハ特ニ御留意相成居候義トハ存候得共客年五月以降十月迄ノ間ニ於ケル各刑務所ノ行刑月報、衛生狀態表ニ基ク診療概況比較表ニ依レハ幾多ノ刑務所ニ於ケル診察、不投藥、詐病、備藥投與等ノ人員ハ社會一般人ニ比シ頗ル適切ヲ缺クモノ有之樣被認候斯クテハ療養ノ的確ヲ誤ル虞アルノミナラス拘禁者ヲシテ其ノ身体ニ却テ不良ノ影響ヲ齎シメ或ハ作業ヲ緊張セサルノ手段又ハ醫藥ヲ濫用スルノ弊習ヲ與フルコトニ相成候條常時斯ノ如キ弊習ヲ防止スルト共ニ拘禁者及一般刑務官吏ニ對シテモ受診ノ心得及其ノ手續並患者處遇ノ方法等ニ付貴官ヨリ篤ト諭告ヲ

加へ過誤ナキヲ期セラレ度別表爲參考及送付候

（別表省略）

一四　刑執行停止ニ關シ診斷上注意ノ件

（明治四十五年四月監獄局長通牒監甲第四〇七號）

【監獄醫】ハ在監者ノ保健診療ニ關シ職責上愼重ノ注意ヲ要スルハ論ヲ俟タサル儀ニ有之特ニ刑ノ執行停止ニ關シ受刑者ハ心神喪失ノ狀態又ハ刑ノ執行ニ因リ生命ヲ保ツコト能ハサル虞アル狀態ニ在ルモノト診斷スルニハ入監前後ノ健康狀態病症ノ經過等ヲ參酌シテ愼重ナル診査ヲ爲シ萬一ノ遺算ナキヲ期スヘキ儀ニ候得共近時【監獄醫】ノ診斷ニ關シ物議ヲ生シタル事例有之候ニ付自今刑ノ執行停止ニ關シ診斷書ヲ作成スルニハ其ノ監獄ニ在ル【監獄醫】全員ノ一致シタル診斷ノ結果ニ依ルヘク【監獄醫】一人ニ過キサル監獄ニ於テハ監外醫ノ診定ヲ徵スヘク尙典獄ハ親シク受刑者ノ健康狀態ヲ鑑察シ【監獄醫】數名アル場合ト雖必要ト認タルトキハ【監獄醫】ノ診斷ヲ求ムル等病狀ニ關シ嚴密ニ注意監督候樣致度

一五　刑執行停止ニ關スル診斷書作成方ノ件

（大正十二年二月行刑局長通牒行甲第二五三號）

明治四十五年四月監甲第四〇七號ヲ以テ刑ノ執行停止ニ關スル診斷書作成ニ當リテハ其ノ刑務所ニ在ル刑務醫官全員ノ一致シタル診斷ニ依ルヘク若シ刑務醫官一人ニ過キサル場合ハ所外醫師ノ診定ヲモ徵スヘキ旨及通牒置候處爾今病狀等ニ因リ其ノ必要ナキモノト認メタル時ハ刑務醫官一人ヲシテ診斷書ヲ作成セシムルモ差支無之候

一六　精神狀態鑑定ノ爲刑事被告人ニ飲酒セシメ得ル件

（大正三年七月京都監獄典獄會監發第二三九九號）

當監獄刑事被告人（某）殺人被告事件ニ付精神狀態鑑定

上必要ノ趣ヲ以テ大阪控訴院檢事ヨリ別紙寫ノ通申越候處右ハ監獄法施行規則第九十六條ニ依リ給養トシテハ用ウルコトヲ許サレサルモ鑑定上止ムヲ得サル場合ハ差支ナキ義ニ候哉至急何分ノ御回示相成度

（大正三年七月監獄局長通牒監丙第六四九號）

右ハ精神狀態鑑定上特ニ其ノ必要アル場合ハ無據義トハ存候ヘ共爲ニ紀律ヲ紊ルカ如キコト無之樣其ノ取締ニ就テハ格段ノ御配慮相成候樣致度

一七　收容者絕食セシ場合ノ處置ニ關スル件

（大正十五年十一月行刑局長依命通牒行甲第一七九三號）

從來刑務所ニ於ケル絕食ハ概ネ變質者若ハ激情性收容者ノ企行スル所ニ係リ多クハ一時的感情ノ奔逸興奮ニ依ルモノニシテ容易ニ其ノ非ヲ悟リ間モナク常態ニ復スルヲ通例トシタルモ最近ニ於テハ一種ノ奇矯的實名行爲ニ出テ或ハ刑務當局ニ對スル根强キ反抗心ニ崩シ往往長期ニ亙リ絕食ヲ企ツルモノアリテ之カ取扱ニ付テモ前者ノ如ク簡單ナル能ハス自然刑務所ヨリ之カ處置ニ付キ問合セ越ス向モ有之候處如此行爲ハ啻ニ行刑ノ趣旨ニ反シ且所內ノ紀律維持上ヨリスルモ放置ヲ許ササル處ナルノミナラス絕食ノ永續ハ本人ノ健康ヲ害シ惹テ其ノ生命ヲ危殆ナラシムルニ至ルヲ以テ將來如此事實發生ノ場合ニハ大體左記ニ依リ御取扱相成度

左　記

一　先ツ以テ所長、醫師、敎誨師等ヨリ懇篤ニ諭示、訓戒ヲ加ヘ其ノ非違ヲ悟ラシメ速ニ之カ中止ヲ爲サシムルコトニ努ムルコト

二　右訓諭ヲ肯セス强テ絕食ヲ企行スルトキハ相當ノ懲罰處分ヲ爲スコト

三　若シ長キニ亘リ絕食ヲ續行スルモノアルトキハ其ノ精神狀態、體力（體重、呼吸數、脈數、血壓等）ヲ診査シ機宜ノ方法ヲ採ルコト例ヘハ之ヲ準病者トシテ病舍ニ收容シ先ツ送口給養、鼻道給養等ノ方法ニ依リ榮養ヲ供給シ不得已場合ニハ滋養灌腸、皮下注射、靜脈注射ヲ施ス等精神病者ノ絕食ニ對スル如ク一般人工榮養ヲ行ヒ專ラ體力保持ノ爲最善ノ手段ヲ講シ此ノ間ニ在リテモ適當ノ機會ヲ捕ヘ訓戒ヲ加ヘ非違ヲ改メシムルコト

四　受刑者五日以上絶食繼續ノ場合ニハ之ニ對スル處置其ノ他顚末況狀ニ付速ニ當局ニ報告シ刑事被告人又ハ被疑者絶食ヲ始メタルトキハ速ニ當局及檢事ニ報告スルコト

一八　收容者ノ醫療上ニ付注意ノ件

（指　示）（大正十五年刑務所長會議ニ於テ）

一　衛生材料ノ配給ハ其ノ品質ノ精選セラルルト統一セラルル點ニ於テ收容者ノ治療上ニ一大貢獻ヲ齎スモノタルノミナラス刑務費算上ニモ利スル所尠カラス然レトモ目下豫算緊縮ノ折柄衛生材料ノ設備定數ニヲ餓カニ全部充實シ得サルヲ以テ緊要ナル方面ヨリ逐年改善ヲ加ヘタキヲ以テ先ツ保健技師ヲ督勵シ精選セラレタル衛生材料ヲ活用シテ收容者ノ治病上一層努力セラレタシ

一　受刑者移送等ノ場合ハ保健技師又ハ保健技手ニ於テ健康ヲ診査シ支障ナキ場合ニノミ移送スヘキ規定ナルニ拘ラス移送上差支アル病者、老者、不具ノ者等ヲ移送セシメタル結果移送後短期間ノ内ニ不良ナル轉歸ヲ見ルモノ往往アリ人道上看過スヘカラサルヲ以テ注意セラレタシ

一　患者ノ治療ハ診斷ノ明確ト藥劑ノ適當ヲ期スヘキコトハ勿論ナルモ尙看護ノ重要ナルコトモ冒ヲ俟タサル所ナリ而シテ藥劑以外ニ特ニ留意スヘキハ患者ノ糧食ノ問題ナリトス然ルニ刑務所ニ於テハ多年ノ因襲ニ囚ハレテ患者カ不就業者ナルノ故ヲ以テ之カ糧食ニ就テハ殆ト顧慮セラレ居ラサルモノノ如シ獄立表ヲ見ルニ病者ニ對シ單ニ健康者ト同一菜ヲ半減シテ支給シ若ハ胃腸病患者ニ對シテ多量ノ普通食ヲ支給セルカ如キ其ノ一例ナリトス斯クテハ如何ニ適當ナル藥劑ヲ使用シ又看護ニ意ヲ用ウト雖患者ノ治癒ヲ速ナラシムルコト能ハサルヘシ將來ハ病者ニ對シ特別ノ注意ヲ拂ヒ出來得ル限リ患者ノ食慾ヲ興起セシメ榮養ノ回復ヲ計リ以テ疾病除去ノ一助トセラルル等細心注意セラレタシ

一　患者治療日數經過報告ヲ見ルニ壯年者ノ單純ナル慢性胃腸加答兒ニシテ治療日數ノ著シク長時ニ亙レルモノアリ此ハ診斷ノ適正ナラサルカ若ハ治療方法ノ適當ナラサルカニ起因スルモノト認ム此ノ種ノ患者ニ就テハ胃腸ニ對スル各種ノ診斷學的檢索ヲ充分ニ行ヒ以テ診斷ヲ明確ニシテ依テ適當ナル治療方法ヲ採ラルルコトニ注意セラレタク又痔ノ患者等ニシテ經過日數著シク長キモノアリ此ハ多ク對症的ノ一時治療法ニ依ル結果ト認メラル依テ此ノ種患者ニ對シテハ外科的手術又ハ注射療法ヲ試ミテ原因ヲ除去シ治療日數ノ短縮ニ努力セラレタシ

一　患者治療日數記載方ハ簡ニシテ要ヲ得ルヲ以テ趣旨トスルニ往往文意不明ノモノアリ又相當記載欄ノ記入ナキモノアリ爲ニ徒ニ照會往復ヲ累ルノ煩アリ注意セラレタシ

一　患者治療日數報告書ニ記載スヘキ病名ニ付テハ疾病分類ノ小分類ニ依リ報告スヘキニ症候欄ニ記載スヘキ症狀ヲ其ノ傳病名トナセルモノアリ注意セラレタシ

一九　診療上注意ノ件

（注　意）（昭和一一年刑務所長會議ニ於テ）

醫術ノ分業化ニ伴ヒ診療事業ノ十全ヲ期スルニハ各專門醫ヲ配置スルノ要アルモ今日直ニ之ヲ實現スルコトハ困難ナル事情アリ然リト雖例ヘハ脫肛、痔核、痔瘻又ハ眼球疾患等ニ於テ必要ナル手術ヲ行フニ於テハ速ニ治癒シ得ルニ拘ラス徒ニ準病者ノ取扱等ヲ爲セルニ過キサル向尠カラス斯ル場合ニハ必要ニ應シ外科、眼科等ノ專門醫ヲ招聘シ又ハ受診ノ爲病院等ニ護送シ以テ疾病ノ治療ヲ速カナラシムル樣注意セラレムコトヲ望ム

二〇　精神病者ノ診療竝取扱方ノ件

（注　意）（明治四十四年典獄會議ニ於テ）

在監者ノ精神ニ異狀ヲ呈シタル場合ハ醫術上ノ診査ハ勿論特別ニ動靜ヲ視察シテ常ニ其ノ經過ヲ明ニシ又ハ遺傳ノ有無入監前ノ動作等相當ノ調査ヲ遂ケ著著其ノ眞僞如何ヲ鑑別スヘキ筈ナルニ疑問ノ儘獨房ニ拘禁シ自然ノ經過ニ放任スル哉ノ憾アリ其ノ他心神ノ喪失ニ因リ執行ノ目的ヲ達セス或ハ刑執行ノ爲生命ヲ保ツ能ハサル狀態ニアルモノト雖刑ノ執行ヲ停止スルノ手續ヲ等閑ニ附スル向ナキニアラス將來注意ヲ要ス

二一　定期健康診斷勵行方ノ件

（注　意）（大正十年典獄會議ニ於テ）

監獄法施行規則第百七條ノ定期健康診斷ハ閑却セラルルノ嫌ヒアリ之カ勵行ヲ要ス

二二　刑務所醫師以外ノ者ニ治療セシムルハ特殊ノ手術ヲ要スル場合ニ限ル件

（明治四十一年典獄會議ニ於テ）

（注　意）

監獄法及同施行規則ノ規定ニ因リ【監獄醫】ニ非サル醫師ヲシテ治療セシムルニハ特殊ノ手術ヲ必要トスル場合ニ限ルヘシ若シ必要ニ因リ補助セシムルコトアルモ手術上ノ責任ハ勿論【監獄醫】之ヲ負フヘキモノトス

二三　治療ノ爲刑務所外醫師宅ヘ護送シ得サル件

（明治四十年八月松江監獄典獄會議監發第一二〇四號）

拘禁中ノ刑事被告人ニシテ眼病ニ罹リ居ルモノアルモ【監獄醫】中專門家ナキヲ以テ市中ノ專門醫ニ治療ヲ需メ來監診察セシモ監獄ニハ完全ナル暗室其ノ他ノ設備ナキノミナラス助手等ニモ差支アルヲ以テ看守ヲシテ醫師宅ヘ押送（隔日位）治療方豫審判事ヨリ交渉アリシモ右ノ如キハ別ニ明文ナキモ囚人及刑事被告人押送規則第一條但書ノ特別ノ事情ト看做シ看守ヲシテ押送セシメ差支無之候哉乍御手數電報ヲ以テ御指示相煩度

（明治四十年八月監獄局總務課長回答監丙第八五一號）

刑事被告人療養ノ爲醫師宅ヘ押送ノ件穩當ナラスト思考ス

二四　大學病院其ノ他特別ノ設備アル專門醫ヘ診療ノ爲受刑者護送シ得ル件

（昭和二年七月行刑局長通牒行丙第一二六八號）

別紙甲號ノ申請ニ對シ乙號ノ通依命回答致置候條爲參考及御送付候

（昭和二年七月小菅刑務所長中繼小刑發第五三四號）

當所ノ受刑者ニシテ入所前自殺ヲ企テ氣管甲狀軟骨下部ヲ切開シ氣管狹窄ノ爲カニールヲ使用シ之ヲ除去スル能ハサルモノアリ又ハ手足ノ捻挫或ハ骨折等ニ因リ治療ノ結果縮著セサル等ノ爲レントゲン使用方ニ就キ自費ヲ以テ治療ヲ願出ツルモノアリ右孰レモ其ノ必要ヲ認ムルモ完全ナル設備ナキニ因リ戒護取締上差支ナキ限リ看守ヲシテ大學病院其ノ他適當ナル專門醫ニ連行治療ヲ受ケシメ度右ニテ差支無之候哉

（昭和二年七月行刑局長依命回答行丙第一二六八號）

右ハ保健技師ノ診査ニ依リ止ムヲ得サル事情アルトキハ即日歸所スル場合ニ限リ大學病院又ハ其ノ他適當ナル專門醫院ニ護送シ診療ヲ受ケシメ差支無之候

追テ右ノ場合ハ其ノ都度報告相成度候

二五　密賣淫者健康診斷ノ結果ヲ通牒スル件

（明治三十三年十二月監獄局長通牒監丙第四二三號）

密賣淫ノ罪ヲ犯シ監獄ニ拘禁セラルル者ニ對シ其ノ監獄ニ於テ健康診斷ヲ施シタル結果ヲ警察官廳ニ通知スルコトハ行政執行法第三條ノ適用上必要ナル事項ニ候旨其ノ筋ヨリ協議ノ次第有之候條右ノ旨趣ニ依リ今後密賣淫者入監ノ都度其ノ健康診斷ヲ行ヒタル結果ヲ監獄所在地ノ警察官署ニ通知セラルル樣御取計相成度

（參　照）

行政執行法（抄錄）

第三條　當該行政官廳ハ密賣淫犯者若ハ其ノ前科者ニシテ尚密賣淫ノ常習アル者ニ對シ其ノ健康ヲ診斷シ若ハ指定シタル醫師ノ檢診ヲ受ケシメ傳染性疾患ニ罹リ必要アリト認ムルトキハ病院ニ入ラシメ又ハ指定シタル醫師ノ治療ヲ受ケシメ治療ニ至ル迄指定シタル場所ニ居住セシメ其ノ外出ヲ禁止スルコトヲ得

前項療養ノ費用ハ本人又ハ媒合者ノ負擔トス但シ本人又ハ媒合者ニ於テ費用ヲ負擔スルノ資力ナシト認ムルトキハ廳府縣警察費ヲ以テ支辨スヘシ

風俗上ノ取締ヲ要スル業ヲ爲ス者ノ居住其ノ他ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

二六　結核患者ヲ戒護スル看守ノ健

康診斷ヲ行フ件

（明治四十年典獄會議ニ於テ）

（注　意）

結核患者收容監ノ戒護ニ從事セシムル看守ハ配置前ニ於テ【監獄醫】ヲシテ健康診斷ヲ行ヒ其ノ病徵ノ有無ヲ證明シ置カシムルコトヲ要ス

第三節　死　亡

一　變死者アリタルトキ警察官ノ檢視ヲ受クル件

（明治十三年二月太政官達第十四號）

明治十二年三月第十二號達左ノ通改正候條此旨相達候事

官廳內並ニ官有ノ工場及船艦等ニテ變死ニ係ル者及重傷死ニ至ル者ハ近傍ノ警察署ヘ報知シ檢視ヲ受クヘシ

但軍人軍屬ニシテ陸海軍官限リ處分ヲ了シ警察官ノ檢視ヲ要セサル分及ヒ遠洋航海中ニ係ル者ハ此限ニアラス

二　變死者アリタル場合檢事ヘ通報方ノ件

（大正十三年二月行刑局長通牒甲第一八五號）

（本文ハ關係法令ニ關スル通牒ノ部ニ掲出セリ）

三　收容外國人ノ危篤又ハ死亡セルトキ領事ニ通知方ノ件

（明治三十八年九月監獄局長通牒監甲第七〇九號）

監獄拘禁ノ外國人シテ疾病ニ罹リ危篤又ハ死亡セルトキハ【監獄則施行細則】ノ規定ニ依リ本邦在留ノ親族ニ通知セラルヘキハ勿論ニ候得共親屬ナキトキハ其ノ所屬國籍ノ領事ニ通知セラレ候樣致度

四　刑務所醫師ノ死亡診斷書檢案書等ノ記載事項及其ノ樣式

（明治三十四年一月司法省訓令第一號）

【監獄醫】ノ作爲スヘキ死亡診斷書死體檢案書並【監獄醫】又ハ產婆ノ在監人ニ對シ作爲スヘキ死產證書死胎檢案書ノ記載事項及其樣式ハ明治三十三年九月內務省令第四十一號同年十月訓令第二十八號ノ規定ニ準據セシメラルヘシ

但死亡者ノ職業及死產ニ於ケル母ノ職業ハ囚人、刑事被告人、【別房留置人、懲治人】携帶乳兒ノ別及就役者ハ其死前ニ執リタル作業ノ名ヲ非就役者ハ其非就役ナル旨ヲ記載シ死亡者家計ノ主ナル職業ハ之ヲ記載スルニ及ハス

（明治三十三年九月內務省令第一號）

（參　照）

第一條　醫師ハ其ノ作爲スヘキ死亡診斷書又ハ死體檢案書ニ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

一　死亡者ノ氏名、其ノ職業及其ノ出生ノ年月日

二　病死者ニ在テハ其ノ病名、自殺者ニ在テハ其ノ手段以外ノ變死者及中毒者ニ在テハ其ノ種類

三　發病ノ年月日

四　死亡ノ年月日時及其ノ場所

第二條　醫師及產婆ハ其ノ作爲スヘキ死產證書又ハ死胎檢案書ニ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

一　父ノ氏名、職業、私生子ニ在テハ母ノ氏名、職業及父母ノ出生ノ年月日

二　死胎ノ嫡出子庶子私生子別及男女別

三　姙娠ノ月數

四　分娩ノ年月日時及其ノ場所

附則

本令ハ明治三十四年一月一日ヨリ施行ス

（明治三十三年十月內務省訓令第二十八號）

廳府縣

本年九月當省令第四十一號ヲ以テ規定シタル醫師ノ作爲スヘキ死亡診斷書、死體檢案書及醫師又ハ產婆ノ作爲スヘキ死產證書死胎檢案書ノ樣式並其記載方ハ左ノ各項ニ準據セシメラルヘシ

第一　死亡診斷書、死體檢案書

樣式

死亡診斷書（死體檢案書）

一　氏名

二　男女ノ別
三　出生ノ年月日
四　職業（死亡者ノ職業家計ノ主ナル職業）
五　病死、自殺其他ノ變死、中毒ノ別
六　病名（自殺者ニ在テハ手段自殺以外ノ變死者及中毒者ニ在テハ種類）
七　發病ノ年月日（變死者自殺者等ニ在テハ之ヲ除ク）
八　死亡ノ年月日時
九　死亡ノ場所

右證明（檢案）候也

年　月　日　　住所
　　醫師何　某　印

記載方

一　戸籍上ノ氏名ヲ記スヘシ自殺者變死者等ニ在テ若シ氏名明カナラサルトキハ不詳ト記スヘシ

二　經久ノ死體ニシテ男女ノ區別明瞭ナラサルトキハ不詳ト記スヘシ

三　自殺者變死者等ニシテ出生ノ年月日明瞭ナラサルトキハ推定年齢何歳ト記シ若シ推定シ能ハサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ

四　死亡者家計ノ主働者ナル場合ニ於テハ死亡者ノ職業ノミヲ記シ死亡者若シ幼者老者婦女等ニシテ一定ノ職素ナキ場合ニ於テハ家計ノ主ナル職業ヲ記シ死亡者ノ職業無シト記スヘシ又死亡者一定ノ職業アルモ他ニ家計ノ主働者アル場合ニ於テハ死亡者ノ職業ト家計ノ主ナル職業トヲ併記スヘシ（總テ職業名ハ商又ハ工等單一ノ汎稱ニ據ラスシテ何工等成ルヘク細密ニ記スヘシ）

自殺者變死者等ニ在テ其職業明カナラサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ

五　病死ナルヤ自殺ナルヤ若クハ自殺以外ノ變死ナルヤ中毒ナルヤノ別ヲ記スヘシ

六　病死ノ場合ニ於テハ其死因トナリタル病名ノ外何等ノ事項ヲモ記スヘカラス同時ニ二種以上ノ疾病ニ侵サレ死亡シタル者ニシテ一ノ原病アリテ他ハ續發病若クハ胎後病ナルトキハ其原病名ノミヲ記シ又各種獨立ノ疾病ナルトキハ主トシテ死亡ノ原因トナリタル病名ノミヲ記スヘシ若シ以上ノ區別ヲ爲シ能ハサルトキハ各種ノ病名ヲ併記スヘシ

全ク死因タル病名ヲ診定シ能ハサルトキハ不詳ト記スヘシ自殺者ニ在テハ其自殺ノ手段例之ハ縊死刄傷入水等ノ別ヲ記スヘシ

自殺以外ノ變死者及中毒者ニ在テハ其種類例之ハ溺死、壓死、燒死、他殺、河豚中毒、アルコール中毒等ノ別ヲ記スヘシ

七　病死者ニ在テハ死因トナリタル疾病ノ發病年月日ヲ記スヘシ若シ明瞭ナラサルトキハ推定何年何月何日ト記スヘシ又全ク推定シ能ハサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ

八　病死、自殺、變死、中毒ニ拘ラス死亡ノ年月日時ヲ記入スヘシ若シ自殺者、變死者等ニ在テ死亡ノ時明瞭ナラサルトキハ推定セル年月日時ヲ記入スヘシ此場合ニハ推定ノ二字ヲ冠セシムルヲ要ス

九　死亡ノ場所ハ郡市區町村大字名及番地（番戸番屋數）ヲ記スヘシ若シ自殺者、變死者等ニシテ漂著セル死體ナルトキハ其漂著シタル場所ヲ記スヘシ此場合ニハ其下ニ漂著ト記スルヲ要ス

第二　死產證書、死胎檢案書

樣式

死產證書（死胎、檢案書）

一　父ノ氏名（私生子ノ場合ニ在テハ母ノ氏名）
二　父ノ出生ノ年月日（私生子ノ場合ニ在テハ之ヲ除ク）
三　母ノ出生ノ年月日
四　父ノ職業（私生子ノ場合ニ在テハ母ノ職業）
五　姙娠ノ月數
六　分娩ノ年月日時

七　分娩ノ場所

八　死胎ノ男女ノ別

九　死胎ノ嫡出子、庶子、私生子ノ別

右證明(検案)候也

年　月　日　　住　　所

醫師(産婆)　何　　某　印

記載方

一　死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ氏名ヲ記スヘシ若シ私生子ナルトキハ其母ノ氏名ヲ記スヘシ

二　死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ出生ノ年月日ヲ記スヘシ

三　死胎ノ何タルニ拘ラス其母ノ出生ノ年月日ヲ記スヘシ

四　死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ職業ヲ記スヘシ若シ私生子ナルトキハ其母ノ職業ヲ記スヘシ總テ職業名ハ商又ハ工等單一ノ職稱ニ據ラスシテ何商又ハ何工等成ルヘク細密ニ記スヘシ

五　姙娠ノ月數ハ受孕ヨリ分娩ニ至ル姙娠ノ經過ニシテ死胎ハ約四週日ヲ一月ト做シタル第幾月日ニ該當スルカヲ記スヘシ

六　分娩ノ年月日時ヲ記スヘシ若シ明瞭ナラサルトキハ推定シタル年月日時ヲ記スヘシ此場合ニハ推定ノ二字ヲ冠セシムルヲ要ス

七　分娩ノ場所ハ郡市區町村大字名及番地(番戸番屋數)ヲ記スヘシ

八　死胎ノ男女孰レニ屬スルカヲ記スヘシ若シ鬼胎等ニ在テ男女ノ區別ヲ爲シ能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ添テ不詳ト記スヘシ

九　死胎ハ嫡出子ナルカ若クハ私生子ナルカノ別ヲ記スヘシ

五　死亡帳樣式

(明治四十一年八月司法省訓令第五號)

共犯名簿、接見簿及死亡帳樣式別紙ノ通改正シ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ別紙ハ別ニ之ヲ頒ツ

(共犯名簿ハ收容拘禁ノ部ニ、接見簿ハ接見及信書ノ部ニ掲出セリ)

(別紙)

死亡帳

番號	本籍	府縣 郡市 町村 番地	
	刑事被告人 刑名刑期	懲役一年	
第一號	【勞役場留置期】		
	氏名 生年月日	何	某
罹病年月日	【明治】 年 月 日	【明治】 年 月 日生	
死亡年月日	【明治】 年 月 日		

病名	何病
病歴及死因	既往症入監前後ノ健康狀態及病因其他病症ノ性質經過等ヲ詳記ス 主任【監獄醫】氏名
死體遺骨ノ交付假葬解剖其他死體遺骨ノ處分顯末及年月日、死體遺骨受領者ノ住所氏名緣故並ニ受領印	【明治】年月日假葬 【明治】年月日交付 何縣何郡何村番地 何 某印
典獄遺體檢視ノ年月日時	【明治】年月日時分
自殺其他變死者	【明治】年月日時縊死

死體檢視ノ年月日時檢視者及立會者ノ官職氏名並ニ檢視ノ結果摘要	檢視者警部何某 立會者看守長何某 （檢視ノ結果）
備考	

六　收容死亡者ノ埋葬ニハ【區戸】長ノ認許證ヲ要セサル件

（明治十八年二月神奈川縣伺）

墓地及ヒ埋葬取締規則中疑義ノ廉伺十六日付

明治十七年第二十五號布達墓地及ヒ埋葬取締第四條ハ在監人ノ死亡シ監署ニ於テ假葬スルハ勿論死刑者ヲ埋葬スル時ト雖モ【區戸】長ノ認許證ヲ得サルヘカラサル義ニ候哉

右相伺候條至急何分ノ御指揮相成度候也

（明治十八年二月内務省指令）

書面伺之趣區戸長認許證ヲ得ルニ及ハス候事

七　同上ノ件

（明治二十年四月警視廳伺）

明治十七年十月第二十五號布達墓地及ビ埋葬取締規則第四條ハ在監人ノ死屍假埋葬ノ儀モ【區戸】長ノ認許證ヲ得ヘキモノノ如ク相見候處明治十八年二月十六日付神奈川縣伺ニ對シ同月二十五日付ヲ以テ【區戸】長ノ認許證ヲ得ルニ及ハサル旨御指令有之ニ付テハ當廳ニ於テモ監署ニ於テ假埋葬スルモノニ限リ【區戸】長ノ認許證ヲ要セス直ニ埋葬候樣致度此段相伺候

（明治二十年五月　内務省指令）

伺ノ趣【區戸】長ノ認許證ヲ得ルニ及ハサル義ト可心得事

但死者ノ屬籍氏名等墓地管理者ニ通知シ置クヘシ

八　死體解剖送付ノ處分ニ關スル手續ノ件

（大正十一年九月　行刑局長通牒　行甲一四二九號）

死刑確定囚及受刑中瀕死ノ病者ニ對シ死後解剖送付ノ處分ニ付法規上豫メ本人ノ諾否ヲ確ムルヲ要スト爲ス

向アルカ如シト雖斯クテハ徒ニ本人ノ感情傷害トナリ又ハ病勢ヲ不良ニ導クコト無シトセス人道上考慮ヲ要スヘキハ勿論右ハ本來無用ノ手續ニ有之唯タ本人ヨリ解剖ヲ肯セサル意思ヲ自發的ニ申出タルトキハ死體ヲ學校病院等ニ送付シテ解剖ニ付スルヲ得サル義ト御承知相成度候

九　受刑者ノ死體ヲ解剖ノ爲送付スヘキ病院及學校指定ノ件

（大正十一年六月　司法省告示第二十五號）

改正　昭和二年第一五號、

監獄法施行規則第百七十九條ニ依リ左記ノ病院及學校ヲ指定ス

東京帝國大學醫學部及附屬醫院
京都帝國大學醫學部及附屬醫院
東北帝國大學醫學部及附屬醫院
九州帝國大學醫學部及附屬醫院
北海道帝國大學醫學部及附屬醫院
新潟醫科大學及附屬醫院
岡山醫科大學及附屬醫院
千葉醫科大學及附屬醫院
金澤醫科大學及附屬醫院
長崎醫科大學及附屬醫院
京都府立醫科大學及附屬醫院
大阪醫科大學及附屬醫院
愛知醫科大學及附屬醫院
熊本醫科大學及附屬醫院
私立慶應義塾大學醫學部及附屬病院
私立東京慈惠會大學
私立日本醫科大學
私立日本大學醫學科

一〇　解剖ニ供スル死體輸送方ノ件

（大正五年七月　鐵道院達第七八二號）

帝國大學又ハ醫學專門學校ニ於テ解剖ニ供スル死體ハ左記各項ニ依リ輸送方取計フヘシ

明治四十三年六月達第五〇七號ハ之ヲ廢止ス

一　容器ハ一寸板ニテ造リ內部ヲ亞鉛板張トシ死體ハ、防水布ヲ以テ密包シ臭氣又ハ汚汁等漏洩ノ虞ナキ樣之ヲ收容スルモノトス

二　容器表面ニハ何何大學又ハ醫學專門學校ト記載スルモノトス

三　死體ノ託送ヲ爲サムトスル大學又ハ醫學專門學校ニ於テハ發著驛長ノ同意ヲ得テ驛附近ノ運送店ヲ指定シ該運送店ヲシテ託送積込又ハ積卸引取等ヲ爲サシムルモノトス

四　死體ノ託送ヲ爲サムトスル大學又ハ醫學專門學校ニ於テハ其ノ都度左ノ方法中ノ一ニ依リ之ヲ證明スルモノトス

イ　當該大學又ハ醫學專門學校ヨリ豫メ著驛ニ對シ發驛名及死體ノ個數ヲ記載セシ證明書ヲ提出シ著驛ヨリ此ノ旨發驛ニ通報スルコト

ロ　當該大學又ハ醫學專門學校ヨリ發驛ニ對シ證明書ヲ提出スルカ又ハ電報ヲ以テ同樣ノ申込ヲ爲スコト

五　運賃ハ大小荷物扱トモ總テ後拂トス

六　大貨物扱ノ場合ニ在リテ航路ヲ介シタルトキハ連絡扱ヲ爲ササルモノトス

七　本扱ニ依ル死體ニハ附添人ヲ省略スルコトヲ得ルモノトス

（參照）（明治四十三年六月鐵道院總裁訓令第五〇七號）

引取人ナキ囚人死體ヲ各帝國大學又ハ各醫學專門學校ヘ發送ノ場合ハ附添人ヲ附セス左記各項ニ依リ運賃後拂ニテ輸送スヘシ

一　容器ハ一寸板ニテ內部ヲ亞鉛板張トシテ死體ハ防水布ヲ以テ密包シ惡臭並汚汁等漏洩ノ虞ナキ樣收容スルモノトス

一　容器表面ニハ「何何學校行」ト記載スルモノトス

一　發著驛ニ於テハ學校ヨリ當該驛長ノ同意ヲ得テ停車場附近ノ運送店ヲ指定シ置キ託送及積込取卸並引取ヲ爲サシムルモノトス

死體汽車積卸證明書樣式

證第號　　劃　印

屍體汽車積卸證明書

一　屍體　（何）　個

發驛　（何）

著驛　仙臺

右ハ本學ニ於テ醫學研究ニ供スルモノナルコトヲ證明ス

【大正】　年　月　日

東北帝國大學【醫科大學】印

一一　假葬後ノ改葬ハ警察署ノ許可ヲ要セサル件

（明治二十五年九月岡山縣知事伺）

埋火葬ノ死屍ヲ改葬セムトスルモノハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘキコトハ明治十七年布達第二十五號第四條ニ明文有之然ルニ本縣監獄ニ繫留中ノ囚徒死亡シ假埋葬セル後其死體ヲ親族ヘ引渡サムトスルニ際シ所轄警察署ノ許可ヲ受ケシムルトキハ其埋葬地【監獄署】ト接近セルモ所轄警察署トノ距離遠隔ニシテ往復ノ不便ナルヨリ漸漸遺骸引取願ノ數ヲ減シ埋葬地ニ差閊困難ノ事情モ有之殊ニ囚徒ノ遺骸引渡ノ場合ノ如キハ監獄官吏立會候ニ付勿論不都合ノ事實無之就テハ右囚徒ノ遺骸ニシテ改葬スヘキモノ本籍在籍者ニ限リ特ニ所轄警察署ノ許可ヲ省キ單ニ【監獄署】ノ證明ヲ以テ改葬セシメ候樣致度右ハ規則ニ抵觸之儀ニ付決行致兼候至急何分ノ御指示相成度此段請訓候也

（明治二十五年十月內務省指令）

本年九月二十日警岡第百號伺假葬シタル囚人遺骸ニ關スル件警察署ノ許可ヲ要セサル儀ト心得ヘシ

一二　受刑者ノ死體ヲ解剖ノ爲送付スル場合取扱方ノ件

（昭和二年四月日本醫科大學長宛行刑局長通牒行甲第四四五號日本大學總長宛）

本日司法省告示第十五號ヲ以テ貴學ニ對シ刑務所ニ於ケル受刑者ノ死體送付ノ件指定相成候ニ付テハ概ネ左記ニ依リ御取扱相成樣致度候

記

一　死體ノ送付ニ關シテハ貴學ヨリ直接最寄ノ各刑務所ト交渉セラルルコト

二　刑務所ヨリ死體送付ノ通報アリタル場合ハ指定ノ時間內ニ必ス引取ルコト

三　容器ハ一寸板ニテ內部ヲ亞鉛板張トシ死體ハ防水布ヲ以テ密包シ惡臭並汚汁等漏洩ノ虞ナキ樣收容スルコト

四　死體解剖後埋葬其ノ他之ニ關スル始末ノ全部貴校ニ於テ爲スコト但シ遺骨又ハ遺體ノ處分ニ付刑務所又ハ親族故舊ヨリ要求アルトキハ應諾セラルルコト

五　運搬ハ貴校ノ直接ヒトスルコト

六　死體ノ取扱並解剖ニハ體裁ヲ失セサル樣注意セラルルコト

（明治四十一年典獄會議ニ於テ）

一三　解剖ノ爲交付シタル死體ハ送付先ニ於テ始末スル件

（注　意）

監獄法第七十五條ニ依リ解剖ノ爲病院、學校其他ノ公務所ニ送付シタル死體ハ其送付先キニ於テ死體ノ埋葬其他死體ニ關スル一切ノ始末ヲ爲スヘキモノニ付死體ヲ交付スルニハ前以テ其趣ヲ先方ニ通知シ置クヲ要ス

（明治四十二年十月監獄局長通牒監甲第一三二二號）

一四　死體解剖ニハ刑務所醫師ヲ立會ハシムル件

受刑者ノ死體ニシテ之レカ交付ヲ請フ者ナキモノヲ官公立病院學校其他ノ公務所ニ送付シ解剖セシムル場合ニ於テ其病理解剖カ【監獄醫】ノ實務上即チ監獄ノ衛生醫療上ニ甚大ノ裨益アルハ勿論ノ儀ニ有之候ニ付右解剖ノ際ハ可成繰合セ【監獄醫】ヲシテ其解剖ニ立會ハシメラレ候樣致度若シ立會ハシムルコトヲ得サル場合ハ其病理解剖ノ實驗報告書ノ回付ヲ求メ【監獄醫】ノ參考ニ供セシメラレ度

追テ解剖ノ爲メ交付シタル員數ハ一年分取纏メ翌年二一月二十日迄ニ報告相成度

（大正十四年十一月行刑局長事務取扱通牒行甲第一七八七號）

一五　受刑者ノ死體解剖報告廢止ノ件

從來受刑者ノ死體ヲ解剖セル場合ハ明治四十二年十月監甲第一三二二號通牒ニ依リ報告スヘキコトニ相成居候處事務簡捷ヲ期スル爲爾今毎年ノ定期報告ハ其儀ニ及ハサル次第ト御了知相成度

一六　被告人ノ死體ハ解剖ノ爲病院等ニ送付スルヲ得サル件

（大正十一年六月行刑局長宛札幌監獄長被問合電信）

被告人ノ引取人ナキ死體ハ解剖ノ爲病院ニ送付差支ナキヤ至急返電ヲ請フ

（大正十一年六月行刑局長回答電信）

被告人ノ死體ハ解剖ノ爲病院等ニ送付スルヲ得ス

一七　死體解剖後骨格保存ニ關スル件

（明治二十二年一月新潟縣令）

死體解剖ノ儀ニ付テハ他ヘ御指令ノ趣モ有之候處尙骨格保存ノ儀モ差許シ苦シカラサルヤ

（明治二十二年五月內務省指令）

親屬故舊其遺骸ノ下付ヲ請フ者ナキ刑死者及獄死者ニシテ（中略）官公立醫學校病院ニ於テ保存スル儀ハ苦シカラス

一八　收容死亡者ノ遺骸下付ニ關スル件

（明治十八年十月新潟縣令）

在監人死亡シ假葬シタル後親屬故舊ノモノヨリ住居遠地ニシテ且ツ貧困ナルニ依リ遺骸ヲ引取埋葬スル能ハサルヲ以テ死者ノ髮ノミ下付ヲ請フ者アルトキハ事情取糺シ親屬相愛ノ哀情ニ出テタル者ハ許可シ可然哉

（明治十八年十月內務省指令）

許可スヘカラサル儀ト可心得

一九　刑務所醫師ニハ死體ノ解剖ヲ爲サシメサル件

（明治四十二年十一月山口監獄典獄照會監發一第二九九號）

受刑者ノ死體ハ死亡後二十四時間ヲ經テ交付ヲ乞フ者ナキ場合ニ限リ解剖ノ爲メ官公立ノ病院學校又ハ其他ノ公務所ニ之ヲ送付スルコトヲ得ヘキハ監獄法施行規則第百七十九條ノ規定有之候處受刑者中生前ニ於テ死

後其遺體ヲ【監獄醫】ニ解剖方願出タル場合及【監獄醫】ニ於テ病理研究將來醫療參考ノ必要アル場合ハ監獄内ニ於テ【監獄醫】之ヲ行フモ差支無之哉

（明治四十二年十一月監獄局獄務課長回答監丙第一四〇七號）

解剖ハ爲シ得サル義ト御了知相成度

二〇　收容者遺骸埋葬ニ關スル件

（大正十四年十二月行刑局長事務取扱通牒行甲第一九〇四號）

拘禁中不幸ニシテ死亡シタル收容者ヲ埋葬スルニ際シ其著衣ニ就テハ從來各所其ノ取扱ヲ異ニシ居ル樣被認候間將來斯ル場合ハ自衣ノ有無ニ拘ラス特別ノ事情アル場合ノ外必ス白衣ヲ著用セシムル樣御留意相成度候

二一　收容者ノ病者及死亡者ノ取扱ニ關シ注意ノ件

（大正十三年十二月行刑局長依命通牒行甲第二〇五五號）

收容者ノ病者及死亡者ノ取扱ニ對シテハ從來各所共夫夫周到ナル注意ヲ拂ハレ常ニ遺憾ナキヲ期セラレ候儀トハ存シ候得共近來一般思想ノ惡化ト共ニ適適水平社同人ノ死亡ノ原因ニ付市谷、山口ノ兩刑務所ニ於テ物議ヲ惹起セル實例有之右ハ些些タル書類及死體取扱等ノ瑕瑾ヲ理由トシ猜疑ノ眼ヲ以テ揣摩憶測ヲ逞シクセルニ過キサル次第ニ外ナラス候得共畢竟當事者ノ用意ニ周到ヲ缺キタル誘ヲ免カレ難キ次第ニ付將來各所共一般收容者ノ病者及死亡者ハ勿論水平社同人等ノ取扱ニ對シテハ特ニ一層綿密ナル注意ヲ拂ハレ度殊ニ從來病者及死亡者ノ處遇ニ就テハ稍モスレハ醫務、教務、文書、戒護等ノ各部間ノ連絡區區ニ渉リ遺憾ノ點少ナカラサルニ付各掛協力一致以テ萬全ノ處遇ヲ講セラレ苟モ批難ノ種ヲ惹起セサル樣御注意相成候樣致度候

二二　就業中生死不明看守並受刑者死亡手續ノ件

（大正九年十月網走監獄典獄龜山監獄局長宛網發第七〇四號）

本月十五日網發第七〇四號ヲ以テ及報告候標記ノ看守

並受刑者ノ死體ハ湖底ノ沈下木ノ間ニテモ介在セルモノカ日日種種方法ヲ換ヘ捜索シ昨十九日迄一週間繼續セシモ未タ發見セス尚繼續捜索致度候ヘ共此分ニテハ差當リ發見セサルモ難計候處看守(某)ノ遺族ハ未タ葬式ヲモ營マサルカ如キ狀況ニ有之然ルニ當時水中ニ墜落ノ場合ハ白晝ニシテ且五十餘名ノ官吏並受刑者カ目睹セシ事實ニシテ或ル時間經過後ニ於テハ溺死ハ一點疑ヒ無之候ニ就テハ弔祭料支給等夫夫死亡ノ手續取運ヒ差支無之候哉

（大正九年十一月監獄局長回答監丙第一四五七號）

右ハ戸籍法第百十九條ニ依リ貴官ニ於テ當時ノ狀況報告書作製町村長ニ送付シ死亡ノ手續ヲ了シタル上其ノ他ノ手續御運ヒ相成度

第十五章　接見　信書

第十五章　接見、信書

一　接見

一　接見者心得事項

（明治四十一年八月監獄局長達監甲第五六一號）

監獄法施行規則第三條ノ参觀者心得事項及同第百二十五條ノ接見者心得事項別紙ノ通決定候條右ニ依リ御取扱相成度

接見者心得事項

一　接見中ハ總テ監獄官吏ノ指示ニ從フヘシ

一　接見者ハ豫メ願出タル事項以外ニ渉リ談話スヘカラス

（別紙）

一　特ニ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ外國語ヲ用ウヘカラス

一　接見ノ際ニハ金錢又ハ物品ヲ授受スヘカラス

一　請願ハ總ルヘク簡明ヲ旨トシ務メテ冗長ニ渉ラサル樣注意スヘシ

一　接見ノ際立會官吏ノ命令ニ從ハス其他不穩ノ言行アルトキハ接見ヲ停止スヘシ

二　接見簿樣式

（明治四十一年八月司法省訓令第五號）

共犯名簿、接見簿及死亡帳樣式別紙ノ通改正シ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

（共犯名簿ハ收容拘禁ノ部ニ死亡帳ハ衛生ノ部ニ掲出セリ）

接見簿

許否	年月日	接見願ノ要旨	談話ノ要領	接見者ノ住所、身分、職業、氏名、年齢及ヒ在監者トノ續柄	在監者ノ種別及ヒ氏名	備考

番号	年月日	接見人住所氏名	被接見者ノ住所氏名	接見ノ要旨	接見ノ可否	備考

接見簿取扱例

一　本簿ハ接見出願者アル毎ニ【第二課】看守長ニ於テ取糺シ相當欄ニ記入ノ上典獄ニ提出シテ許否ノ決議ヲ受クヘシ但不許ノ分ニ對シテハ備考欄ニ其事由ヲ附記シ置クヘシ

二　接見ニ立會ヲル者ハ談話ノ要領ヲ記入シ捺印ノ上典獄ニ報告シ行刑上參考ト爲ルヘキモノハ身分帳簿、視察表ニ記入スヘシ

三　受刑者ニ對シ親族以外ノ者ニ特ニ必要ヲ認メ接見ヲ許シタル場合ハ其事由ヲ備考欄ニ記載スヘシ

四　接見願出ノ要旨ニ違ヒ接見ヲ停止シタル場合ハ備考欄ニ其旨ヲ記載スヘシ

三　收容者ノ接見ニ關スル件

（大正十一年十一月刑務所長會議ニ於テ）

（注　意）

拘禁者ニ接見ヲ求ムル者カアリマシタトキハ法規ノ許ス限リ成ルヘク便宜ヲ與フルヲ相當ト考ヘマス接見ヲ求ムル人若ハ其ノ場合ノ如何ニ依リマシテ受刑者改悛ノ一動機タラシムルコトニ注意セラレ適當ナル職員ヲシテ立會ハシムルコトカ肝要テアリマス又遠隔ノ地ヨリ態態出頭シタル者カ僅カ退廷時ヲ遲レタルノ故ヲ以テ接見ヲ拒否シ或ハ接見時間ヲ嚴守スルノ餘リ重要ナル事項ノ談話ヲ中絶セシムルカ如キ常識ニ反スル措置ハ之ヲ避ケラレタシ而シテ接見所カ舊式テアッテ狹隘ナル窓カラ僅カニ談話ノ交換ヲ爲ス不便ノ設備ハ此ノ際適當ニ改造セラレタイノテアリマス次ニ刑事被告人ノ接見ニ付テハ證據保全ニ害ナキ限リ寛大ノ取扱ヲ爲スヘキモノテアリマス併シ其ノ度ヲ過キテ接見所ノ設備當ヲ失シ證據湮滅ニ利用セラレ易キモノカアッテハナリマセヌ然ルニ狹隘ナル卓子ヲ挾ムテ應對セシムル爲筆談其ノ他ノ方法ヲ以テ窃ニ意思ノ傳達ヲ爲シ得ルカ如キモノカアリマス斯ル不完全ナル設備ハ速ニ改造ヲ必要トシマス

四　信書及接見ノ制限度數ノ件

（明治四十二年五月大阪監獄典獄照會大監甲發第四八一號）

監獄法施行規則第百二十三條同第百二十九條ノ制限ノ解釋ニ甲乙ノ二說アリ即チ甲ハ受刑者ニハ外部ト濫リニ交通セシメサル爲ニ此制限ヲ設クラレタルモノナレハ入監後二ケ月ヲ經過セサレハ之レヲ爲サシメサル主旨トノ說乙ハ兎ニ角入監セハ先ツ一回ノ發信又ハ接見ヲ爲サシメ而テ其時ヲ以テ二ケ月ノ制限起算點トシテ取扱候方正當ナリトノ說ナリ

右ハ何レヲ正當トシテ取扱可然哉

（明治四十二年六月監獄局總務課長回答監丙第七一一號）

一回ノ發信又ハ接見ハ各法定ノ期間ヲ經過スルヲ要セサルモ第二回以後ハ入監時ヲ標準トシテ各其法定期間ヲ經過スルヲ要スルモノニ有之候

五　同上ノ件

（明治四十二年七月廣島監獄典獄會議第一四二回號）

一　監獄法施行規則第百二十三條第二項同第百二十九條第二項ノ制限ニ依ラスシテ接見セシメ又ハ信書ノ授受ヲ許可シタルトキハ其日ヨリ更ニ法定期間ヲ經過シタル上許可スヘキカ或ハ全ク制限外トシ取扱フヘキカ

一　受刑後四ヶ月間一回ノ受信ナキモノ其後ニ於テ同時ニ又ハ五日乃至七日ヲ隔テテ二通三通ノ來信アリタルトキハ入監時ヲ標準トシ登録之レヲ交付スヘキカ或ハ又タ一通ヲ交付シ其翌ヨリ更ニ法定期間ヲ經テ順次交付スヘキカ（監獄法施行規則第百三十八條）

右疑義相生シ候ニ付何分ノ御回示相成度

（明治四十二年八月廣島監獄典獄會議第九八三號）

何レモ後段見解ノ通御取扱可然

六　豫審中ノ刑事被告人ト辯護人トノ接見並被疑者ノ信書ニ關スル件

改正刑事訴訟法實施ニ關シ左記事項疑義相生シ候ニ付何分ノ御回示相煩度候

（大正十三年一月名古屋刑務所長會議名古屋少年刑務所長間合刑發第一二〇號）

一　豫審中ノ被告人ノ接見ノ件ニ付テハ大正二年八月監秘甲第四七號ヲ以テ通牒ノ次第モ有之候處改正刑事訴訟法實施以後ニ於テハ豫審中ト雖辯護人ヲ付スルコトヲ得ヘキカ故ニ當然監獄法施行規則第百二十五條第二項ニ依據シ豫審ニ於ケル辯護人ノ接見ヲ差許スヘキハ勿論ノ義ト思料候モ刑務所トシテハ當該被告事件ノ內容或豫審進行ノ程度ヲ熟ク了知セサル關係上或ハ接見ノ爲豫審ノ秘密保持ヲ害シ自然罪證湮滅ノ機會ヲ與フルカ如キ結果ヲ惹起スル虞ナシトセス依テ當該被告事件ニ關スル交談ハ從前ノ通豫審判事ノ命令アル場合ノ外之ヲ許ササルコトニ取扱可然哉

二　刑事訴訟法第百二十三條及第百二十九條ニ依リ勾引又ハ勾留セラレタル被疑者ニ對シテハ同法第百十一條及第百十二條ノ準用ナキヲ以テ此等被疑者カ他人ト授受スル信書ニ付テハ典獄限リノ檢閱ヲ以テ足ルコトト思料候モ信書ニシテ不逸書ト認メタル場合典獄トシテ之カ授受ヲ拒否スル權能ナク而カモ之ヲ檢閱ノ爲檢事ニ提示スルコトモ亦カ職務ナラスト思料ス如何ニ處理シ可然哉

（大正十三年一月行刑局長通牒行甲第一二〇號）

右ハ左記ノ通ト御承知相成度候

一　豫審中ノ刑事被告人ト辯護人トノ接見ノ際事件ノ內容ニ付談話スルモ差支ナシ大正二年監秘甲第四七號通牒ハ自然消滅トス

二　被疑者ニ付明文ナシト雖法ノ精神解釋トシテ被告人ト同一ニ取扱フヘキモノト思料ス

七　收容者ノ書信用紙ハ可成自辯セシムル件

（大正二年典獄會議ニ於テ）

（注　意）

在監者ノ書信用紙ハ可成本人ノ所有紙ヲ使用セシムヘキコト

八　授受ヲ許ササル刑事被告人信書ノ件

（大正十三年十二月行刑局長收容通牒行甲第一號）

從來未決勾留中ノ被告人ヨリ發送スル書信ニ付テハ刑事訴訟法第百十二條ノ命令アルトキノ外書信ノ通達ニ由リ脅迫其ノ他ノ犯罪ノ實行セラルル場合ト雖之ヲ發送スルノ取扱ニ相成居リ右ニ付テハ監獄法第四十七條ノ如キ明文ナキ爲現行法ノ解釋上已ムヲ得サルモノト認メラレタル結果ニ外ナラスト存候ヘ共刑務所內ニ於テ犯罪ノ實行ヲ認許スヘカラサルハ當然ノコトナルノミナラス右事情ヲ知リツツ之ヲ發送スルカ如キハ犯罪幫助ノ責任ヲモ免レ難キ義ト思料致候ニ付自今監獄法施行規則第百三十條ニ依リ信書ノ檢閱ヲ爲スニ當リ其ノ內容犯罪ニ係ルモノト認ムルトキハ發受ヲ許ササルコトニ御取扱相成度

（大正十三年十二月行刑局長檢事總長通牒檢事局長通牒檢事長宛行甲第一號ノ二）

（大審檢事長　檢事長　檢事正　檢事總長　檢事局長　檢事長宛）

記ノ件ニ付別紙ノ通依命通牒相成候處從來刑事被告人ノ信書ノ取扱ニ付テハ刑事訴訟法第百十二條ニ依リ

裁判所又ハ豫審判事ニ於テ發受ヲ禁スルモノノ外ハ總テ認可ノ旨記載刑務所ニ回付相成ル例ニ相成居候ヘ共右通牒ノ趣旨ヲ貫徹スル上ニ多少差支ノ廉モ有之候間自今ハ發受ヲ禁止スルモノノ外ハ檢閲濟ノ旨記サレ候樣致度

（大正十四年二月　大審院長　檢事長　行刑局長　檢事總長　刑事局長　裁判所長宛　通牒　行刑甲第二五號　控訴院長　檢事正）

一月十七日行秘甲第一號ノ二ヲ以テ標記ノ件及通牒置候處從來發受ヲ許スヘキ信書ニ付單ニ掛官ノ檢印ノミヲ押捺セラルル向ハ今後モ同樣ニ取扱ハレ差支無之候

九　留置人ノ信書檢閲ニ關スル件

（昭和二年五月　行刑局長通牒　行甲第六七八號）

別紙甲號ノ照會ニ對シ乙號ノ通回答致置候

（別紙）

甲號

（昭和二年五月　內務省警保局長照會　警發乙第五一三號）

刑務所ニ拘禁セラレ居ル在監者ノ受發スル信書ハ典獄ニ於テ之ヲ檢閲スルノ權限ヲ有シ居候處警察署ノ留置場ニ留置セル拘留囚及被疑者ニ係ル信書ニ付テハ之ニ對スル何等ノ規定無之警察署ニ附屬スル留置場ハ監獄法第一條第三項ニ依レハ監獄ニ代用スルコトヲ得ル旨規定セルニ徵シ本件ノ場合典獄ノ權限ハ警察署長ニ於テ行ヒ得ルモノト存候ヘ共一應御意見承知致度候

追而本件ハ差當リ必要ノ事情相生シ居候趣大阪府知事ヨリ申越有之候ニ付其ノ御含ヲ以テ折返シ何分ノ御回答相煩度候

乙號

（昭和二年五月　行刑局長回答　行丙第九四八號）

警察署留置場ニ留置スル拘留囚及被疑者ノ發受スル信書檢閲ノ權限ニ關シ御照會相成候處右ハ貴見ノ通御取扱相成可然ト思料致候

一〇　收容者ノ接見及信書ニ關スル件

（昭和二年十月　所長會議ニ於テ）

（說示）

接見及信書ハ受刑者教化上ニ密接ナル關係ヲ有スルハ言ヲ俟タサル所ナリ然ルニ大正十五年中各刑務所ニ於

ケル接見及信書ノ度數ヲ調査スルニ接見ハ百人ニ付五五度、信書ハ百人ニ付發信三四五度、受信二三一度ニシテ其ノ度數餘リニ寡少ナルノ感アリ將來接見及信書ニ付テハ十分考慮ヲ拂ヒ規定ノ範圍ニ於テ成ルヘク之ヲ許シ必要ト認ムル者ニ對シテハ特ニ親族故舊トノ融和ヲ圖リテ接見通信ノ機會ヲ與ヘ且接見及受信ニ際シテハ適宜教誨訓諭ヲ施シ心性陶冶ニ努ムルト共ニ能ク對者ノ意思ヲ疏通セシムルコトニ注意シ又釋放後ノ就職其ノ他生計ノ方法ニ付協議ヲ調ヘシメ社會同化ヲ容易ナラシムル等接見及信書ヲシテ一層教化上ニ利用セラレムコトヲ望ム

第十六章　貿易

第十六章　賞罰

賞罰

一　賞表附與ニ關スル審査期間ノ件

（明治四十一年八月監獄局長回答監丙第五五六號）

在監人賞譽規程廢止相成タル結果受刑者ニ賞表ヲ附與スルニハ何等期間ノ制限ナキニ至リタルモ賞表ノ附與ハ最モ愼重ノ調査ヲ要スヘキモノニ付特別ノ事情ナキ限リハ少クトモ一ヶ年ノ審査期間ヲ存スヘキ義ト御承知相成度

二　刑ノ執行ヲ停止セル者ノ賞遇ニ關スル件

（大正十年六月懲本第一六六號通牒監發第九三四號）

刑事訴訟法第三百十九條第二項各號ノ一ニ該當シ刑ノ執行ヲ停止セラレタルモノニシテ殘刑執行ノ爲復監ノ場合ニ於テハ前入監中附與ノ賞表ハ入監ト同時ニ復活セシメ引續キ賞遇スヘキモノニ候哉明治四十四年五月十九日鹿兒島監獄與獄問合作業賞與金給與ノ義ニ關シ同月二十六日獄務課長監丙第四七七號回答ノ次第モ有之聊カ疑義相生シ候ニ付至急何分ノ御回示相煩度候也

（大正十年六月監獄局長回答監丙第八二〇號）

標記ノ件御問合ノ趣了承刑執行停止ノ原由消滅再ヒ入監スル場合ハ新入監ノ取扱ヲ爲スヘキモノニ付御問合面ノ如キ場合ニハ賞遇スヘキモノエアラスト思料致候

三　賞遇ノ査定ニ關スル件

（昭和二年刑務所長會議ニ於テ）

（注　意）

近時各所ニ於ケル有賞受書ノ數ハ著シク權衡ヲ失シ全受刑者ノ百分ノ六十以上ニ達セル箇所アル一方ニ於テハ僅ニ百分ノ二ニ滿タサルモノアリ右ハ刑期ノ長短、犯數、年齢其ノ他受刑者ノ性格等種種ノ關係ヨリ茲ニ

至レルモノト思料スルモ賞表付與ニ當リ或ハ本人ノ動靜考察ヲ誤リ或ハ單ニ一定ノ期間事故ナキヲ條件トシテ優遇シ或ハ作業成績ニノミ重キヲ置キ甚シキハ取締上ノ政策ヨリシテ輕輕シク賞遇ヲ爲スニ非ラサルナキヤヲ想ハシムルモノ又ハ處遇苛察ニ流レ先入ニノミ執着シ一度懲罰ニ處セラレタル者ハ容易ニ復活スルコト能ハサルモノアルカ如シ賞遇ノ査定ニ付テハ將來特段ノ注意ヲ拂ヒ日常眞摯周密ナル視察ヲ遂ケ寛嚴其ノ度ヲ失スルコトナク公平ナル判斷ノ下ニ其ノ資格ノ有無ヲ決シ以テ濫賞ノ弊ニ陷ラサルト同時ニ徒ニ之ヲ付與スルニ躊躇スルコトナク處遇ノ適正ヲ期スルヲ要ス

四　懲罰執行中資格異動シタル場合ノ懲罰執行方並勞役場留置者賞遇ニ關スル件

（大正四年六月　監獄局長通牒　監甲第四三八號）

在監者懲罰ニ處セラレ其ノ執行中裁判確定其ノ他ノ事由ニ依リ資格異動シタル場合ニ於ケル懲罰ノ執行方並勞役場留置者處遇ニ關シ各監獄區區ニ相成居候趣ノ處右懲罰ハ改悛ノ狀著シキトキ之ヲ免除スルハ格別其ノ他ノ場合ハ縱シ資格ニ異動アルモ在監中引續キ執行シ得ヘキ種類ノ懲罰ハ尙繼續執行相成ヘキ義ニ有之又勞役場留置者ニ對シテハ賞遇ヲ爲スヘキモノニアラスト被存候條右樣御了知相成度

追テ懲罰ノ執行停止中ノモノモ本文ノ趣旨ニ依リ御取扱相成度

五　未決勾留者ノ懲罰ニ關スル件

（昭和二年七月　右刑局長通牒　行甲第九三六號）

標記ノ件ニ關シテハ大正十三年二月行甲第一八五號ヲ以テ注意ノ次第モ有之各所共之カ適用上ニ付テハ相當御留意相成居ラルルコトトハ存シ候ヘ共其ノ後ノ狀況ヲ見ルニ別表ノ如ク今尙未決勾留者ニ對シ糧食自辨ノ停止又ハ屏禁等ノ懲罰ヲ科セラルル向相當有之候右ハ概ネ犯狀又ハ規律維持上不得止之等懲罰ヲ科セラレ候モノトハ思料候ヘ共中ニハ漫然適用セラレタルニ非サルヤノ感ヲ起サシムルモノモ有之樣被認候ニ付テハ向後之カ適用ニ際シテハ一層御留意相成十分右通牒ノ趣旨ヲ體シ苟モ其ノ期待スル所ニ背カサル樣特ニ御配慮相煩ハシ度候

（別表省略）

六　資格異動者ノ懲罰言渡ニ關スル件

（大正十五年十二月　行刑局長通牒　行丙第一七四五號）

標記ノ件ニ付別紙甲號ノ通問合有之乙號ノ通回答致置候

甲號

（大正十五年十月　長崎刑務所長問合　發第二三八〇號）

懲罰執行中資格異動シタル場合ニ付テハ大正四年六月監甲第四三八號御通牒ノ次第モ有之候處右ハ懲罰言渡ノ執行未著手ノ場合モ同樣ノ義ト存候然ルニ資格異動前ノ犯則ニシテ異動後其ノ犯則ニ對シ懲罰處分ヲ言渡シ之カ執行ヲ爲スコトモ又差支ナキ義トハ存候得共聊カ疑義有之候間御指示相仰度候

追テ本文ニ付執行スヘキ懲罰種類ハ資格異動前後共通ノモノニ限ルコトト存候得共爲念併テ相伺候

乙號

（大正十五年十二月　行刑局長回答　行丙第一七四五號）

標記ノ件ニ付御問合相成候處右ハ御見解ノ通苟クモ在監者タル以上ハ其ノ範圍内ニ於テ資格ノ異動アルモ其ノ異動前ノ犯則ニ對シ懲罰ヲ科シ得ヘキハ勿論ニ有之候得共斯カル犯則ニ對シ所犯當時ヨリモ不利益ヲ科スルハ穩當ナラサルニ付懲罰ノ種類ハ資格異動前後共通ノモノヲ適用スルヲ相當ト思料致候尤モ賞遇中ノ受刑者ニ對シ未決勾留中ノ犯則ニ付賞遇ヲ停止又ハ廢止スルカ如キハ未決勾留中ニ認メラレスシテ新ニ受刑者トシテ認メラレタル賞遇ニ係ルモノニシテ所犯當時認メラレタル賞遇ヲ停廢スルモノニ非サルカ故ニ前後對比シテ不利益ヲ科スル處分ト認ムヘキ次第ニハ無之候

七　減食受刑者ニ運動停止ノ懲罰ヲ科スルニハ言渡ヲ要スル件

（明治四十二年五月　監獄局長通牒　監甲第六四四號　明治四十二年典獄協議會決定事項ニ對シ）

（前略）「屏禁減食處罰者ノ運動ハ併科ノ言渡ヲ用キス

シテ運動セシメサルコトニ一定スト有之候得共減食處罰者ニ付テハ運動停止ヲ以テ當然該懲罰ノ結果ナリト解スルハ不穩當ニ付右運動停止ヲ要スル場合ハ必ス併科ノ言渡ヲ爲スヘキ儀ト御承知相成度

（以下省略）

八　屏禁執行ニ關スル件

（大正十一年四月　監獄局長通牒　監丙第三五六號）

屏禁ハ受罰者ヲ罰室內ニ晝夜屏居セシムルモノナルヲ以テ入浴等ノ爲罰室ヲ出サシメサルヲ相當ト被爲思料候處各監獄之カ取扱方區區ニ渉リ居候ニ付爾今屏禁執行中ハ入浴セシメサル樣御取扱相成度尤モ保健上必要アル場合ニ於テハ罰室內ニテ身體ヲ拂拭セシムルカ又ハ特ニ入浴セシムルハ差支無之儀ト御承知相成度候

九　懲罰ノ執行停止ニ關スル件

（別冊）

監獄法第六十二條ノ懲罰執行停止中ニハ執行著手前ニ於ケル停止及ヒ執行著手後ノ中止モ茲ニ包含スル儀ニシテ執行著手前ノ停止ハ事實上執行ヲ猶豫スルコトト相成候得共刑法ニ於ケル處ノ執行猶豫ト同一ノ取扱ヲ以テ懲罰執行ヲ猶豫スルヲ得ス著手前ノ停止又ハ著手後中止ノ場合ト雖モ監獄法第六十二條第二項ニ依リ懲罰ノ免除ノ言渡ヲ爲スニアラサレハ其儘執行ヲ免スルヲ得サル儀ニ有之候

（明治四十二年八月　監獄局長通牒　監甲第九八七號）

一〇　懲罰簿樣式

（明治三十五年十二月　司法省訓令第四號）

（前略）懲罰簿……樣式別冊ノ通相定ム

懲罰簿

懲罰ノ種類日數	懲罰執行日時 自　至　計　日	執行前執行後體量	增減體量	犯行	番號氏名年齡	備考

備考

一　懲罰ノ種類日時ノ欄ニハ言渡シタルモノヲ掲ケ執行日時ハ事實執行シタル日數ヲ掲記スルモノトス

一　備考欄ニハ免罰猶豫等ノ事由ヲ掲記スヘシ

一一　懲罰ノ選擇ニ關シ注意ノ件

（大正十三年刑務所長會議ニ於テ）

（指　示）

懲罰ハ紀律ヲ確保シ行刑ヲ眞面目ナラシムルニ重要ナルモノナルモ寛嚴其ノ度ヲ失スルニ於テハ懲罰本來ノ目的ニ反スル結果ヲ生スルニ至リ其ノ弊甚大ナルモノアルヘシ法規上之ニ制限ヲ加ヘタルハ洵ニ謂アリ抑懲罰ノ種類及程度ハ一ニ刑務所長ノ裁量ニ屬スルカ故ニ之カ應用劃一ノ標準ヲ缺クハ已ムヲ得サルトコロナリト雖公正ヲ失シ過酷ニ流ルルカ如キ處置ハ必ス之ヲ避ケサルヘカラス彼ノ作業賞與金減削罰ノ如キモ其ノ額多大ニ過クルトキハ作業賞與金制度ノ精神ト背馳スルノミナラス收容者ヲシテ絶望セシメ又ハ强烈ナル反感ヲ抱カシムルニ至ルヘク又彼ノ治療長キニ亘ル病弱者ニ對シ重屏禁ヲ科シ又ハ數度ノ減食罰ヲ科スルカ如キハ一層其ノ健康ヲ害シ行刑衞生上許スヘカラサルモノアルヘシ各位ハ須ラク當人ノ個性ヲ考査シ且其ノ他ノ事情ヲ詳悉シ自由裁量ノ妙諦ヲ誤ラス能ク懲罰ノ目的ヲ貫徹スルニ努力セラレタシ

一二　作業賞與金計算高ノ減削ニ關スル件

（昭和二年刑務所長會議ニ於テ）

（說　示）

作業賞與金計算高減削ノ懲罰ヲ科スルニ付テハ大正十三年會同ノ際注意セシ所ナルニ拘ラス今尙多額ノ減削處分ヲ爲スモノアリ本懲罰ハ賞與金ノ多寡及殘刑期ノ長短若ハ釋放後ノ生計狀況等ヲ參酌シテ之ヲ科スヘキモノニシテ一概ニ之ヲ論スルヲ得サルモ一時ニ數ケ月間ノ就業ニ因リ取得シ得ヘキ金高ヲ減削スルカ如キハ收容者ノ心理ニモ影響スル所尠カラサルヲ以テ之カ科罰ニ付テハ特ニ愼重ナル注意ヲ拂ハレムコトヲ望ム

一三　懲罰ノ期間ニ關スル件

（大正五年奥獄會議ニ於テ）

（注　意）

在監者ニ對シ累ネテ懲罰ヲ科シタル場合ニ於テ其ノ懲罰期間カ前後通算該懲罰ニ付監獄法ノ定メタル長期ヲ超ユルモノハ縱令被罰者ノ健康上執行ニ差支ナシト認メタルトキト雖引續キ執行スルコトヲ得サルモノトス

一四　行刑上參考トナルヘキ犯則品保存方ノ件

（明治四十一年奥獄會議ニ於テ）

（注　意）

犯則ヲ構成シタル物品ニシテ沒入又ハ廢棄スヘキモノニ係リ行刑上參考トナルヘキモノハ之ヲ保存スルノ注意アルヲ要ス但此場合ニ於テハ沒入廢棄簿ニ其旨ヲ記載シ置クヘシ

第十七章　恩赦　假釋放　釋放

第十七章　恩赦、假釋放、釋放

第一節　恩赦

一　減刑令（明治三十年一月勅令第七號）

減刑令

第一條　本令發布以前ニ於テ確定判決ヲ受ケタル囚徒ニシテ其ノ執行前又ハ執行中ニ係ル者ハ左ノ例ニ照シテ其ノ刑ヲ減輕ス

一　死刑ノ判決ヲ受ケタル者ハ其ノ罪質ニ從ヒ無期徒刑又ハ無期流刑トス

二　無期徒刑ノ判決ヲ受ケタル者ハ有期徒刑十五年トシ無期流刑ノ判決ヲ受ケタル者ハ有期流刑十五年トス

三　有期ノ刑ノ判決ヲ受ケタル者ハ其ノ刑期四分ノ一ヲ減ス但シ減輕シタル刑期法律ニ定メタル刑期ノ範圍內ニ在ラサルトキハ次等ノ刑ノ長期トス

第二條　前條第三ニ依リ其ノ刑ヲ減輕シタルカ爲メ其ノ本刑ノ短期以下ニ下ルトキハ其ノ刑名ハ左ノ例ニ依ル

一　有期徒刑ノ短期以下ニ下ルトキハ重懲役トシ有期流刑ノ短期以下ニ下ルトキハ重禁獄トス

二　重懲役ノ短期以下ニ下ルトキハ輕懲役トシ重禁獄ノ短期以下ニ下ルトキハ輕禁獄トス

三　輕懲役ノ短期以下ニ下ルトキハ重禁錮トシ輕禁獄ノ短期以下ニ下ルトキハ輕禁錮トス

四　重禁錮又ハ輕禁錮ノ短期以下ニ下ルトキハ拘留トス但シ陸軍刑法、海軍刑法ニ依リ處斷セラレタル者ハ其ノ罪質ニ從ヒ仍重禁錮又ハ輕禁錮トス

第三條　書法ニ依リ處斷セラレタル者ハ各其ノ減等ノ例ニ從ヒ一等ヲ減ス

明治十七年第一號布告賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタル者モ亦其ノ懲罰期四分ノ一ヲ減ス

第四條　本令ノ減輕ハ附加刑ニ其ノ效ヲ及ホサス

第五條　本令ニ依リ減刑セラレタル者ハ其ノ刑名ニ拘ラス尙現在ノ監獄ニ拘禁ス

第六條　【北海道集治監】ニ拘禁スル囚徒ニシテ本令ノ減刑ニ依リ直ニ放免セラルヘキ者ハ其ノ刑ノ宣告ヲ

受ケタル府縣ニ護送シ減刑ヲ爲ス

二　恩赦令

（大正元年九月勅令第二十三號）

改正　昭和二年第一〇號、

恩赦令

第一條　大赦、特赦、減刑及復權ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　大赦ハ勅令ヲ以テ罪ノ種類ヲ定メ之ヲ行フ

第三條　大赦ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外大赦アリタル罪ニ付左ノ效力ヲ有ス

一　刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ其ノ言渡ハ將來ニ向テ效力ヲ失フ

二　未タ刑ノ言渡ヲ受ケサル者ニ付テハ公訴權ハ消滅ス

第四條　特赦ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル特定ノ者ニ對シ之ヲ行フ

第五條　特赦ハ刑ノ執行ヲ免除ス但シ特別ノ事情アルトキハ將來ニ向テ刑ノ言渡ノ效力ヲ失ハシムルコトヲ得

第六條　減刑ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シ勅令ヲ以テ罪若ハ刑ノ種類ヲ定メ之ヲ行ヒ又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル特定ノ者ニ對シ之ヲ行フ

第七條　勅令ニ依ル減刑ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外將來ニ向テ刑ヲ變更ス

特定ノ者ニ對スル減刑ハ刑ノ執行ヲ減輕ス但シ特別ノ事情アルトキハ刑ヲ變更スルコトヲ得

第八條　刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテハ刑ノ言渡ノ效力ヲ失ハシムル特赦若ハ刑ヲ變更スル減刑ヲ行ヒ又ハ其減刑ト共ニ猶豫ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得

第九條　復權ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル爲法令ノ定ムル所ニ依リ資格ヲ喪失シ又ハ停止セラレタル者ニ對シ勅令ヲ以テ要件ヲ定メ之ヲ行ヒ又ハ特定ノ者ニ付之ヲ行フ但シ刑ノ執行ヲ終ラサル者又ハ執行ノ免除ヲ得サル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第十條　復權ハ將來ニ向テ資格ヲ回復ス復權ハ特定ノ資格ニ付之ヲ行フコトヲ得

第十一條　刑ノ言渡ニ基ク既成ノ效果ハ大赦、特赦、減刑又ハ復權ニ因リ變更セラルルコトナシ

第十二條　特赦又ハ特定ノ者ニ對スル減刑若ハ復權ハ司法大臣之ヲ上奏ス

第十三條　刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事又ハ受刑者ノ在監スル監獄ノ長ハ司法大臣ニ特赦又ハ減刑ノ申立ヲ爲スコトヲ得

監獄ノ長前項ノ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ヲ經由スヘシ

第十四條　特赦又ハ減刑ノ申立書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一　判決ノ謄本又ハ抄本

二　刑期計算書

三　犯罪ノ情狀、本人ノ性行、受刑中ノ行狀、將來ノ生計其ノ他參考ト爲ルヘキ事項ニ關スル調査書類

第十五條　刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ハ職權ヲ以テ又ハ本人ノ出願ニ依リ司法大臣ニ復權ノ申立ヲ爲スコトヲ得

復權ノ出願ハ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ三年ヲ經過シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十六條　復權ノ申立書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一　判決ノ謄本又ハ抄本

二　刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタルコトヲ證スル書類

三　刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル後ニ於ケル本人ノ行狀、現在及將來ノ生計其ノ他參考ト爲ルヘキ事項ニ關スル調査書類

本人ノ出願ニ依リ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ前項ノ書類ノ外其ノ願書ヲ添付スヘシ

第十七條　特赦、減刑又ハ復權ノ裁可アリタルトキハ司法大臣ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ニ特赦狀、減刑狀又ハ復權狀ヲ送付シ之ヲ本人ニ下付セシムヘシ

第十八條　大赦、特赦、減刑又ハ復權アリタルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ハ判決ノ原本ニ其旨ヲ附記スヘシ

第十九條　本令中司法大臣ノ職務ハ軍法會議ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ陸軍大臣又ハ海軍大臣、朝鮮、臺灣、關東州、南洋群島又ハ帝國カ治外法權ヲ行使スル地域ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ朝鮮總督、臺灣總督、關東長官、內閣總理大臣又ハ外務大臣之ヲ行ヒ檢事ノ職務ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議ノ檢察官、法院ノ檢察官、領事官又ハ犯罪即決官廳之ヲ行フ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年勅令第二百十五號、第二百十六號及第二百三十號ハ之ヲ廢止ス

三　恩赦令施行規則

（大正元年九月司法省令第三號）

恩赦令施行規則

第一條　恩赦令第十三條ニ依リ監獄ノ長特赦又ハ減刑ノ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ申立書ノ送付ヲ受ケタル檢事ハ必要ナル事項ニ付調査ヲ爲シタル上意見ヲ附シ之ヲ進達スヘシ

第二條　恩赦令第十條第二項ニ依ル復權ノ申立書ニハ囚復スヘキ資格ノ種類ヲ明記スヘシ

第三條　特赦、減刑又ハ復權ノ申立ヲ理由ナシト認ムルトキハ其ノ旨ヲ檢事又ハ檢事ヲ經由シテ監獄ノ長ニ通知ス

第四條　恩赦狀ノ送付ヲ受ケタル檢事ハ直ニ之ヲ本人ニ下付スヘシ但シ本人在監中ナルトキハ監獄ノ長ヲ經由スヘシ

檢事假出獄中ノ者ニ恩赦狀ヲ下付シタルトキハ其ノ旨ヲ住居ノ地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事、監獄ノ長及監督警察官署ニ通知スヘシ

本人他ノ裁判所ノ管轄區域内ニ在ルトキハ其ノ裁判所ノ檢事ニ恩赦狀ノ下付及前項ノ通知ヲ囑託スルコトヲ得

第五條　恩赦狀ノ送付ヲ受ケタル檢事恩赦令第十八條ニ依リ附記ヲ爲シタル場合ニ於テ訴訟記錄他ノ裁判所ノ檢事局ニ在ルトキハ其ノ裁判所ノ檢事ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

前項ノ通知書ハ之ヲ訴訟記錄ニ添付スヘシ

第六條　恩赦狀ヲ本人ニ下付シタルトキハ檢事ハ速ニ其ノ旨ヲ司法大臣ニ申報スヘシ

附　則

本令ハ恩赦令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

四　陸軍ニ於ケル恩赦施行手續

（大正元年九月陸軍省令第三號）

改正　昭和二年第四號、

陸軍ニ於ケル恩赦施行手續

第一條　恩赦令ノ規定ニ依リ檢察官又ハ監獄ノ長軍法會議ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ特赦又ハ減刑ノ申立ヲ爲ストキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議ノ長官ヲ經由スヘシ檢察官復權ノ申立ヲ爲ストキ亦同シ

陸軍監獄長前項ノ申立ヲ爲ス場合ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議ノ長官所屬長官ニ非サルトキハ豫メ所屬長官ヲ經由スヘシ

第二條　刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議ノ長官特赦、減刑又ハ復權ノ申立書ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ之ヲ陸軍大臣ニ進達スヘシ但シ監獄ノ長ノ申立ニ係ルトキハ檢察官ノ意見ヲ徵シ申立書ニ添附スヘシ

第三條　陸軍大臣特赦、減刑又ハ復權ノ申立ヲ理由ナシト認ムルトキハ其ノ旨ヲ第一條ノ長官ヲ經由シテ申立ヲ爲シタル諸官ニ通知ス

第四條　特赦狀、減刑狀又ハ復權狀ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議ノ長官ニ送付シ長官ハ檢察官ヲシテ之ヲ本人ニ下付セシム但シ本人在監中又ハ假出獄中ナルトキハ監獄ノ長ヲ經由シテ本人ニ下付セシムヘシ

第五條　檢察官又ハ監獄ノ長特赦狀、減刑狀又ハ復權狀ヲ本人ニ下付シタルトキハ其ノ旨ヲ前條ノ長官ニ報告シ長官ハ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第一條第二項ノ規定ハ陸軍監獄長前項ノ報告ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第六條　刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議ノ檢察官判決ノ原本ニ恩赦アリタル旨ヲ附記シタル場合ニ於テ訴訟記錄他ノ軍法會議ニ在ルトキハ其ノ軍法會議ノ檢察官ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

前項ノ通知書ハ之ヲ訴訟記錄ニ添附スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

五　海軍ニ於ケル恩赦施行手續

（大正元年九月海軍省令第二號）

改正　大正一一年第五號、

恩赦施行手續

第一條　海軍檢察官又ハ監獄ノ長海軍軍法會議ニ於テ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ノ特赦又ハ減刑ノ申立ヲ爲ストキハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ノ長官ヲ經由スヘシ海軍檢察官復權ノ申立ヲ爲ストキ亦同シ

海軍監獄長前項ノ申立ヲ爲ス場合ニ於テ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ノ長官所屬長官ニ非サルトキハ先ツ所屬長官ヲ經由スヘシ

第二條　刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ノ長官特赦、減刑又ハ復權ノ申立書ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ但シ監獄ノ長ノ申立ニ係ルトキハ海軍檢察官ノ意見ヲ徵シ申立書ニ添附スヘシ

第三條　海軍大臣特赦、減刑又ハ復權ノ申立ヲ理由ナシト認ムルトキハ順序ヲ經テ其ノ旨ヲ申立ヲ爲シタル諸官ニ通知ス

第四條　特赦狀、減刑狀又ハ復權狀ハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ノ長官ニ送付シ長官ハ海軍檢察官ヲシテ之ヲ本人ニ下付セシム但シ本人在監中又ハ假出獄中ナルトキハ監獄ノ長ヲ經由スルモノトス

第五條　海軍檢察官特赦狀、減刑狀又ハ復權狀ヲ本人ニ下付シタルトキハ其ノ旨ヲ前條ノ長官ニ報告シ長官ハ海軍大臣ニ報告スヘシ

第六條　恩赦令第十八條ノ判決原本ノ附記ハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ノ海軍檢察官之ヲ爲ス

附　則

本令ハ恩赦令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

六　大赦令

（大正元年九月勅令第二十四號）

第一條　大正元年七月三十日前左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ之ヲ赦免ス

一　刑法第七十四條及第七十六條ノ罪
二　刑法第七十七條乃至第七十九條ノ罪
三　刑法第九十條乃至第九十四條ノ罪
四　刑法第百六條及第百七條ノ罪
五　明治十三年第三十六號布告刑法第百四十一條ノ罪
六　陸軍刑法第二十五條、第二十六條及第三十條乃至第三十二條ノ罪但シ第三十一條及第三十二條ノ罪ノ中敵國ヲ利スル目的ヲ以テ犯シタルモノヲ除ク
七　陸軍刑法第三十五條乃至第三十九條ノ罪
八　陸軍刑法第五十七條乃至第五十九條ノ罪
九　陸軍刑法第七十三條及第七十四條ノ罪
十　陸軍刑法第百三條ノ罪
十一　明治十四年第六十九號布告陸軍刑法第七十一條及第百九條ノ罪

十二　海軍刑法第二十條、第二十一條及第二十五條乃至第二十七條ノ罪但シ第二十六條及第二十七條ノ罪ノ中敵國ヲ利スル目的ヲ以テ犯シタルモノヲ除ク
十三　海軍刑法第三十條乃至第三十四條ノ罪
十四　海軍刑法第五十五條乃至第五十七條ノ罪
十五　海軍刑法第七十一條及第七十二條ノ罪
十六　海軍刑法第百四條ノ罪
十七　治安妨害ノ目的ヲ以テ犯シタル爆發物取締罰則ノ罪
十八　明治二十二年法律第三十四號ノ罪
十九　保安條例違反ノ罪
二十　治安警察法違反ノ罪
二十一　新聞紙法違反ノ罪
二十二　出版法違反ノ罪
二十三　朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ行ハルル法令ノ罪ニシテ前各號ニ記載シタル罪ト性質ヲ同クスルモノ
二十四　匪徒刑罰令ノ罪但シ强盜ノ目的ヲ以テ犯シタルモノヲ除ク

第二條　前條第一號乃至第二十三號ニ記載シタル罪ト性質ヲ同クスル舊法ノ罪ヲ犯シタル者ハ之ヲ赦免ス

第三條　前二條ノ場合ニ於テ既ニ徵收シタル罰金、科料、沒收物、追徵金、收贓金及訴訟費用ハ之ヲ還付セス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

七　特赦申立書ニ添附スヘキ戸籍謄本ハ字劃ヲ正ス件

（大正元年九月刑事局長通牒刑事乙第一四七號）

特赦等ニ關スル勅令ノ規定ニ依リ其ノ申立書ニ添附スヘキ戸籍謄本ハ【戸籍吏】ニ於テ戸籍ノ原本ニ依リ作成スヘキモノニシテ字劃ノ如キハ毫モ原本ノ記載ト相違ナカルヘキ筈ナルニ拘ラス本籍地氏名等戸籍ノ主要部分カ往往原本ト相違スル哉ニ認メラルルモノ有之甚シキニ至テハ故ラニ行書、草書等ヲ用ヰテ顧ミサルモノアリ（尤モ本來原本ニ誤字、略字、草字等ヲ用ヰラレタルモノニ付テハ其ノ儘謄本ニ之ヲ襲用ヰサルヘカラサルハ言ヲ俟タス）之カ爲ニ詮議上不便不尠候條申立

書ニ添附スヘキ戸籍謄本ノ作成方ニ付テハ如上ノ不都合ニ陷ラサル樣(戸籍吏)ニ對シ其ノ用方ヲ示サスシテ別段ノ注意ヲ與ヘフレ候樣御取計相成度

八　減刑令

（大正三年五月勅令第百四號）

第一條　大正三年四月十一日前刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニシテ其ノ執行前ニ係ルモノ、刑ノ執行猶豫中、執行中若ハ執行停止中ノモノ又ハ假出獄中ノモノハ本令ニ依リ其ノ刑ヲ減輕ス但シ其ノ執行ヲ遁ルル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　死刑ハ之ヲ無期懲役トス

第三條　無期懲役ハ之ヲ有期懲役二十年トシ無期禁錮ハ之ヲ有期禁錮二十年トス

第四條　有期ノ懲役又ハ禁錮ハ左ノ例ニ依ル

一　刑ノ執行ヲ始メサル者ニ付テハ刑期ノ四分ノ一ヲ減シタルモノトス

二　刑ノ執行ヲ始メタル者ニ付テハ殘刑期ノ二分ノ一ヲ減シタルモノトス但シ其ノ執行刑期ノ二分ノ一ニ至ラサルトキハ前號ノ例ニ依ル

前項ノ計算ヲ爲スニ當リ年又ハ月ノ端數ヲ生スルトキハ一年ヲ十二月、一月ヲ三十日トシ日ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ除棄ス

第五條　舊法ノ刑ハ之ニ相當スル刑法ノ刑ノ例ニ依リ減輕ス

舊法ノ刑ヲ減輕シタルトキハ其ノ刑名ハ之ニ相當スル刑法ノ刑名ニ變更ス

第六條　左ニ記載シタル罪ニ付テハ其ノ刑ヲ減輕セス

一　刑法第七十三條及第七十五條ノ罪

二　刑法第百三十一條第二項ノ罪及其ノ未遂罪

三　刑法第百八十一條ノ罪ノ中人ヲ死ニ致シタル罪

四　刑法第二百條ノ罪及其ノ未遂罪

五　刑法第二百五條第二項ノ罪

六　刑法第二百十八條第二項ノ罪及其ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

七　刑法第二百二十條第二項ノ罪及其ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

八　刑法第二百四十條ノ罪ノ中人ヲ死ニ致シタル罪及第二百四十一條ノ罪並其ノ未遂罪

九　軍機保護法第一條乃至第三條ノ罪及其ノ未遂罪

十　朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ行ハルル法令ノ罪ニシテ前各號ニ記載シタル罪ト性質ヲ同クスルモノ

十一　前各號ニ記載シタル罪ト性質ヲ同クスル書法ノ罪

第七條　大正元年九月十三日ノ詔書ニ基キ大赦、特赦、減刑又ハ復權ヲ得タル後罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ減刑ヲ爲サス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

九　減刑令施行ニ關スル件

（大正三年五月司法省訓令　檢事長宛刑甲第一五〇號）

茲ニ大喪ニ丁リ減刑ノ特典ヲ行ハセラレ洽ク罪囚ヲシテ惠澤ニ浴ハシメ給フ　聖恩ノ廣大ニシテ仁慈ノ普遍ナル洵ニ感激ニ堪ヘス司法司獄ノ職ニ在ル者克ク　聖旨ヲ率體シテ惡ニ囚徒ヲ戒飭訓誨シ苟モ恩ニ狎レ恥ヲ忘レ再ヒ刑辟ニ觸ルルコトナカラシムヘシ愛ニ恩典ノ施行ニ關シ遵由スヘキ條項ヲ定ム宜シク之ニ緣リテ以テ率行ヲ愆ルコトナキヲ期セラルヘシ

一　減刑ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ其ノ判決カ大正三年四月十日迄ニ確定シタル者ニ限リ行ハルルモノトス例ヘハ四月七日ニ宣告セラレタル第二審判決ニ對シ上告ノ申立ナキトキハ勅令第一條ノ適用アルモ同月八日ニ宣告セラレタルモノニ係ルトキハ其ノ適用ナシ

二　勅令第一條但書ハ刑ノ執行前ニ限リ適用セラルヘキモノニシテ刑ノ執行中逃走シタル者ノ如キハ本條ニ所謂刑ノ執行中ノ者ニ非サルヲ以テ減刑スヘキ限ニ在ラス

刑ノ執行ノ爲出頭スヘキ旨ノ呼出ヲ受ケ疾病其ノ他正當ノ事由ニ因リ出頭スルコト能ハサリシ者ハ刑ノ執行ヲ遁ルル者ニ該當セス

三　刑ノ執行中ノ者ニ對スル減刑ノ執行ハ監獄ノ長ニ於テ之ヲ爲スヘシ在監中ノ死刑囚ニ付亦同シ監獄ノ長ハ減刑ノ執行ヲ終リタルトキハ直ニ帳簿上刑名、刑期ノ記載ヲ改メ且刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ニ變更セラレタル刑名、刑期ヲ表示シテ其ノ旨ヲ通知スヘシ

四　刑ノ執行前ニ係ル者、刑ノ執行猶豫中若ハ執行停止中ノ者又ハ假出獄中ノ者ニ對スル減刑ノ執行ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ニ於テ之ヲ爲スヘシ檢事ハ變更セラレタル刑名、刑期ヲ書面ヲ以テ速ニ

本人ニ通知スヘシ其ノ通知ヲ爲スニハ刑ノ執行前ニ係ル者ヲ除クノ外所轄警察官署ヲ經由スヘシ

刑ノ執行猶豫中若ハ執行停止中ノ者又ハ假出獄中ノ者ニ對シ減刑ノ執行ヲ爲シタルトキハ變更セラレタル刑名、刑期ヲ表示シテ其ノ旨ヲ本人ノ住居ノ地ヲ、管轄スル地方裁判所ノ檢事ニ通知シ且刑ノ執行猶豫中ノ者ヲ除クノ外監獄ノ長ニ通知スヘシ

五　檢事ハ第三項ノ通知ヲ受ケ又ハ前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ恩赦令第十八條ノ規定ニ依リ附記ヲ爲スノ外訴訟記錄ヲ保存スル檢事局ニ變更セラレタル刑名、刑期ヲ通知シ且帳簿上其ノ記載ヲ改ムヘシ

六　減刑ノ執行ヲ爲シタル檢事又ハ監獄ノ長ハ減刑セラレタル人員及減刑スヘカラサル人員ヲ附錄樣式ニ從ヒテ司法大臣ニ報告スヘシ

七　軍法會議ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタルニ因リ軍人軍屬タル身分ヲ失ヒタル者ニシテ刑ノ執行猶豫中若ハ執行停止中ノモノ又ハ假出獄中ノモノナルトキハ其ノ者ニ對シ本人ノ住居ノ地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事ニ於テ其ノ所在ヲ知リ得タル限リ變更セラレタル刑名、刑期ヲ通知スヘシ

右ノ通知ヲ爲シタル者ノ人員ハ第六項ニ準シ之ヲ司法大臣及陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ報告スヘシ

八　檢事カ朝鮮、臺灣、關東州ノ司法官廳又ハ領事ヨリ判決ノ執行ノ囑託ヲ受ケタルニ因リ刑ノ執行ノ指揮ヲ爲シタル場合ニ於テ受刑者刑ノ執行停止中又ハ假出獄中ナルトキハ前項ノ定ムル所ニ準シテ取扱ヲ爲スヘシ

九　減刑ヲ爲スヘキヤ否ニ付疑アルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事又ハ軍法會議其ノ他ノ司法官廳ノ長官之ヲ決ス但シ在監中ノ受刑者ニ付急速ヲ要スル場合ニ於テハ監獄ノ長ハ監獄ノ所在地ノ檢事又ハ交通上便宜ノ地ノ檢事ノ決定ヲ求ムヘシ現ニ存在セサル軍法會議ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ指揮ヲ求ムヘシ

十　減刑ヲ爲スヘキ罪ト減刑ヲ爲スヘカラサル罪ト併合罪又ハ數罪俱發ノ關係アル場合ニ於テハ左ノ例ニ依ルヘシ

イ　各罪ニ付各別ニ刑ヲ科シタルトキハ減刑ヲ爲スヘキ罪ノ刑ノミヲ減輕ス

ロ　數個ノ罪ニ付一個ノ刑ヲ科シタル場合ニ於テハ減刑ヲ爲スヘキ罪ノ刑ヲ以テ重シトシテ處斷シタルトキト雖減刑ヲ爲サス

十一　刑法第五十四條第一項ヲ適用シタル場合ニ於テ其ノ罪名ノ中減刑ヲ爲スヘカラサルモノアルトキハ減刑ヲ爲スヘキ罪名ノ刑ヲ重シトシテ處斷シタルトキト雖減刑ヲ爲ササルモノトス

十二　舊刑法ノ刑ニ相當スル刑法ノ刑ハ刑法施行法第二條ノ對照ニ依リテ之ヲ定ム

舊刑法前ノ刑ニ付テハ懲役ハ刑法ノ懲役ニ禁獄及禁錮ハ刑法ノ禁錮ニ相當スルモノトス

舊陸海軍刑法ノ刑ニ相當スル刑法ノ刑ハ陸海軍刑法施行法ニ依リテ之ヲ定ム

十三　殘刑期ノ計算ハ左ノ例ニ依ルヘシ

イ　刑ノ執行中ノ者ニ付テハ勅令公布ノ當日ヨリ刑期終了ノ日ニ至ル迄ノ期間ヲ曆ニ從ヒテ算出ス

ロ　刑ノ執行停止中又ハ假出獄中ノ者ニ付テハ釋放ノ前日迄ニ執行ヲ爲シタル期間ヲ曆ニ從ヒテ算出シ之ヲ全刑期ヨリ減シテ殘刑期ヲ定ム

十四　變更セラレタル刑期ノ計算ハ曆ニ從ヒテ之ヲ定ムヘシ

十五　全刑期ノ四分ノ一又ハ殘刑期ノ二分ノ一ヲ算出シタル結果日ノ端數ヲ生シタル場合ニ於テ其ノ端數ハ之ヲ除棄スヘキモノトス

勅令公布ノ日ニ於テ刑期終了スル者ニ付テハ減刑ヲ爲ササルモノトス

十六　刑期四分ノ一ヲ減スル計算ノ設例左ノ如シ

イ　刑期七年ノ場合

七年ヲ四ヲ以テ除シ一年ヲ得其ノ端數三年ヲ三十六月トシ四ヲ以テ之ヲ除シ九月ヲ得故ニ七年ヨリ一年九月ヲ減スヘキモノトス而シテ此ノ減算ヲ爲スニハ七年ヲ六年十二月トシ之ヨリ一年九月ヲ減スヘシ則チ五年三月ノ刑ニ變更セラル

ロ　刑期三月ノ場合

三月ハ四ヲ以テ整除スルコト能ハサルヲ以テ之ヲ九十日トシ四ヲ以テ除シ二十二日ヲ得其ノ端數二日ハ之ヲ除棄ス故ニ三月ヨリ二十二日ヲ減ス而シテ此ノ減算ヲ爲スニハ三月ヲ二月三十日トシ之ヨリ二十二日ヲ減スヘシ則チ二月八日ノ刑ニ變更セラル

十七　殘刑期二分ノ一ヲ減スル計算ノ設例左ノ如シ

イ　刑期ヲ二年、刑ノ執行ノ初日ヲ大正二年二月十日、勅令公布ノ日ヲ大正三年五月二十四日ト假定スルトキハ五月二十四日ヨリ終期ナル大正四年二月九日迄ノ期間ヲ曆ニ從ヒ計算スレハ八月十七日

トナルヲ以テ二ヲ以テ之ヲ除シ四月ヲ得其ノ端數十七日ヲ二ヲ以テ除シ八日ヲ得其ノ端數一日ハ之ヲ除業ス故ニ二年ヨリ四月八日ヲ減スヘキモノトス則チ一年七月二十二日ノ刑ニ變更セラル而シテ其ノ刑期終了ハ大正三年十月一日ナリトス

ロ　刑期ヲ一年四月、執行ノ初日ヲ大正二年二月十日、假出獄ノ日ヲ大正三年四月二十一日勅令公布ノ日ヲ大正三年五月二十四日ト假定スルトキハ既ニ執行ヲ受ケタル期間ハ一年二月十一日トナル之ヲ一年四月ヨリ減シ一月十九日ヲ得之ヲ四十九日トシ二ヲ以テ除シ二十四日ヲ得其ノ端數一日ハ之ヲ除業ス故ニ一年四月ヨリ二十四日ヲ減スヘキモノトス則チ一年三月六日ノ刑ニ變更セラル而シテ其ノ刑期終了ハ大正三年五月十五日ナルヲ以テ本例ニ於ケル受刑者ニ付テハ其ノ假出獄ノ期間カ終了シタルモノトス

十八　勅令第七條ノ受刑者ハ恩赦後ノ犯罪ニ付刑ノ言渡ヲ受ケ勅令公布ノ日ノ前日迄ニ判決確定シタルモノヲ云ヒ其ノ者ニ對シテハ恩赦前ニ犯シタル罪ノ刑ニ付テモ減輕ヲ爲ササルモノトス

（附錄樣式省略）

（大正三年五月司法次官通牒秘第九三號）

本月二日秘第八八號ヲ以テ及通牒置候當省大臣ノ訓令案ニ左ノ事項補追相成候

十九　刑法第五十八條ニ依リ加重スヘキ刑ヲ定メタル場合ニ於テハ刑ヲ定ムル決定ノ主文ノ形式カ單ニ加重スヘキ刑期ヲ定メタルノミナルト判決ニ定メタル刑期ヲ變更シテ新タニ刑期ヲ定メタルト其ノ他如何ナル體樣ナルトヲ問ハス加重セラレタル全刑期ニ付減輕スヘシ

大正三年四月十日迄ニ判決確定シタルモ同年同月十一日以後勅令公布ノ日ノ前日迄ノ間ニ加重スヘキ刑ヲ定ムル決定確定シタル者ニ對シテハ加重セラレタル前刑期ニ付減刑シ勅令公布ノ日以後ニ於テ刑ヲ定ムル決定確定シタル者ニ對シテハ確定判決ニ於テ定メタル刑期ニ付減輕スヘシ

一〇　同上ノ件

（大正三年五月司法次官通牒秘第一〇〇號）

本月秘第八八號通牒減刑ノ勅令執行ニ當リ刑法第五十條ニ依リ併合罪ニ付二個以上ノ裁判ヲ受ケタル者アルトキハ左ノ例ニ依リ取扱相成度

一　併合罪中一罪ハ死刑又ハ無期刑他ノ一罪ハ有期刑ノ裁判ナリタル場合ニ於テハ假令有期刑ハ刑法第五十一條但書及第十四條ニ依リ執行セラレサルモノナリト雖有期刑ニ付テモ亦減輕ヲ爲スヘキコト例ヘハ死刑ハ無期懲役ニ又ハ無期懲役ハ懲役二十年ニ變更スルト同時ニ有期懲役十年ハ七年六月ニ變更ス但シ此ノ場合ニ於テ有期懲役七年六月ハ結局執行セラルルコトナシ

二　併合罪中一罪ハ無期刑一罪ハ有期刑ノ裁判アリタル場合ニ於テ無期刑ニ付既ニ二十年以上ノ刑ノ執行ヲ受ケタルトキハ受刑者ハ之ヲ直ニ釋放スヘキコト

一一　同上ノ件

（大正三年五月司法次官通牒法務局秘第一〇四號）

本月秘第八八號通牒減刑ノ勅令執行ニ關シ左記事項ニ付往往疑ヲ抱ク向モ有之候條爲念此段及通牒候也

一　刑ノ執行停止中事故消滅ト同時ニ逃走シタル者ト雖執行停止ノ指揮取消サレサル場合ハ勅令第一條ニ所謂刑ノ執行停止中ノ者ナルヲ以テ減刑ヲ爲スヘキモノトス若シ執行停止ノ指揮ヲ取消サレタルトキハ執行中ノ者ニモ非ス又執行停止中ノ者ニモ非サルヲ以テ減刑ヲ爲スコトヲ得ス而シテ右等ノ者ニ付テハ執行停止ノ原由既ニ消滅シタルモノナルヲ以テ速ニ執行停止ノ指揮ヲ取消スヘキモノトス

二　假出獄中逃走シタル者ト雖假出獄ノ取消アル迄ハ依然假出獄中ノ者ナルヲ以テ減刑ヲ爲スヘキモノトス

三　刑ノ執行中ノ者ニ對シテハ現ニ執行中ノ刑ナルト未タ執行ニ著手セサル刑又ハ執行ヲ停止シタル重キ刑ナルトヲ問ハス總テ典獄ノ取扱ニ係ルモノトス

四　刑ノ執行豫殺中ノ者ハ單ニ刑期ヲ減輕セラルルノミニシテ豫殺期間ニハ關係ナシ

五　勅令第四條第一項第二號但書ハ刑ノ執行濟ノ期間カ刑期ノ二分ノ一ニ至ラサルトキヲ謂ヒ殘刑期二分ノ一カ執行濟ノ期間ノ二分ノ一ニ至ラサルトキヲ謂フニ非ス

六　未決勾留通算ノ言渡アリタル刑ニ付テハ全刑期ノ最終日ヨリ遡テ通算日數ヲ控除シ其ノ殘餘ノ期間ヲ刑期トシ其ノ四分ノ一又ハ殘刑期ノ二分ノ一ヲ減スルモノトス以上ハ未タ刑ノ執行ヲ始メサル場合ナルト既ニ刑ノ執行ヲ始メタル場合ナルトヲ問ハス同一ノ取扱ヲ爲スヘキモノトス

例ヘハ懲役一年六月ノ刑ニシテ未決勾留日數三十日ヲ通算スル場合ニ於テハ左ノ如シ

イ　未タ刑ノ執行ヲ始メサルトキ

一年六月ヲ一年五月三十日トシ之ヨリ三十日ヲ減シタル一年五月ヲ刑期ト假定シ其ノ四分ノ一卽チ四月七日ヲ一年六月ヨリ減シ一年一月二十三日ニ刑ヲ變更シ未決勾留日數ヲ通算ス

ロ　刑ノ執行ヲ始メタルトキ

執行ノ初日ヲ大正二年六月二十七日勅令公布ノ日ヲ大正三年五月二十四日トスルトキハ未決勾留日數三十日ヲ全刑期ノ最終日大正三年十二月二十六日ヨリ遡リテ控除スルカ故ニ刑期終了ノ日ハ大正三年十一月二十六日トナリ現ニ執行ヲ受ケタル期間ハ刑期終了ノ日迄ノ期間ノ二分ノ一ヲ超ユルヲ以テ殘刑期ノ二分ノ一ヲ減スヘキモノトス而シテ殘刑期ハ大正三年五月二十四日ヨリ大正三年十一月二十六日迄ニシテ六月三日トナル六月三日ノ二分ノ一卽チ三月一日ヲ一年六月ヨリ減シ一年二月二十九日ノ刑ニ變更セラル故ニ變更セラレタル全刑期ノ最終日ハ大正三年九月二十四日トナリ未決勾留日數三十日ヲ通算スルヲ以テ刑期終了ノ日ハ大正三年八月二十五日ナリトス

右ノ計算ニ依レハ通算日數ノ多キモノト雖勅令公布ノ日ニ於テ直ニ出監セラルルコトナシ

七　訓令第十七項ノ(イ)ノ例ハ訓令第十三項ノ(イ)ノ計算法ニ依リ又第十七項ノ(ロ)ノ例ハ第十三項ノ(ロ)ノ計算法ニ依リタルモノナレハ各其ノ計算法ヲ異ニスルモノトス

八　初犯者トシテ刑一年ノ言渡アリテ其ノ裁判確定後累犯發見ノ爲更ニ刑二年ヲ加重スル決定アリタルトキハ之ヲ三年ノ刑ト爲シ其ノ四分ノ一又ハ其ノ殘刑期ノ二分ノ一ヲ減ス

九　舊刑法數罪俱發ノ關係アル前發刑カ後發ノ重キ刑ニ通算セラレタル場合ニ於テ前發ノ刑ニ幾分執行濟ノ期間アルトキハ此ノ執行濟期間ハ後發ノ重キ刑ニ付之ヲ執行セラレタル期間ト看做スヘキモノトス

十　全刑期ヨリ減輕スヘキ期間カ月ヲ以テ定メラルル場合ニハ曆ニ從フカ故ニ舊刑法ニ依リ言渡シタル刑ニ月アルトキハ之ヲ三十日ト爲サス曆ニ從フ計算ナリト看做シテ減算シ變更セラレタル刑期ハ刑法ノ刑期計算ニ依ルコトトス

例ヘハ重禁錮六年三月ノ刑ヨリ減輕スヘキ期間二月一日ヲ減スルトキハ六年二十九日ノ刑ニ變更セラルルモノトス

十一　勅令第七條ニ該當スル者ナルヤ否ニ付テハ可成精密ノ調査ヲ爲シ結局不明瞭ノモノアル場合ニハ當省ニ申出アルコト若シ調査ニ遺漏アリタル爲減刑ヲ爲スヘカラサルモノナルコトヲ後日發見シタルトキハ直ニ取消ノ處分ヲ爲スモ妨ケナシ

一二　同上ノ件

（大正三年五月司法次官通牒法務局秘第一〇八號）

第一審ニ於テ未決勾留ヲ受ケタル者ニ對シ舊刑法ノ有期刑ヲ言渡シ被告人ノ控訴ニ因リ第二審ニ於テ第一審判決ヲ取消シ更ニ舊刑法ノ有期刑ノ言渡ヲ爲シ上告ノ申立ナクシテ其ノ判決確定シタル場合ニ於テ減刑ノ勅令執行上疑ヲ抱ク向モ有之候處右ハ舊刑法第五十一條ニ依リ第一審判決宣告ノ日ヨリ刑期ヲ起算スルヲ以テ第一審判決ノ日ヨリ第二審判決宣告ノ前日迄ノ勾留ハ刑期ニ通算セラルルニ至ル而シテ其ノ通算セラルヘキ勾留期間ハ刑ノ執行ヲ受ケタル日ト看做サスシテ本月秘第一〇四號通牒第六項ノ例ニ準シテ全刑期ヲ第二審判決宣告ノ日ヨリ起算シ全刑期滿了ノ日ヨリ遡テ通算日數ヲ控除シ其ノ殘餘ノ期間ヲ刑期トシ四分ノ一又ハ殘刑期ノ二分ノ一ヲ減スヘキモノニ有之候尤モ舊刑法ノ有期刑カ控訴期間ノ經過ニ因リ又ハ控訴棄却ニ因リ上告ノ申立ナクシテ確定シタル場合ニ於テハ第一審又ハ第二審ノ判決宣告ノ日ヨリ刑期ヲ起算シ其ノ判決宣告ノ日ヨリ判決確定ノ日迄ノ未決勾留日數ハ刑ノ執行ヲ受ケタルモノトシテ取扱相成度尙又減刑ニ因リ舊刑法ノ刑ヲ刑法ノ刑ニ變更シタル場合ニ於テハ變更セラレタル刑期ノ計算ハ刑法第二十三條ニ依ルヘキハ勿論ノ義ニ有之候

一三　同上ノ件

（大正三年五月司法次官通牒）

減刑ノ勅令執行ニ關シ數次及通牒置候處尚左ノ事項御承知相成度

一　（略）

二　窃盗財物ヲ得テ逮捕ヲ免レ又ハ罪跡ヲ湮滅スル爲暴行ヲ加ヘ人ヲ死ニ致シタル場合ニ於テハ舊刑法ニ於テハ强盗及毆打致死トシテ處斷スルモ其ノ適用ノ法條ニ依ラスシテ判決認定ノ事實ニ依リ勅令第六條第十一號ヲ適用スヘキモノトス自己ノ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル場合ノ如キハ舊刑法ニ於テハ通常ノ謀故殺トシテ處斷スルモ是亦前段ト同一ノ取扱ヲ爲スヘキモノトス

三　勅令公布ノ當日刑ノ執行猶豫期間ノ終了スル者ニ對シテハ第一條ノ刑ノ執行猶豫中ノ者ニ該ルヲ以テ勅令ヲ適用シ減刑ス

四　減刑ノ通知ヲ受クヘキ本人所在不明ナルトキハ通知ニ關シ前段ノ措置ヲ要セス

五　大正三年四月十日迄ニ確定判決ヲ受クタル者（刑事訴訟法第二百八十九條第二項）ニ依リ破毀ノ利益ヲ受ケタルニ因リ又ハ非常上告ニ因リ其ノ確定判決ヲ破毀セラレタル場合ニ於テハ減刑ヲ爲スヘキモノトス而シテ勅令公布前ニ新ナル刑ノ言渡アリタルトキハ新ナル刑ヲ基本トシテ減刑シ然ラサル場合ニ於テハ四月十日迄ニ確定シタル判決ノ刑ヲ基本トス

一四　同上ノ件

（大正三年五月司法次官通牒法務局秘第一二四號）

本月司法省法務局秘第一〇八號司法次官通牒舊刑法ニ依リ言渡シタル有期刑カ控訴期間ノ經過ニ因リ又ハ被告人上訴申立ノ場合ニ於テ控訴棄却ニ因リ上告ノ申立ナクシテ確定シタルトキノ刑期計算方ニ關シ往往問合ノ向モ有之候處右ノ場合ニ於テハ刑法第二十三條ニ依リ變更セラレタル刑期ヲ裁判確定ノ日ヨリ起算シ其ノ刑期滿了ノ日ヲ定メ之ヨリ遡テ判決言渡ノ日ヨリ判決確定マテノ未決勾留日數ヲ通算控除シ刑期終了日ヲ定ムヘキ義ニ有之候

一五　同上ノ件

（大正三年五月十勝監獄典獄照會無番號）

本月司法省法務局秘第一〇八號司法次官通牒ニ依リ舊法ノ刑ヲ變更セラレタル場合刑期ハ刑法第二十三條ニヨリ確定ノ日ヨリ起算スルモ右通牒前段ノ場合ハ第一審判決ヨリ第二審判決前日迄又後段ノ場合ハ宣告ノ日ヨリ確定迄ノ未決拘留日數ヲ刑期ヨリ控除スヘキ儀ト思料候處尚前段ノ場合第二審判決ヨリ確定前日迄（通常四日トナル）ノ日數モ刑期ヨリ控除スヘキ筋合ニハ無之候哉

（大正三年五月法務局長回答刑甲第一五一號）

秘第一〇八號司法次官通牒前段ノ場合ニ於テ第二審判決ヨリ確定前日迄ノ未決勾留日數ハ之ヲ控除セサル義ニ有之候

一六　同上ノ件

（大正三年六月十勝監獄典獄照會無番號）

一　舊法ノ刑ヲ變更シタルモノノ刑期計算方ニ付五月十五日附秘第一〇八號司法次官通牒ニ依レハ

イ　第二審判決カ控訴ヲ理由アリトシタル場合刑ハ確定ノ日ヨリ起算シ第一審判決ノ日ヨリ第二審判決前日迄ノ日數ヲ變更シタル刑期ヨリ控除スル事

ロ　第二審判決カ控訴ヲ棄却シタル場合刑ハ確定ノ日ヨリ起算シ第二審判決ノ日ヨリ確定前日迄ノ日數ヲ變更シタル刑期ヨリ控除スル事

第一審判決カ上訴ナクシテ確定シタル場合モ此ノ例ニ同シ右樣解釋セラル而シテ（イ）ノ場合第二審判決ノ日ヨリ確定前日迄ノ拘留日數ヲ刑期ニ算入スルヤ否ニ付疑ヲ生シ法務局長ヘ照會ノ結果之ヲ算入スヘカラサル旨回答ニ接シタリ然レトモ（ロ）ノ場合ハ算入シ（イ）ノ場合ノミ算入セサルハ其ノ理由判明ナラス且又（イ）ノ場合尚上告審ヲ經テ棄却ノ判決アリタルモノハ上告棄却ノ日ヨリ刑ヲ起算シ第一審判決日ヨリ第二審判決當日迄ノ日數ヲ刑期ニ算入スルコトトナルカ此ノ場合ハ第二審判決日ヲモ算入シ上告セサルモノハ第二審判決前日迄ノ日數ヲ算入スルコトトナリ理論ノ一貫セサルヤノ感アリ又法律改正ノ結果確定ノ日ヨリ起算スルコトトナルモ舊法ニ依テ確定前日迄ノ未決勾留

日數ハ刑ノ執行ヲ受ケシト同樣ノ效力アルモノト解シ得レハ總テ刑期ニ算入スルモ差支ナキ樣思料ス

（大正三年六月監獄事務官同答無番號）

一　（イ）ノ場合ハ問合面通

二　（ロ）ノ場合變更刑期ヨリ控除スヘキ日數ハ第二審判決ノ日ヨリ確定ノ前日迄ノ日數ニアラスシテ確定ノ日（訓令第一項ノ例ニ就キ看ルヘシ）迄ノ日數ナリ即チ通常ノ場合ニ四日ナリトス

三　（イ）ノ場合第二審判決ノ日ヨリ確定ノ日迄ノ未決勾留日數ハ之ヲ刑期ニ算入セサルハ變更刑即チ刑法ノ刑期計算ノ原則ニ違フモノトス只（ロ）ノ場合ニ同上ノ未決勾留日數ヲ算入スルハ第一審判決ニ對スル控訴ノ申立ナクシテ確定シタル場合ト權衡ヲ得セシメムカ爲ニ設ケタル變例ナリトス

四　（イ）ノ場合ハ上告ノ申立ナカリシトキニ適用アルノミ若シ受刑者ノ申立ニ係ル上告カ棄却セラレタル場合ナルトキハ上告棄却ノ日ヨリ刑ヲ起算スヘク之ニ算入スヘキ日數ハ問合面ト異ナリ第一審判決ノ日ヨリ第二審判決宣告ノ前日迄ノ日數ナリトス從テ理論一貫セスト云フコトナシ

五　舊刑法ノ刑ハ判決宣告ノ日ヨリ起算スヘキモノナルヲ以テ第一審ノ確定判決ニ依ル刑ヲ減シタル變更刑期ニ付テハ其ノ未決勾留日數ヲ算入スルコトトシタルナリ然レトモ（イ）ノ場合ニ於テ仍第二審判決宣告ノ日以後ノ未決勾留日數ヲ控除セサルハ刑法ノ規定ニ於テ未決勾留ハ判決宣告前ノモノニ限リテ之ヲ算入スル趣旨ナルヲ以テ第二審判決宣告ノ日以後ノ未決勾留日數ヲ通算スルトキハ結局刑法ノ刑ノ計算方ニ二重ノ例外ヲ認ムルニ至リ不都合ノ結果ヲ生スト看做シタルニ外ナラス

一七　同上ノ件

（大正三年七月司法省刑事局長同答無番號）

舊刑法ノ處斷ニ係ル者ノ減刑ニ付刑期計算上更ニ疑義相生シ候

一　被告控訴原判決取消上告棄却ノ場合ハ上告判決ノ日ヨリ刑期ヲ起算シ第一審判決ノ日ヨリ第二審判決ノ日迄ノ未決勾留日數ハ本年五月司法省秘第一〇八號通牒前段ニ依リ計算可然哉

二　檢事控訴原判決取消被告上告棄却ノ場合ハ上告判決ノ日ヨリ刑期ヲ起算シ第一審判決ノ日ヨリ第二審判決ノ日迄ノ未決勾留日數ハ刑ノ執行ヲ受ケタルモノトシ全刑期ノ四分ノ一又ハ殘刑二分ノ一ヲ計算スヘキヤ

（大正三年八月司法省刑事局長同答法務局刑甲第二〇三號）

一　貴見ノ通但シ第二審判決ノ日迄トアルハ第二審判決ノ前日迄トス

二　一ノ場合ト同樣第一審判決ノ日ヨリ第二審判決ノ前日迄ノ日數ハ刑ノ執行ヲ受ケタルモノト看做サス

本年五月秘第一〇八號通牒前段ニ準シ計算スヘキコト

一八　同上ノ件

（大正三年十一月監獄局長通牒法務局長通牒監甲第九一〇號）

本年勅令第百四號執行ニ關シ舊刑法ニ依リ言渡ヲ受ケタル者ニシテ同法數罪俱發ノ關係アル前發刑カ後發ノ重キ刑ニ通算セラレタル場合ニ於テ前發ノ刑ニ幾分執行濟ノ期間アル者ハ本年五月十二日司法省秘第一〇四號通牒九ニ依リ此ノ執行濟期間ハ後發ノ重キ刑ニ付之ヲ執行セラレタル期間ト看做スヘキモノナルヲ以テ全刑期ノ最終日ヨリ遡テ通算日數ヲ控除シ其ノ殘刑ノ二分ノ一（執行濟期間カ刑期二分ノ一ニ至ラサル者ハ全刑期四分ノ一）ヲ減スヘキ筈ナルニ往往之ヲ誤解シ前發刑ノ執行濟期間ハ殘刑ノ算出上之ヲ除外シ後發刑ノ全刑期ノ最終日迄ヲ殘刑トシ計算セル向有之候條若シ貴監ニ於テモ右樣ノ誤解有之候節ハ現今尙在監スル者ニ付テハ更ニ刑期ヲ調査シ夫夫訂正方御取計相成度

一九　減刑令

（大正四年十一月勅令第二百五號）

第一條　大正四年十一月十日前刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニシテ其ノ執行前ニ係ルモノ、刑ノ執行猶豫中、執行中若ハ執行停止中ノモノ又ハ假出獄中ノモノハ本令ニ依リ其ノ刑ヲ減刑ス但シ其ノ執行ヲ遁ルル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　死刑ハ之ヲ無期懲役トス

第三條　無期懲役ハ之ヲ有期懲役二十年トシ無期禁錮ハ之ヲ有期禁錮二十年トス

第四條　有期ノ懲役又ハ禁錮ハ左ノ例ニ依ル

一　刑ノ執行ヲ始メサル者ニ付テハ刑期ノ四分ノ一ヲ減シタルモノトス

二　刑ノ執行ヲ始メタル者ニ付テハ殘刑期ノ二分ノ一ヲ減シタルモノトス但シ其ノ執行刑期ノ二分ノ一ニ至ラサルトキハ前號ノ例ニ依ル

前項ノ計算ヲ爲スニ當リ年又ハ月ノ端數ヲ生スルトキハ一年ヲ十二月、一月ヲ三十日トシ日ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ除棄ス

第五條　舊法ノ刑ハ之ニ相當スル刑法ノ刑ノ例ニ依リ減輕ス

舊法ノ刑ヲ減刑シタルトキハ其ノ刑名ハ之ニ相當スル刑法ノ刑名ニ變更ス

第六條　左ニ記載シタル罪ニ付テハ其ノ刑ヲ減輕セス

一　刑法第七十三條乃至第七十五條ノ罪

二　刑法第百三十一條第二項ノ罪及其ノ未遂罪

三　刑法第百八十一條ノ罪ノ中人ヲ死ニ致シタル罪

四　刑法第二百條ノ罪及其ノ未遂罪

五　刑法第二百五條第二項ノ罪

六　刑法第二百十八條第二項ノ罪及其ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

七　刑法第二百二十條第二項ノ罪及其ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

八　刑法第二百四十條ノ罪ノ中人ヲ死ニ致シタル罪及第二百四十一條ノ罪並其ノ未遂罪

九　軍機保護法第一條乃至第三條ノ罪及其ノ未遂罪

十　朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ行ハルル法令ノ罪ニシテ前各號ニ記載シタル罪ト性質ヲ同クスルモノ

十一　前各號ニ記載シタル罪ト性質ヲ同クスル舊法ノ罪

第七條　大正元年九月十三日ノ詔書ニ基キ大赦、特赦、減刑若ハ復權ヲ得又ハ大正三年勅令第百四號ニ依リ減刑ヲ得タル後罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ減刑ヲ爲サス

第八條　本令ニ依リ減刑ヲ爲シタル者ト雖特別ノ事情アルトキハ特赦ヲ行フコトヲ得

第九條　第六條ノ規定ニ依リ減刑ヲ爲ササル者ト雖特別ノ事情アルトキハ減刑ヲ行フコトヲ得但シ第六條第一號ニ記載シタル罪及之ト性質ヲ同クスル朝鮮、臺灣若ハ關東州ニ行ハルル法令又ハ舊法ノ罪ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

二〇　大正四年ノ恩赦ニ關スル心得

（大正四年十月　司法次官通牒秘第三九〇號）

（前　略）

前各項ニ依ルノ外恩赦申立及恩赦執行ニ關スル手續ニ付テハ大正元年九月十三日ノ詔書ニ基ク恩赦又ハ大正三年勅令第百四號ニ依ル減刑ニ關シ定メタルモノニ準據スルコト

二一　減刑ノ勅令執行ニ關スル件

（大正四年　司法次官通牒秘第三九八號）

刑期終了ノ日カ減刑ノ勅令公布ノ翌日ニ該ル者ニ付殘刑期ノ二分ノ一ヲ減輕スル場合ニ於テハ其ノ減スヘキ期間ハ一日ナルヲ以テ變更セラレタル刑ノ計算上勅令公布ノ前日ニ刑期終了スヘキ場合アルカ如キモ其ノ公布前ニ刑期終了スヘキ謂レナキカ故ニ原刑期終了日ノ前日タル勅令公布ノ日ヲ以テ變更刑期ノ終了日ト看做スヘキモノトス例ヘハ刑期三月起算日大正四年八月十二日終了日十一月十一日ナル者ニ付テハ其ノ變更刑ハ二月二十九日ナルモ其ノ終了日ヲ十一月十日ト爲スヘキモノトス

二二　減刑ニ關スル件

（大正四年十月　德島監獄典獄回答　秘監發第五三號）

恩赦ノ取扱上疑義相生シ候條左ニ實例ヲ掲ケ及御問合候

（前　略）

右第一例ハ執行猶豫中大正三年ノ減刑ヲ受ケタルモ其ノ減刑以前罪ヲ犯シ減刑後、後發犯罪ノ判決確定シタルモノ第二例ハ假出獄中大正元年ノ減刑ヲ受ケ取消ナクシテ假出獄期間ヲ經過シタルモ其ノ期間中ノ犯罪發覺シ減刑後判決確定シタルモノナリ

勅令第七條ニハ減刑ヲ得タル後罪ヲ犯シ云云トアリテ其ノ犯罪ニ對スル判決ノ言渡如何ニ拘ラス全ク犯罪時日ヲ基準トシタルモノノ如シ果シテ然ラハ前記二例共

減刑ヲ得ル前ノ犯罪行爲ナルヲ以テ何レモ第七條ニ該當セス從テ減刑可然モノト思料致候得共大正三年五月秘發第八八號司法次官通牒第十八項ノ後段ニ依レハ減刑セラレサルモノノ如シト雖本例ノ如キハ同第十八項トハ事例ヲ異ニスルヲ以テ尚容疑ノ點アリ尚第二例ハ他監ヨリ移監セラレタルモノニシテ當時減刑事務取扱ノ原監獄ニ於テハ後發ノ刑ニ對シ減刑ノ取計ヒヲ爲シアラサルモノナリ故ニ今般ノ減刑ヲ爲スヘキモノトセハ大正三年ノ減刑モ同樣ノ規定ニ基クモノナルカ故ニ同時ニ大正三年ノ減刑モ此ノ際併テ取計可然哉

（大正四年十一月法務局長監獄局長同答　秘第四〇六號）

御問合ノ件ハ左記ノ通ニ有之候

一　第一及第二ノ例ニ於ケル受刑者ニ付テハ孰レモ減刑ヲ行フヘキモノトス

二　第二例ニ於ケル受刑者ニ付テハ大正三年五月二十四日ヲ以テ其ノ刑ヲ懲役二年三月ニ變更セラレタルモノトシテ取扱ヒ右變更セラレタル刑ニ付今回更ニ減輕スヘキモノトス

二三　同上ノ件

（大正四年十一月法務局長通牒秘第四一四號）

刑ノ執行猶豫中大正三年五月勅令第百四號ニ依リ減刑セラレタル者ニシテ執行猶豫ヲ取消サルルコトナクシテ猶豫期間經過後他ノ犯罪ニ依リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ本年秘第三九〇號次官通牒乙號勅令第七條ニ該當スル次第ニ有之候

二四　減刑令

（大正十三年一月勅令第十號）

減刑令

第一條　大正十三年一月二十六日前刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニシテ其ノ刑ノ執行前、執行猶豫中、執行中若ハ執行停止中ノモノ又ハ假出獄中ノモノハ本令ニ依リ其ノ刑ヲ減輕ス但シ其ノ執行ヲ遁ルルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二條　死刑ハ之ヲ無期懲役トス

第三條　無期懲役ハ之ヲ有期懲役二十年、無期禁錮ハ之ヲ有期禁錮二十年トス但シ本令施行ノ際七十歲以上ノ者ニ付テハ刑期ヲ十五年トス

第四條　有期ノ懲役又ハ禁錮ニ付テハ左ノ例ニ依ル

一　刑ノ執行ヲ始メサル者ニ付テハ刑期ノ四分ノ一ヲ減ス

二　刑ノ執行ヲ始メタル者ニ付テハ殘刑期ノ二分ノ一ヲ減ス但シ刑ノ執行刑期ノ二分ノ一ニ至ラサル者ニ付テハ前號ノ例ニ依ル

三　本令施行ノ際七十歲以上ノ者ニ付テハ前二號ノ規定ニ依ラス刑期ノ二分ノ一ヲ減ス

前項ノ規定ニ依リ減スヘキ期間ヲ計算スルニ當リ年、月又ハ日ノ端數ヲ生スルトキハ一年ハ之ヲ十二月、一月ハ之ヲ三十日トシ日ノ端數ハ之ヲ除棄ス

第五條　舊法ノ刑ハ之ニ相當スル刑法ノ刑ノ例ニ依リ之ヲ減輕ス

舊法ノ刑ヲ減輕シタルトキハ其ノ刑名ハ之ニ相當スル刑法ノ刑名ニ變更ス

第六條　左ニ揭クル罪ニ付テハ其ノ刑ヲ減輕セス

一　刑法第七十三條及第七十五條ノ罪

二　刑法第百三十一條第二項ノ罪及其ノ未遂罪

三　刑法第百八十一條ノ罪ノ中人ヲ死ニ致シタル罪

四　刑法第二百條ノ罪及其ノ未遂罪

五　刑法第二百五條第二項ノ罪

六、刑法第二百十八條第二項ノ罪及其ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

七　刑法第二百二十條第二項ノ罪及其ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

八　刑法第二百四十條ノ罪ノ中人ヲ死ニ致シタル罪及第二百四十一條ノ罪並其ノ未遂罪

九　軍機保護法第一條乃至第三條ノ罪及其ノ未遂罪

十　朝鮮、臺灣、關東州又ハ南洋群島ニ行ハルル法令ノ罪ニシテ前各號ニ揭クル罪ト性質ヲ同クスルモノ

十一　前各號ニ揭クル罪ト性質ヲ同クスル舊法ノ罪

第七條　大赦、特赦、減刑又ハ復權ヲ得タル後再ヒ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ減刑ヲ爲サス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

二五　減刑令ノ執行ニ關スル件

（大正十三年一月刑事局長通牒秘第八號）

本月秘第四號司法次官通牒減刑令ノ執行ニ付テハ大正

三年五月二十四日刑甲第一五〇號減刑ニ關シ定メタル取扱例ニ準據ス

二六　大正十三年勅令第十號第七條ノ解釋ニ關スル件

（大正十三年二月行刑局長通牒行甲第一八一號）

本年勅令第十號第七條規定ノ趣旨ヲ誤解シ大正元年九月十三日ノ詔書ニ基キ大赦、特赦、減刑若ハ復權ヲ得又ハ大正三年或ハ大正四年ノ減刑ニ浴シタルモノノ再入者ニ限リ減刑セラレサルモノト爲ス向有之樣ニ候ヘトモ本年勅令第十號第七條ハ是等ニ付何等ノ限定ナク從テ大正元年九月十三日ノ詔書ニ基キ大赦、特赦、減刑又ハ復權ヲ得タル者及大正三年勅令第百四號、大正四年勅令第二百五號ニ依リ減刑ニ浴シタル者ハ勿論尚明治三十年勅令第七號ノ一般減刑及朝鮮ノ土地ニ限リ行ハレタル明治四十三年勅令第三百二十五號、大正九年勅令第百二十號、臺灣ノ土地ニ限リ行ハレタル明治三十年勅令第八號ニ依リ恩赦ニ浴シタル者竝其ノ他ノ場合ニ於テ特別ノ事件又ハ人ニ對シ上奏ノ上特赦、減刑又ハ復權ヲ得タル者ノ再入者ニ付テモ亦其ノ適用アルモノニ有之候條萬一之ニ反スル取扱ヲ爲セル向有之候ハハ直ニ減刑ヲ取消相成候樣致度

二七　大正十三年勅令第十號第六條第八號ノ解釋ニ關スル件

（大正十四年三月行刑局長通牒行甲第二四一號）

大正十三年勅令第十號第六條第八號ノ「竝其ノ未遂罪」トアルハ前段第二百四十條、後段第二百四十一條ノ何レノ場合ヲモ包含スルモノナルニ拘ラス偶之カ解釋ヲ誤リ前段第二百四十條ノ未遂罪ニ對シ減刑ヲ行ヒタル向有之樣ニ候ヘ共右ハ規定ノ趣旨ニ反シタル取扱ヒニ有之候間若シ右ノ如キ解釋ノ下ニ取扱ヒタルモノ有之候ハハ此ノ際直ニ減刑ヲ取消相成候樣致度爲念及通牒候

追テ右誤リタル解釋ノ下ニ減刑ニ浴シ既ニ釋放セラレタル者ニ付テハ單ニ其ノ罪名、刑期、氏名ヲ當方ニ報告スルニ止メラレ度候

二八　大正十三年勅令第十號第六條ノ解釋ニ關スル件

（大正十五年六月行刑局長通牒行甲第八八三號）

大正十三年勅令第十號第六條ノ減刑ヲ爲ササル罪ノ決定ニ付大正十四年六月行甲第九一八號ヲ以テ之カ解釋方法設例ノ上各所ニ於テ採リタル方法調査シタル次第モ有之候處右ハ形式的解釋即チ其ノ罪ノ內容ニ依ラスシテ適用法條ニ依リ決スルヲ可ト認メタルヲ以テ實質的解釋即チ罪ノ內容ニ依リ決シタル向ニ對シテハ夫夫訂正方通牒致置候得共當時形式的解釋ニ依リ決定セシ旨報告アリタルニ拘ラス減刑スヘキモノヲ罪ノ內容ニ依リ減刑不適格トシテ減刑セサリシモノアリ今回假釋放上申ニ於テ之ヲ發見シタルハ誠ニ遺憾トスル所ニ有之候條此ノ際更ニ嚴密調査ノ上苟モ疑義ニ涉ルモノハ直ニ御問合相成樣致度候

追テ勅令第十號第六條ノ減刑ヲ爲ササル罪ノ內第八號上段ノ未遂罪ハ特ニ注意ヲ要スルヲ以テ爲念別紙添附致候

（別紙）

大正十三年勅令第十號第六條第八號上段ノ未遂罪即チ強盜人ヲ殺サムトシテ遂ケサルトキハ從來ノ判決例ニ於テハ刑法第二百四十條前段ト同第百九十九條トノ數罪ニ觸レタルモノトシ致死罪ノ未遂ハ認メサリシモ大正十一年十二月判決例ニ變更ヲ來シ刑法第二百四十三條ノ規定ニ依リ同第二百四十條ノ未遂罪トシテ處斷スヘキモノトナシタルヲ以テ均シク犯罪內容カ強盜殺人未遂ナルモ適用法條ヲ異ニスルニ至レルヲ以テ前者ハ減刑シ後者ハ減刑セス

二九　大赦令（昭和二年二月勅令第十一號）

第一條　昭和元年十二月二十五日前左ニ揭クル罪ヲ犯シタル者ハ之ヲ赦免ス

一　刑法第七十四條及第七十六條ノ罪
二　刑法第七十七條乃至第七十九條ノ罪
三　刑法第九十條乃至第九十四條ノ罪
四　陸軍刑法第二十五條、第二十六條及第三十條ノ罪竝其ノ未遂罪及豫備又ハ陰謀ノ罪
五　陸軍刑法第三十五條乃至第三十九條ノ罪
六　陸軍刑法第五十七條乃至第五十九條ノ罪

七　陸軍刑法第七十三條及第七十四條ノ罪
八　陸軍刑法第百三條ノ罪
九　海軍刑法第二十條第二十一條及第二十五條ノ罪
　竝其ノ未遂罪及豫備又ハ陰謀ノ罪
十　海軍刑法第三十條乃至第三十四條ノ罪
十一　海軍刑法第五十五條乃至第五十七條ノ罪
十二　海軍刑法第七十一條及第七十二條ノ罪
十三　海軍刑法第百四條ノ罪
十四　治安警察法違反ノ罪但シ風俗ニ關スルモノヲ除ク
十五　新聞紙法違反ノ罪但シ風俗ニ關スルモノヲ除ク
十六　出版法違反ノ罪但シ風俗ニ關スルモノヲ除ク
十七　衆議院議員選擧法違反ノ罪及法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員ノ選擧ニ關シ同法ノ罰則又ハ大正十四年法律第四十七號衆議院議員選擧法ノ罰則ヲ準用スル法令違反ノ罪
十八　前號ニ揭クル罪ト性質ヲ同シクスル舊法ノ罪
十九　勞働爭議調停法第二十二條ノ罪
二十　明治三十三年法律第三十六號治安警察法第三十條ノ罪
二十一　朝鮮、臺灣、關東州又ハ南洋群島ニ行ハルル法令ノ罪ニシテ前各號ニ揭クル罪ト性質ヲ同シクスルモノ

第二條　前條ニ揭クル罪ニ該ル行爲ニシテ同時ニ他ノ罪名ニ觸ルルトキ又ハ他ノ罪名ニ觸ルル行爲ノ手段若ハ結果タルトキハ赦免ヲ爲サス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三〇　減刑令（昭和二年二月勅令第十二號）

第一條　昭和元年十二月二十五日前刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニシテ其ノ刑ノ執行前、執行猶豫中、執行中、執行停止中又ハ假出獄中ノモノハ本令ニ依リ其ノ刑ヲ減輕ス但シ其ノ執行ヲ遁ルル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　死刑ハ之ヲ無期懲役トス

第三條　無期懲役ハ之ヲ二十年ノ有期懲役トシ無期禁錮ハ之ヲ二十年ノ有期禁錮トス但シ昭和元年十二月二十五日ニ於テ七十歲以上ノ者及犯時十六歲未滿ノ者ニ付テハ之ヲ十五年ノ懲役又ハ禁錮トス

第四條　有期ノ懲役又ハ禁錮ニ付テハ左ノ例ニ依リ刑期ヲ變更ス

一　刑ノ執行ヲ始メサル者ニ付テハ刑期ノ四分ノ一ヲ減ス

二　刑ノ執行ヲ始メタル者ニ付テハ殘刑期ノ二分ノ一ヲ減ス但シ刑ノ執行カ刑期ノ二分ノ一ニ至ラサル者ニ付テハ前號ノ例ニ依ル

三　昭和元年十二月二十五日ニ於テ七十歲以上ノ者及犯時十六歲未滿ノ者ニ付テハ前二號ノ例ニ依ラス刑期ノ三分ノ一ヲ減ス

短期ト長期トヲ定メテ言渡シタル刑ニ付テハ短期及長期ニ付前項ノ例ニ依ル但シ犯時十六歲以上ノ者ニシテ短期ヲ經過シタルモノニ付テハ長期ニ付前項第二號ノ例ニ依ル

前二項ノ計算ヲ爲スニ當リ年、月又ハ日ノ端數ヲ生スルトキハ一年ハ之ヲ十二月、一月ハ之ヲ三十日トシ日ノ端數ハ之ヲ除棄ス

第五條　舊法ノ刑ハ之ニ相當スル刑法ノ刑ノ例ニ依リ之ヲ減輕ス

舊法ノ刑ヲ減輕シタルトキハ其ノ刑名ハ之ニ相當スル刑法ノ刑名ニ變更ス

第六條　左ニ揭クル罪ニ付テハ其ノ刑ヲ減輕セス

一　刑法第七十三條及第七十五條ノ罪
二　刑法第百八條ノ罪及其ノ未遂罪
三　刑法第百四十八條ノ罪及其ノ未遂罪
四　刑法第百八十一條ノ罪
五　刑法第二百條ノ罪及其ノ未遂罪
六　自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタル刑法第二百四條ノ罪
七　刑法第二百五條第二項ノ罪
八　刑法第二百十八條第二項ノ罪及其ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪
九　刑法第二百二十條第二項ノ罪及其ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪
十　刑法第二百三十六條、第二百三十八條若ハ第二百三十九條ノ罪又ハ其ノ未遂罪（但シ前ニ强盜又ハ竊盜ノ行爲ニ因リ刑ニ處セラレタル者ニ限ル）
十一　刑法第二百四十條ノ罪及第二百四十一條ノ罪竝其ノ未遂罪
十二　前各號ニ揭クル罪ト性質ヲ同シクスル舊法ノ罪
十三　軍機保護法第一條乃至第三條ノ罪及其ノ未遂

罪

十四　朝鮮、臺灣、關東州又ハ南洋群島ニ行ハルル法令ノ罪ニシテ前各號ニ掲クル罪ト性質ヲ同シクスルモノ

第七條　併合罪ニ付併合シテ一個ノ刑ノ言渡アリタル場合ニ於テ其ノ併合罪中前條ニ掲クル罪アルトキハ減刑ヲ爲サス

前條ニ掲ケサル罪名ニ觸ルル行爲ニシテ同時ニ前條ニ掲クル罪名ニ觸ルルトキ又ハ前條ニ掲クル罪ノ手段若ハ結果タルトキ亦前項ニ同シ

第八條　前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ昭和元年十二月二十五日前十五年以内ニ恩赦ヲ得其ノ後七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノニ付テハ其ノ刑ヲ減輕セス

第九條　前數條ノ規定ニ依リ減刑ヲ爲ササル者ト雖特別ノ事情アルトキハ減刑ヲ行フコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三一　復權令（昭和二年二月勅令第十三號）

第一條　罰金以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル爲資格ヲ喪失シ又ハ停止セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ昭和元年十二月二十五日ノ前日迄ニ十年以上ヲ經過シタルモノハ復權ス

但シ大正五年十二月二十五日以後ニ再ヒ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　十八歳未滿ノ時罪ヲ犯シ死刑又ハ無期刑ニ非サル刑ニ處セラレタル者ニシテ昭和元年十二月二十五日ノ前日迄ニ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除ヲ得タルモノハ其ノ刑ニ處セラレタル爲喪失シ又ハ停止セラレタル資格ニ付復權ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三二　大赦令施行ニ關スル心得（昭和二年刑事局長通牒第二九號）

第一條　昭和元年十二月二十五日前（大正十五年十二月二十四日午後十二時迄）ニ於テ昭和二年勅令第十一號大赦令第一條ニ掲クル罪ヲ犯シタル者ハ起訴セラレタルモノナルト否トヲ問ハス、判決ヲ經タルモノナルト否トヲ論セス又既ニ刑ノ執行ヲ終リタルモノナルト否トヲ別タス其ノ罪ニ付總テ赦免ヲ得ルモノトス

第二條　大赦令第一條第十四號ノ風俗ニ關スルモノトハ治安警察法第十條又ハ第十六條ニ依リ風俗ヲ害スル虞アリト認メテ爲シタル中止又ハ禁止ノ命令ニ違背シタル同法第二十四條又ハ第二十九條ノ罪ヲ謂フ

第三條　大赦令第一條第十五號ノ風俗ニ關スルモノトハ新聞紙法第二十三條又ハ第二十四條ニ依リ風俗ヲ害スルモノト認メテ爲シタル發賣頒布ノ禁止若ハ差押ノ命令ニ違背シ又ハ情ヲ知リテ其ノ新聞紙ヲ發賣、又ハ頒布シタル第三十八條ノ罪、其ノ新聞紙ノ差押處分ノ執行ヲ妨害シタル第三十九條ノ罪及風俗ヲ害スル事項ヲ新聞紙ニ掲載シタル第四十一條ノ罪ヲ謂フ

第四條　大赦令第一條第十六號ノ風俗ニ關スルモノトハ出版法第十九條又ハ第二十條ニ依リ風俗ヲ壞亂スルモノト認メテ發賣頒布ヲ禁セラレタル文書圖畫ヲ發賣頒布シタル第三十八條第二項ノ罪及風俗ヲ壞亂スル文書圖畫ヲ出版シタル第二十七條ノ罪ヲ謂フ

第五條　大赦令第一條第十七號ノ法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員ノ選擧ニ關シ衆議院議員選擧法又ハ大正十四年法律第四十七號衆議院議員選擧法ノ罰則ヲ準用スル法令トハ北海道會法、府縣制、市制、町村制、貴族院多額納稅者議員ノ互選規則等ヲ謂フ

第六條　赦免ヲ得ヘキ罪ニ付檢事ニ於テ勾留中ノ者ハ直ニ之ヲ釋放スヘシ又現ニ公訴提起前ノ强制ノ處分ヲ請求中ナルトキハ檢事ハ速ニ豫審判事又ハ區裁判所判事ニ對シ大赦ニ因リ强制ノ處分ヲ必要トセサルニ至リタル旨ヲ通知シ被疑者勾留中ナルトキハ直ニ釋放ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條　赦免ヲ得ヘキ罪ニ付被告事件裁判所ニ繫屬中ナルトキハ左ノ例ニ依ル

一　豫審又ハ公判中ナルトキハ檢事ハ速ニ免訴ノ裁判ヲ求メ其ノ裁判アリタルトキ被告人勾留中ナルトキハ直ニ釋放ノ手續ヲ爲スヘシ

二　被告人刑ノ言渡ヲ受ケタルトキハ上訴ヲ爲スコトヲ要セス被告人勾留中ナルトキハ直ニ釋放ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條　赦免ヲ得ヘキ罪ト他ノ罪ト併合罪又ハ數罪俱

發ノ關係アルカ爲一個ノ刑ノ言渡アリタル場合ニ於テ其ノ判決未タ確定セサルトキハ檢事ハ上訴ノ申立ヲ爲スヘシ

第九條　刑法第五十二條ノ場合ニ於テ刑事訴訟法第三百七十五條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムヘキ手續ニ關シテハ左ノ例ニ依ル

一　既ニ刑ノ執行ヲ終リ又ハ刑ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタルモノナルトキハ特ニ必要アル場合ヲ除クノ外檢事ハ特ニ刑ヲ定ムヘキ請求ヲ爲スコトヲ要セス

二　未タ刑ノ執行ニ著手セサルトキハ檢事ハ特ニ刑ヲ定ムヘキ請求ヲ爲スヘシ

三　刑ノ執行中ナルトキハ檢事ハ特ニ刑ヲ定ムヘキ請求ヲ爲シ場合ニ依リ刑ノ執行停止ノ指揮ヲ爲スヘシ（刑事訴訟法第五百四十六條第七號）

第十條　在監中ノ受刑者ニシテ刑法第五十二條ニ定メタル場合ニ該當スルモノアルトキハ刑務所ノ長ハ速ニ犯罪事實ニ付最終ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ檢事、檢察官其ノ他相當官署ヘ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第十一條　赦免ヲ得ヘキ罪ニ付刑ノ言渡ヲ受ケ上訴期間內ニ在ル者（拘禁中ノ者ヲ除ク）、判決確定シタルモ未タ執行ニ著手セサル者、執行猶豫中、執行停止中又ハ假出獄中ノ者ニ對シテハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ハ書面ヲ以テ速ニ赦免ヲ得タル旨ヲ通達スヘシ

赦免ヲ得ヘキ罪ニ付勾留中ノ者又ハ刑ノ言渡ヲ受ケ在監中ノ者ニ對シテハ刑務所ノ長ハ口頭ヲ以テ速ニ赦免ヲ得タル旨ヲ通達シ（但シ出張所ニ收容中ノ者ニ對シテハ別ニ定ムル所ニ依ル）遲滯ナク釋放スヘシ若シ赦免スヘキ罪ナリヤ否ニ付疑アルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所若ハ刑務所所在地ノ檢事又ハ檢察官ニ協議ヲ遂ケ適當ノ處置ヲ爲スヘシ

刑務所ノ長前項ニ依リ釋放ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事又ハ軍法會議ノ檢察官ニ通知スヘシ

第十二條　軍法會議ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケ軍人、準軍人タル身分ヲ失ヒタル者ニシテ未タ執行ニ著手セサルモノ、執行猶豫中、執行停止中又ハ假出獄中ノモノアルコトヲ知リ得タル場合ニ於テハ本人ノ住居地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事前條第一項ノ通達ヲ爲スヘシ

前項ノ通達ヲ爲シタルトキハ第十六條ニ依リ司法大臣ニ報告スルノ外刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議ノ長官ニ其ノ旨ヲ報告スヘシ

第十三條　檢事朝鮮、臺灣、關東州、南洋群島ノ司法官廳又ハ領事ヨリ判決ノ執行ノ囑託ヲ受ケ其ノ執行ノ指揮ヲ爲シタル場合ニ於テ執行停止中又ハ假出獄中ナルトキハ前條ノ定ムル所ニ準シテ取扱ヲ爲スヘシ

第十四條　在監中ノ受刑者ニシテ軍法會議ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケ軍人、準軍人タル身分ヲ失ヒタルモノニ對シ第十一條第二項ノ處分ヲ爲シタルトキハ刑務所ノ長ハ第十二條第二項ニ準シ報告ヲ爲スヘシ朝鮮、臺灣、關東州、南洋群島ノ司法官廳又ハ領事ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲シタル者ニ付亦同シ

第十五條　赦免ヲ得ヘキ罪ニ付刑ノ言渡ヲ受ケ既ニ執行ヲ終リ若ハ執行ノ免除ヲ得タル者又ハ其ノ親族若ハ遺族ヨリ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ニ對シ赦免ヲ得タル旨ノ證明ヲ請フトキハ之ヲ精査シタル上證明書ヲ交付スヘシ

第十六條　檢事又ハ刑務所ノ長本心得ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ速ニ司法大臣ニ報告スヘシ

第十七條　本心得ニ定ムル報告、通達又ハ證明ヲ爲ス場合ニ於テハ左ノ書式ニ依ルヘシ

年　月　日

司法大臣宛

何裁判所檢事正

大赦ニ關スル報告（選擧犯罪ニ關スルモノ）

犯罪時	選擧別	貴族院議員	衆議院議員	道府縣會議員	郡會議員	市（區）會議員	町村會議員	其他	計
明治廿二年	體刑								
	金刑	人	人	人	人	人	人	人	人
明治廿三年	體刑								
	金刑	人	人	人	人	人	人	人	人

何年	何年	計
	人	人
	人	人
	人	人
	人	人
	人	人
	人	人
	人	人
	人	人
	人	人
	人	人
	人	人
	人	人
	人	人
	人	人

年　月　日

刑務所長

司法大臣宛

大赦ニ關スル報告

言渡ノ裁判所 其他司法官廳	判決年月日	罪名	刑名、刑期、金額	赦免通達ノ年月日及通達ノ當時拘禁、不拘禁ノ別	本籍 氏名 年齢

| | | | | |

三　選擧ニ關シテ赦免ヲ得タル者ニ付テハ別樣式ニ依ルコト

本籍、住居、族籍
年　月　日　裁判所言渡
刑法第　條ノ罪、禁錮　年　氏　名
年　齡

右ハ昭和二年勅令第　號大赦令ニ依リ赦免セラル

右通達（證明）ス

官　廳
年　月　日
印

官氏名㊞

三三　減刑令施行ニ關スル心得

（昭和二年刑事局長通牒秘第二九號）

第一條　減刑ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ其ノ判決カ昭和元年十二月二十五日前（大正十五年十二月二十四日午後十二時迄）ニ確定シタル者ニ限リ行ハルルモノトス

第二條　減刑令第一條但書ニ執行ヲ遁ルル者トハ刑ノ執行著手前タルト著手後タルトヲ問ハス本令施行ノ時ニ於テ現ニ執行ヲ遁レ居ル者ヲ謂フ

刑ノ施行ノ爲召喚ヲ受ケ疾病其ノ他正當ノ事由ニ因リ出頭スルコト能ハサル者ハ刑ノ施行ヲ遁ルル者ニ該當セス

第三條　刑ノ執行中ノ者ニ對シ減刑アリタルトキハ刑務所ノ長ハ速ニ帳簿ニ就キ刑名刑期ノ記載ヲ改メ且口頭ヲ以テ減刑ノ趣旨ヲ通達スヘシ在監中ノ死刑囚ニ付亦同シ但シ出張所ニ收容中ノ者ニ對スル通達ニ付テハ別ニ定ムル所ニ依ル

刑務所ノ長前項ノ手續ヲ終リタルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事又ハ檢察官ニ變更セラレタル刑名刑期ヲ通知スヘシ

第四條　刑ノ執行前、執行猶豫中、執行停止中又ハ假出獄中ノ者ニ對シ減刑アリタルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ハ速ニ書面ヲ以テ減刑ノ趣旨ヲ通達スヘシ通達ハ假出獄中ノ者ニ付テハ所轄警察署ヲ經由スヘシ

少年ニシテ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケ又ハ假出獄ヲ許サレタル者（少年法第六條）ニ對スル前項ノ通達ハ所轄少年審判所又ハ少年審判所ノ事務ヲ行フ所轄刑務所ヲ經由スヘシ

第五條　刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ハ減刑ニ因リ變更セラレタル刑名刑期ヲ本人ノ本籍地ヲ管轄スル市區町村長及地方裁判所ノ檢事ニ通知シ（大正七年六月五日司法省法務局行甲第七十二號通牒參照）

且刑ノ執行停止中又ハ假出獄中ノ者ニ付テハ之ヲ刑務所ノ長ニ通知スヘシ

第六條　檢事ハ減刑セラレタル者ニ付恩赦令第十八條第ノ規定ニ依ル附記ヲ爲スノ外訴訟記錄ヲ保存スル檢事局ニ變更セラレタル刑名刑期ヲ通知スヘシ

第七條　軍法會議ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケ軍人、準軍人タル身分ヲ失ヒタル者ニシテ刑ノ執行前執行猶豫中、執行停止中又ハ假出獄中ノモノアルコトヲ知リ得タル場合ニ於テハ本人ノ住居地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事第四條ノ通達ヲ爲スヘシ

第八條　檢事又ハ刑務所ノ長ハ減刑セラレタル人員及減刑セラレサル人員ヲ（在監中ノ者ニ付テハ刑務所ノ長其ノ他ニ付テハ檢事）別紙樣式ニ從ヒテ司法大臣ニ報告スヘシ

前條ニ規定シタル者ニ關スル前項ノ報告ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニモ之ヲ爲スヘシ

第九條　檢事朝鮮、臺灣、關東州又ハ南洋群島ノ司法官廳又ハ領事ヨリ判決執行ノ囑託ヲ受ケ其ノ執行ノ指揮ヲ爲シタル場合ニ於テ執行停止中又ハ假出獄中ナルトキハ第七條ノ定ムル所ニ準シテ取扱ヲ爲スヘシ

第十條　刑務所ノ長減刑ニ付疑アルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所若ハ刑務所所在地ノ檢事又ハ軍法會議ノ檢察官ニ協議ヲ遂ケ適當ノ處置ヲ爲スヘシ

第十一條　殘刑期ノ計算ハ左ノ例ニ依ルヘシ

一　刑ノ執行中ノ者ニ付テハ減刑令公布ノ當日ヨリ刑期終了ノ日ニ至ル迄ノ期間ヲ曆ニ從ヒテ算出ス

二　刑ノ執行停止中又ハ假出獄中ノ者ニ付テハ釋放

ノ前日迄ニ執行ヲ爲シタル期間ヲ暦ニ從ヒテ算出シ之ヲ全刑期ヨリ減シテ殘刑期ヲ定ム

第十二條　減刑ニ因リ變更セラレタル刑期ハ執行ニ着手シタル日ヨリ暦ニ從ヒテ計算スヘシ

第十三條　刑期四分ノ一ヲ減スル計算ハ左ノ例ニ依ルヘシ

一　刑期七年ノ場合

七年ヲ四ヲ以テ除シ一年ヲ得其ノ端數三年ヲ三十六月トシ四ヲ以テ之ヲ除シ九月ヲ得故ニ七年ヨリ一年九月ヲ減スヘキモノトス而シテ此ノ減算ヲ爲スニハ七年ヲ六年十二月トシ之ヨリ一年九月ヲ減スヘシ則チ五年三月ノ刑ニ變更セラル

二　刑期三月ノ場合

三月ハ四ヲ以テ整除スルコト能ハサルヲ以テ之ヲ九十日トシ四ヲ以テ除シ二十二日ヲ得殘餘二日ヲ四ヲ以テ除スレハ日ノ端數ト爲ルヲ以テ之ヲ除棄ス故ニ三月ヨリ二十二日ヲ減ス而シテ此ノ減算ヲ爲スニハ三月ヲ二月三十日トシ之ヨリ二十二日ヲ減スヘシ則チ二月八日ノ刑ニ變更セラル

第十四條　殘刑二分ノ一ヲ減スル計算ノ設例左ノ如シ

一　刑期ヲ二年トシ大正十四年十月十日執行ニ着手シ昭和二年二月七日減刑令公布アリタルモノト假定シ計算スルトキハ昭和二年二月七日ヨリ終期ナル昭和二年十月九日迄ノ期間ハ八月三日ト爲ルヲ以テ二ヲ以テ之ヲ除シ四月ヲ得其ノ殘餘三日ヲ二ヲ以テ除シ一日ヲ得其ノ殘餘ハ端數ナルヲ以テ之ヲ除棄ス故ニ二年ヨリ四月一日ヲ減シ一年七月二十九日ノ刑ニ變更セラレ其ノ刑期終了ハ昭和二年六月七日ナリトス

二　刑期ヲ一年四月、執行ノ初日ヲ大正十四年十月十日、假出獄ノ日ヲ昭和二年一月二日、減刑令公布ノ日ヲ昭和二年二月七日ト假定シテ計算スルトキハ既ニ執行ヲ受ケタル期間ハ一年二月二十三日ト爲ル之ヲ一年四月ヨリ減シ一月七日ヲ得之ヲ三十七日トシ二ヲ以テ除シ十八日ヲ得其ノ殘餘一日ハ端數ナルヲ以テ之ヲ除棄ス故ニ一年四月ヨリ十八ヲ減シ一年三月十二日ノ刑ニ變更セラレ其ノ刑期終了ハ昭和二年一月二十一日ナリトス從テ本例ニ於ケル受刑者ニ付テハ既ニ其ノ假出獄ノ期間終了シタルモノトス

第十五條　減刑令第四條第二項本文ハ左ノ趣旨ナリトス

一　刑ノ執行ヲ始メサル者ニ付テハ短期及長期ノ各四分ノ一ヲ減ス

二　昭和元年十二月二十五日ニ於テ七十歳以上ノ者及犯時十六歳未滿ノ者ニ付テハ常ニ長期及短期ノ各三分ノ一ヲ減ス

第十六條　減刑令第四條第二項但書ハ左ノ趣旨ナリトス

刑ノ短期ヲ經過シ未タ長期ノ二分ノ一ニ至ラサル者ニ付テハ長期ノ四分ノ一ヲ減シ二分ノ一ニ達シタル者ニ付テハ長期ノ殘刑期ノ二分ノ一ヲ減スルモノニシテ此ノ場合ニ於テハ短期ハ變更セラレサルモノトス

第十七條　減刑令第六條第十號ハ刑法第二百三十六、第二百三十八條、第二百三十九條ノ罪又ハ其ノ未遂罪ヲ犯シタル者ニシテ之ト累犯關係ヲ有スルト否トヲ論セス苟モ一回以上前ニ盜强又ハ竊盜ノ行爲（舊刑法又ハ其ノ他ノ法令ニ規定セル盜盜又ハ竊盜ノ行爲ヲ包含ス）ニ因リ刑ニ處セラレタルコトアル者ハ減刑セラレサル趣旨ナリトス

第十八條　減刑令第八條ニ昭和元年十二月二十五日前十五年以内トアルハ明治四十四年十二月二十五日ヨリ大正十五年十二月二十四日迄ノ期間ヲ謂ヒ其ノ後七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノトハ恩赦（大赦、特赦、減刑、復權）ヲ得タル當日ヨリ起算シ七年内ニ禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケ判決確定シタル者ヲ謂フ

第十九條　未決勾留ヲ通算スヘキ刑ニ付テハ大正三年五月十二日秘第一〇四號司法次官通牒ノ趣旨ニ從ヒ計算スヘシ

本籍、住居、族籍

年　月　日　判裁所言渡

刑法第　條　懲役　年　氏　年　名　齡

右ハ昭和二年勅令第　號減刑令ニ依リ其ノ刑ヲ懲役　年　月　日ニ變更セラル

右通達ス

年　月　日　官氏名㊞

官廳印

備考

假出獄中ノ者ニ付減刑ニ因リ刑期終了シタルトキハ其ノ旨ヲ附記スヘシ

昭和　年　月　日

司法大臣宛

刑務所長　氏名

在監中減刑ヲ受ケタル者ニ關スル報告

一員數

罪名＼刑期別	無期刑	十五年以上	十五年未滿	十年以下	五年以下	三年以下	二年以下	一年以下	六月以下	三月以下	計
死刑											
盜物											
強盜											
賭博及富籤											
詐欺及恐喝											
横領											
贓物											
毀棄及隱匿											
通貨偽造											
文書有價證券偽造											
私章偽造											
偽證誣告											
瀆職											
猥褻姦淫及重婚											
傷害											
殺人											
嬰兒殺											
逮捕及監禁											

其他	合計
三四	三四

備考

本表刑期欄中イ段ハ二十年ノ有期刑ニ減セラレタル者、ロ段ハ十五年ノ有期刑ニ減セラレタル者ノ數ヲ記入シ、甲段ニハ減刑令第四條第一項第一號、乙段ニハ同項第二號本文、丙段ニハ同項第三號ニ依リ減刑セラレタル者ノ數ヲ記入ス

二　有期刑ノ減刑期間

十日未滿	一年三月未滿
廿日未滿	一年六月未滿
一月未滿	一年九月未滿
二月未滿	二年未滿
三月未滿	二年六月未滿
四月未滿	三年未滿
五月未滿	三年六月未滿
六月未滿	四年未滿
八月未滿	四年六月未滿
十月未滿	五年未滿
一年未滿	五年以上

毀棄	公務執行妨害	逃走犯人藏匿及證憑湮滅	騷擾	放火	家宅侵入	略取及誘拐	陸海軍刑法	森林法	鐵兵令	郵便法	電信法

附記

一　在監中減刑受ケサル者ニ關スル報告ハ減刑ヲ受ケタル者ノ員數ニ關スル前表ノ罪名及刑期別ニ從ヒ員數ヲ記入スルコト

二　刑ノ執行前、執行猶豫中、執行停止中及假出獄中ノ者ノ減刑ニ關スル報告ハ前記樣式ニ準シ且刑ノ執行前、執行中、執行停止中及假出獄中ノ別ニ從ヒ表出スルコト

三　通常裁判所以外ノ司法官廳ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ備考トシテ其ノ員數ヲ再記シ且刑ノ言渡ヲ爲シタル當該官廳ノ名稱ヲ揭記スルコト

四　禁錮ノ受刑者ハ懲役ノ受刑者ト合算セス各相當欄ニ朱書ヲ以テ並記スルコト

五　減刑セラレタル爲直ニ釋放セラレタル者及假出獄中ノ者ニシテ減刑セラレタル爲直ニ刑期終了シタル者アルトキハ各罪名刑名刑期等ヲ表示シテ其ノ人員ヲ報告スルコト

三四　復權令施行ニ關スル心得

（昭和二年刑事局長通牒秘第六六號）

第一　調査

一　復權ニ關スル調査ニ付テハ常ニ秘密ヲ旨トシ復權ヲ得タル者ノ名譽ヲ害スルカ如キ方法ハ絶對ニ之ヲ避クヘシ

二　復權ニ關スル調査ノ範圍ハ概ネ左ノ標準ニ依ルヘシ

(1)　復權證明ノ請求アリタルモノ

(2)　衆議院議員其ノ他法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員ノ選擧權及被選擧權ノ回復ニ關係アルモノ（大正十四年法律第四十七號衆議院議員選擧法第六條第五號及第六號參照）

(3)　現行刑法施行後ニ於テ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ大正五年十二月二十四日迄ニ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除ヲ得タル者ニ關スルモノ

(4)　判決ノ原本ニシテ天災其ノ他ノ事由ニ因リ既ニ滅失シ又ハ廢棄セラレタル場合ニ於テハ(1)又ハ(2)ニ該當スル場合ヲ除キ差當リ調査ヲ要セス

三　前項(1)乃至(3)以外ノモノニ關スル調査ハ差當リ之ヲ爲スコトヲ要セス

四　復權令第二條ニ關スル調査ハ特ニ必要アル場合ノ外差當リ之ヲ爲スコトヲ要セス

五　復權ノ調査ハ成ルヘク次ノ手續ニ依ルヘシ

(1)　復權證明ノ請求アリタル場合ニ於テハ請求者其ノ他ニ就キ其ノ犯數、犯罪ノ時、刑名、刑期等ノ調査ヲ遂ケ復權ヲ得タル者ナルヤ否ヲ確ムヘシ、數犯アル場合ニ於テ最後ノ犯罪ニ對スル刑カ他ノ裁判所ニ於テ言渡サレタルモノナルコトヲ知リタルトキハ調査書類ヲ添附シテ之ヲ當該裁判所ノ檢事ヘ移送スヘシ

(2)　地方裁判所檢事局ハ豫メ管轄地域內ニ於ケル市(區)役所又ハ町村役場ニ對シ各其ノ管轄地域內ニ住居スル者ニ關シ今次ノ勅令ニ依リ衆議院、議員其ノ他ノ議會ノ議員ノ選擧權及被選擧權ノ回復ニ付疑義ノ存スルモノノ有無ヲ照會シ其ノ回答ニ基キテ調査ヲ爲スヘシ

第二　判決原本ノ附記

前項ニ依リ調査ヲ遂ケタルトキハ判決ノ原本（數犯アル場合ニ於テハ最後ノ判決ノ原本）及犯罪人名簿（犯罪票原本）ニ復權シタル旨ヲ附記スヘシ他ノ犯罪ニ關スル判決ノ原本他ノ裁判所ノ檢事局ニ存スルトキハ復權シタル旨ヲ當該檢事ニ通知スヘシ通知ヲ受ケタル檢事ハ其ノ旨ヲ犯罪人名簿ニ記入スヘシ

第三　通知

前項ニ依リ判決ノ原本ニ附記ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ハ復權ヲ得タル者ノ本籍地ヲ管轄スル地方裁判所檢事局及市(區)役所又ハ町村役場ヘ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第四　證明

復權ノ證明ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ニ於テ之ヲ爲スヘシ數犯アル場合ニシテ其ノ裁判カ別異ノ裁判所ニ於テ言渡サレタルモノナルトキハ最後ノ犯罪ニ付刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ニ於テ復權ノ證明ヲ爲スヘシ證明書ノ樣式ハ別紙記載例ニ依ル

第五　報告

檢事復權ノ證明ヲ爲シタルトキハ翌月十日迄ニ前月中ニ證明ヲ爲シタル數ヲ報告スヘシ（但シ區裁判所檢事局ノ分ハ地方裁判所檢事局ニ於テ取纏メ報告ノコト）

（別紙）

本籍、住居、族籍　氏名
年齢

右ハ昭和二年勅令第十三號復權令第　條ニ依リ復權セラル

右證明ス

年　月　日　官廳　官氏名　印

備考

十八歳未滿ノ時罪ヲ犯シ十八歳ニ達シタル後更ニ罪ヲ犯シタル者ニ對シ前ノ罪ニ付テノミ復權ノ證明ヲ爲ストキハ復權令第二條ニ依ル復權トシテ取扱フヘキモノトス

三五　減刑令第八條ノ解釋ニ關スル件

（昭和二年二月刑事局長通牒秘第四六號）

去月二十八日付秘第二七號大官通牒ニ關シ疑義ヲ懷カルル向モ有之哉ニ被存候間左記事項爲御參考及通牒候

刑ノ執行猶豫中恩赦ヲ得タル後其ノ言渡ヲ取消サルルコトナクシテ經過シ恩赦ヲ得タル當日ヨリ七年以内ニ再ヒ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ニ付テハ減刑令第八條ニ依リ減輕ヲ爲サレサルモノトス

三六　同上ノ件

（昭和二年二月刑事局長通牒秘第五一號　檢事總長檢事正宛）

標記ノ件ニ付刑務所長其ノ他ヨリ質疑ニ對シ左記ノ如ク回答致置候

第八條ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ其ノ刑ニ付昭和元年十二月二十五日前十五年以内ニ恩赦ヲ得其ノ後七年以内ニ苟モ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアル者ニ付テハ現ニ執行中ノ刑カ前記七年ヲ經過シタル後言渡サレタル罪ナル場合ニ於テモ仍減刑ヲ得サルノ趣旨ナリトス

三七　同上ノ件

第一　窃盜懲役八年（大正九年四月二十三日判決確定

同日ヨリ起算ノモノニシテ本刑ハ大正三四年ノ恩赦ニ浴シタル後ノ犯行ナルヲ以テ大正十三年ノ恩赦ハ勿論今回ノ一般減刑令ニ依ル恩赦ニモ浴スルコト能ハサルモノ）ノ刑横濱刑務所ニ於テ執行中偶大正十二年九月一日關東ニ於ケル震災ニ依リ同日午後八時頃一時開放セラレ二十四時間内ニ歸所スヘキ旨嚴達セラレタルニ拘ラス其ノ儘逃走シタル爲大正十二年十月逮捕セラレ同月二十七日ヨリ殘刑執行中ノモノ

第二　右逃走中大正十二年十月十五日窃盜罪ヲ犯シタルニ付前記逃走罪ト併合シテ懲役四年ニ處セラレ第一刑終了後引續キ執行スヘキモノ

右第一ノ刑ハ同項記述ノ如ク此ノ際減刑スヘカラサルハ勿論ナルモ第二ノ刑ハ大正四年ノ恩赦後七年以上ヲ經過セルニ付減刑令第八條ニ依リ減刑セラルヘキモノノ如ク思料セラルルモ右ハ前例ナキ稀有ノ問題ニ付爲念及御問合候條至急何分ノ御指示相仰度候

（昭和二年二月刑事局長同答刑事第一〇二號）

本月十二日附甲發第一〇二號ヲ以テ御問合ノ件ハ減刑ニ浴セシムヘカラサルモノト思考ス

三八　同上ノ件

（昭和二年二月市谷刑務所長問合刑發第三〇八號）

左記第一ノ刑目下執行中ニシテ引續キ第二ノ刑執行スヘキモノニ有之候處第二刑減刑ニ關シ本年二月勅令第十二號減刑令第八條ハ之ヲ適用セラルヘキヤ即チ減刑ヲ爲ササル趣旨ナルヤ將又減刑スヘキモノナリヤ聊カ疑義有之候ニ付テハ至急何分ノ御回示相煩度

第一刑　大正十四年六月十八日言渡（大正十四年九月二十九日判決確定）横領業務上横領懲役一年六月

第二刑　大正九年四月二十三日言渡

詐欺横領懲役二年　五年間執行猶豫

（大正十三年一月勅令第十號ニ依リ懲役一年六月ニ減刑セラル）大正十五年一月九日右執行猶豫取消決定同年八月十一日刑執行指揮アリ

（昭和二年二月刑事局長回答　刑事第一二九七號）

本月二十二日附刑發第三〇八號ヲ以テ御照會相成候件ハ減刑ニ浴セシムヘキモノニ非スト思考致候

三九　同上ノ件

（昭和二年三月福岡刑務所長問合　發第一一六四號）

昭和二年二月七日勅令第十二號減刑令第八條中「其後七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノニ付テハ其ノ刑ヲ減輕セス」ニ付左記二樣ノ解釋有之當所ニ於テハ甲說ニ依リ處理致候ヘ共聊カ疑義ニ渉リ候條電信ニテ何分ノ御回報相煩度候

甲說　「七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノ」ナルヲ以テ其ノ犯罪カ恩赦以前ニ係ルモノナルト恩赦ヲ得タル後更ニ罪ヲ犯シタルモノナルトヲ問ハス禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキカ恩赦後七年以内ナルトキハ其ノ刑ヲ減輕セス

乙說　「七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノ」トハ恩赦ヲ得タル後更ニ罪ヲ犯シテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノハ其ノ刑ヲ減輕セストノ精神ニシテ恩赦後七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノト雖其ノ犯罪カ恩赦前ニ係ルトキハ其ノ刑ヲ減輕スヘキモノトス

（昭和二年三月刑事局長回答　刑事第一六五七號）

御照會ノ件ハ甲說ノ通ト思考ス

四〇　減刑令第六條ノ解釋ニ關スル件

（昭和二年二月廣島刑務所長問合　發第三一〇號）

強盜强姦ノ罪名ノ下ニ吳鎭守府軍法會議ニ於テ懲役六年ニ處セラレ目下當所ニ於テ執行中ノ者有之候處適用法條ハ刑法第百七十七條同第二百三十六條ノ併發罪ニ係リ其ノ重キ强盜罪ニ付併合加重ヲ爲シ同第二百四十一條ヲ適用セラレサルニ依リ減刑令第六條第十一號ニ該當セサルヲ以テ恩赦ニ浴セシムルノ外ナシト思料候モ一面刑法第二百四十一條ノ適用ナシトスルモ實質上何等異ルコトナキヲ以テ恩赦ニ浴セシメサルヲ妥當トスル說有之候條右何分ノ御指示相仰候

（昭和二年二月刑事局長遺稿　刑事第九九〇號）

御問合相成候減刑ニ關スル件ハ減刑令第六條第十一號ニ該當セサルヲ以テ恩赦ニ浴セシムヘキモノト思考致候

四一　減刑令第四條ノ解釋ニ關スル件

（昭和二年二月鉅鹿少年刑務所長問合　發第二號）

減刑令第四條第二號ニ依リ犯時十六歲以上ノ者ニシテ短期ハ二分ノ一ヲ經過シ長期ハ二分ノ一ヲ經過セサル者ハ長期ノ殘期モ短期同樣二分ノ一ヲ減ス可キヤ將タ長期ノ四分ノ一ヲ減スヘキヤ疑義相生シ候ニ付至急何分ノ御回示相煩度候

（昭和二年二月刑事局長回答）

二月四日秘第二號問合設例ノ場合ニ於テ長期ハ其ノ四分ノ一ヲ減スヘキモノトス

四二　減刑令第四條第一項第二號但書ノ解釋ニ關スル件

（昭和二年三月松山刑務所長問合　松文第一九八號）

未決勾留日數ヲ通算スヘキ刑ノ減刑計算上減刑令第四條第一項二號但書ノ解釋ニ付刑務所間ニ於テ左記ノ通二樣ノ見解有之取扱區區ニ相成之カ爲變更刑期ニ一日ノ差異ヲ生シ候條何レカ正當ナルヤ至急何分ノ御回示相願度此段及問合候

原刑懲役四年　未決勾留日數七十日通算
原刑起算日　大正十五年十月十一日
原刑終了日　昭和五年八月一日

第一說　右ハ未決勾留日數ヲ通算スヘキモノニ付本年秘第二九號刑事局長通牒減刑令施行ニ關スル心得第十九條ニ據リ大正三年五月秘第一〇四號司法次官通牒ノ趣旨ニ從ヒ計算スヘキモノナリ而シテ本刑ハ既ニ大正十五年十月十一日ヨリ執行ヲ始メタルモノニ付該通牒第六項ロ（刑ノ執行ヲ始メタルトキ）ノ例ニ依リ刑期ノ算出ヲ爲シ刑ノ執行カ刑期ノ二分ノ一ニ

至ラサルモノニ付減刑令第四條第一項二號但書ニ依リ其ノ減刑歩合ハ同條同項一號ノ例ニ依リテ刑期ノ四分ノ一ヲ減スヘキモノナリ即チ減刑令第四條第一項二號但書ニ所謂前號ノ例ニ依ルトハ第一號ニ規定セラレタル刑ノ減輕歩合ヲ指稱スルモノニシテ其ノ資格ニ迄之ヲ及ホシ刑ノ執行ヲ始メサルモノトシテ計算スヘキモノニアラス（本計算ニ依リ減刑セラレタル變更刑期ハ懲役三年十七日未決勾留日數七十日通算）

第二說ノ要旨ハ刑ノ執行ヲ始メサルモノト同樣視シ前記秘第一〇四號通牒設例イニ依リ計算ス

（昭和二年三月刑事局長同答　刑事第一七三一號）

御問合ノ件ハ第一說ノ通ト思考致候

四三　減刑ニ關スル件

（昭和二年二月奈良刑務所長問合　秘第一八號）

減刑令第四條第三號ニ因ル犯時十六歳未滿ノ者ニ對スル左記事項ニ付疑義相生シ候ニ付至急電報ニテ何分ノ御指示相仰候

一　出生ノ年ノミ明ナルモ月日不詳ノ者アリ斯ル場合ハ本人利益ノ爲翌年一日生トシテ計算シ可然哉

二　犯罪ノ日時明瞭ナラス單ニ何年何月頃又ハ何月中ト記載セルモノアリ此ノ場合モ亦本人利益ノ爲其ノ前月末日ノ犯罪トシテ計算シ可然哉

三　或犯罪ハ犯時十六歳未滿ナルモ其ノ他ノ犯罪ニ於テ十六歳以上ニ達スル者アリ斯ル場合ハ刑法第五十五條ニ依リ連續犯トシテ一罪ニ處斷サレタルモノニ付當然此ノ恩典ニ浴セシムヘキモノニ非スト解釋致居候

（昭和二年二月刑事局長同答）

御問合ノ一ハ記錄等ヲ精査シ尙不詳ナルトキハ出生ノ年ノ最終日生ト爲シ二ハ其ノ月ノ初日ヲ犯時トシ三ハ貴見ノ通リ

四四　併合罪中大赦ヲ受ケサル罪ニ付定メタル刑ニ對シ一般減刑ヲ爲スヘキ件

（昭和二年二月大分刑務所長問合　秘第六二八號）

衆議院議員選擧法違反傷害懲役三年某ハ目下當所ニ於テ頭書ノ刑執行中ノ處刑法第五十二條ニ定メタル場合ニ該當スルヲ以テ長崎控訴院檢事長ヘ目下通報中ニシテ傷害罪ニ對スル刑不日決定相成筈ニ有之候處右決定セラレタル刑ニ對シ減刑令第一條該當者トシテ一般減刑ヲ爲スヘキモノト思料致候處勅令公布當日其ノ基本タル刑ノ確定セサルモノニ對シテハ一般減刑ヲ爲スヘカラストノ說モ有之疑義相生シ候間何分ノ御回示相煩度候

（昭和二年二月刑事局長同答　刑事第一三三三號）

御照會相成候某ニ對シテハ減刑ニ浴セシメ可然モノト思考致候

四五　不定期刑ニ對スル減刑ノ件

（昭和二年八月行刑局長通牒　行甲第一〇八五號）

犯時十六歳未滿ノ者ニ對シ短期ト長期トヲ定メテ言渡シタル刑ニ付テハ昭和二年勅令第十二號減刑令第四條第二項本文ニ依リ短期及長期ニ付刑期ノ三分ノ一ヲ減スヘキモノナルニ拘ラス長期ノミニ對シ減刑ヲ爲シ短期ニ付テハ減刑ヲ爲ササルモノ有之今回假出獄上申ニ於テ二三之ヲ發見致候右ハ前記減刑令第四條第二項ヲ誤解シタルモノト思料致候就テハ貴所ニ於テ右該當ノモノ有之候ハハ可然訂正相成度申進候

四六　減刑ニ關スル件

（昭和二年六月行刑局長通牒　行甲第七七〇號）

刑法第二百條ノ罪及其ノ未遂罪ニ因リ刑ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ刑ヲ減輕セサルコトハ數度ノ減刑令ニ依リ明カニ候處其ノ共犯者カ身分ナキトキ例ヘハ內縁ノ妻ナル如キ場合ハ其ノ所爲ハ同法第六十五條第二項ノ所謂身分ナキ者カ身分ニ因リ加重スヘキ犯罪行爲ニ加工シタル場合ニ該當スルモノト謂フヘク從テ其ノ者ノ行爲ニ對シテハ同條項ニ依リ結局同法第百九十九條ニ從ヒ普通殺人罪トシテ處斷スヘキモノナルヲ以テ刑ノ執行指揮書添付ノ判決抄本處斷正條中ニ同法第二百條ノ記載アリト雖斯ノ如キ案件ノ場合ハ減刑スヘキモノト思料候ヘ共今回判決抄本ノ處斷正條中ニ同法第二百條

ノ記載アリタルノ故ヲ以テ犯罪事實ノ内容ヲ精査セス大正十三年減刑不適格者トシテ之ヲ除外シ本年ノ減刑ニ當リテモ亦前回不適格者タリシ關係上之ヲ減刑セスシテ今日ニ至リシ事例ヲ發見候次第モ有之候ニ付此ノ際嚴密調査ノ上本件ノ如キモノニシテ減刑セサルモノ有之候ハハ執行指揮書並判決謄本添付至急御申出相成度候

第二節　假釋放

一　假出獄取締細則

（明治四十一年九月司法内務両大臣達警視庁令第二十五號司法省令第二十五號）

假出獄取締細則左ノ通相定ム

假出獄取締細則

第一條　假出獄ヲ許サレタル者ハ住居ノ地ヲ管轄スル警察官署ノ監督ヲ受ク

第二條　假出獄ヲ許サレタル者ヲ釋放スルトキハ監獄ハ住居ノ地ニ到著スヘキ日ヲ定メ之ヲ證票ニ記載ス可シ

假出獄ヲ許サレタル者ハ前項ニ依リ證票ニ記載セラレタル日ニ監督警察官署ニ出頭シ證票ニ認印ヲ受ク可シ若シ旅行數日ニ渉ルトキハ警察官署所在ノ地ニ宿泊シ其警察官署ニ出頭シ認印ヲ受ク可シ

第三條　假出獄ヲ許サレタル者天災、疾病其他ノ事故ニヨリ前條ノ規定ニ從フコト能ハサルトキ又ハ其虞アルトキハ遅滞ナク其事由ヲ警察官署ニ具申シ證明書ヲ受ク可シ

前項ノ證明書ハ監督警察官署ニ提出シテ認印ヲ受ク可シ

第四條　監獄ノ長證票ヲ交付シタルトキハ其旨ヲ假出獄ヲ許サレタル者ノ住居ノ地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事、刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事及ヒ監督警察官署ニ通報ス可シ

第五條　假出獄ヲ許サレタル者三日以上十日未滿ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ監督警察官署ニ其事由、行先地及ヒ旅行日數ヲ屆出ツ可シ

第六條　假出獄ヲ許サレタル者住居ヲ轉移シ又ハ十日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ其事由、行先地及ヒ旅行日數ヲ記載シテ監督警察官署ノ許可ヲ請フ可シ

住居ノ轉移又ハ十日以上ノ旅行ヲ許可シタルトキハ監督警察官署ハ旅券ヲ交付ス可シ但監督警察官署ノ管轄區域内ニ住居スル場合ハ此限ニ在ラス

第二條及第三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七條　住居ノ轉移ヲ許可シタルトキハ監督警察官署ハ其旨ヲ第四條ノ檢事、監獄並ニ新ナル住居ノ地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事及ヒ警察官署ニ通報ス可シ

前項ノ場合ニハ關係書類ヲ新ナル監督警察官署ニ送致ス可シ

第八條　假出獄ヲ許サレタル者帝國外ニ旅行ヲ爲サントスルトキハ其事由、行先地及ヒ旅行日數ヲ記載シ監督警察官署及ヒ證票ヲ交付シタル監獄ヲ經由シテ司法大臣ノ許可ヲ請フ可シ

監督警察官署及ヒ監獄ハ事實ヲ調査シ意見ヲ付ス可シ

第六條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ旅行ヲ許可セラレタル場合ニ之ヲ準用ス

第九條　假出獄ヲ許サレタル者帝國外ノ旅行ヲ許可セラレタルトキハ監督警察官署ハ其旨ヲ第四條ノ檢事ニ通報ス可シ

第十條　假出獄ヲ許サレタル者旅行ヲ爲シタル場合ニ於テ住居ノ地ニ歸著シタルトキハ遅滞ナク監督警察官署ニ出頭シ旅券ヲ還納ス可シ

第十一條　假出獄ヲ許サレタル者ハ遅滞ナク監督警察官署ニ職業其他生計ニ關スル見込ヲ立テ之ヲ屆出ツ可シ

假出獄ヲ許サレタル者ノ保護ヲ引受タル者アルトキハ前項ノ屆出ニハ連署ヲ要ス

第十二條　假出獄ヲ許サレタル者ハ毎月一回監督警察官署ニ出頭シテ前條ノ事項ニ付其結果ヲ申述ス可シ

旅行ヲ許可セラレタル者同一ノ場所ニ一月以上滞在スルトキハ滞在地ヲ管轄スル警察官署ニ出頭シテ前項ノ申述ヲ爲ス可シ此ノ場合ニ於テハ其警察官署ハ監督警察官署ニ申述ノ要旨ヲ通報ス可シ

第十三條　監督警察官署ハ假出獄ヲ許サレタル者ヲシテ正業ニ就キ善行ヲ保タシムル爲メ必要ナル訓示ヲ爲シ又ハ之カ爲メ必要ナル行爲ヲ命スルコトヲ得

前項ノ命令ヲ發シタルトキハ住居ノ地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事及ヒ證票ヲ交付シタル監獄ニ通報ス可シ

第十四條　監督警察官署ハ六月毎ニ假出獄ヲ許サレタル者ノ行狀ノ良否、職業ノ種別及ヒ勉否、生活ノ狀況、親族トノ關係其他ノ事項ニ付キ調査書ヲ作リ之ヲ住居ノ地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事及ヒ證票ヲ交付シタル監獄ニ通報ス可シ

第十五條　假出獄ヲ許サレタル者ノ監督ハ證票ヲ交付シタル監獄ノ長ノ意見ヲ聽キ之ヲ託スルニ適當ナル親族、故舊、出獄人保護事業ニ從事スル者、神官、僧侶、教師又ハ德望アル者ニ委任スルコトヲ得

前項ニ依リ委任ヲ受ケタル者ハ毎月末日第十四條ニ揭ケタル事項ヲ監督警察官署ニ通報ス可シ

第十六條　檢事及ヒ警察官署ハ假出獄ヲ許サレタル者刑法第二十九條第一項ニ該ルコトヲ知リタルトキハ意見ヲ具シ司法大臣ニ申報ス可シ

警察官署ノ爲ス申報ハ住居ノ地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事ヲ經由ス可シ

第十七條　司法大臣假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ假出獄ヲ許サレタル者ノ所在ノ地若クハ住居ノ地ヲ管轄スル地方裁判所又ハ區裁判所ノ檢事又ハ其在監スル監獄ニ通報シテ其執行ヲ爲サシム

前項ノ場合ニ於テハ證票ヲ還納セシム可シ

第十八條　假出獄ヲ取消サレタル者在監者ニ非サルトキハ檢事ハ【刑事訴訟法第三百十九條第二項】ニ依リ逮捕狀ヲ發ス可シ

第十九條　第十七條ノ執行ヲ爲シタル檢事又ハ監獄ハ其旨ヲ第四條ノ檢事、監督警察官署及ヒ證票ヲ交付シタル監獄ニ通報ス可シ

第二十條　假出獄ヲ許サレタル者死亡シタルトキハ監督警察官署ハ之ヲ第四條ノ檢事及ヒ證票ヲ交付シタル監獄ニ通報スヘシ

前項ノ通報ヲ受ケタル監獄ハ其旨ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

二　假出獄及假出場ニ關スル取扱手續

（明治四十一年九月司法省訓令第七號）

改正　明治四三年第四號、大正一二年第五號、

假出獄及假出場ニ關スル取扱手續

第一條　假出獄ノ具申書ニハ假出獄ヲ許ス可キ者ノ住所、氏名、年齡、罪名、犯數、刑名、刑期、刑期ノ起算竝ニ終了日、假出獄條件期間經過ノ日、假出獄ヲ許ス事由、出獄後ニ於ケル保護者ノ住所、氏名、職業、生活ノ狀態及ヒ保護者ト本人トノ關係ヲ記載ス可シ

不定期刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ刑ノ短期、長期竝ニ其滿了ニ應當スル日ヲ記載スヘシ

第二條　假出場ノ具申書ニハ假出場ヲ許ス可キ者ノ住所、氏名、年齡、罪名、犯數、刑名、刑期、若クハ金額、刑期ノ起算及ヒ終了日、假出場ヲ許ス事由ヲ記載ス可シ

第三條　監獄法施行規則第百七十三條ニ依リ假出獄ノ具申書ニ添付ス可キ行狀錄ハ身分帳簿乙號行狀錄最近一年六月分ノ寫ヲ以テ之ニ充テ、身上調査書類ハ身上票及ヒ公務所其他ノ回答書ニシテ特ニ參考ト爲ル可キモノノ寫ヲ以テ之ニ充ツ可シ

第四條　刑期三分ノ一ヲ算出スルニハ左ノ例ニ依リ曆ニ從ヒ計算ス可シ

一　刑期三年以下ニシテ年ノミニ係ルトキハ年ヲ月ニ換算シテ之ヲ三分シ其商ニ相當スル期間ヲ刑期起算日ヨリ計算ス

二　刑期三年以上ニシテ年ノミニ係ル場合ニ於テ其儘三分スルコト能ハサルトキハ先ツ年ヲ三分シテ其商ヲ得、年ノ端數ハ之ヲ月ニ換算シテ之ヲ三分シ月ノ商ヲ得、年ト月トノ商ニ相當スル期間ヲ刑期起算日ヨリ計算ス

三　刑期三年以下ニシテ年ト月トニ跨ルトキハ先ツ年ヲ月ニ換算シ之ニ刑期ノ月ヲ加ヘテ其和ヲ三分シ因テ得タル商ニ相當スル期間ヲ刑期起算日ヨリ計算ス

四　刑期三年以上ニシテ年ト月トニ跨ル場合ニ於テ其儘三分スルコト能ハサルトキハ先ツ年ヲ三分シテ年ノ商ヲ得、年ノ端數ハ月ニ換算シ之ニ刑期ノ月ヲ加ヘ其和ヲ三分シテ月ノ商ヲ得、月ノ端數ハ次ノ方法ニ依リ計算ス

(イ)　先ツ刑期起算日ヨリ年ト月トノ商ニ相當スル期間ヲ曆ニ從ヒ計算シ其期間ノ最終日ヲ定ム

(ロ)　次ニ(イ號)ノ最終日ノ翌日ヲ起算點トシテ月ノ端數ヲ曆ニ從ヒ計算シ其期間ニ相當スル日數ヲ算出ス

(ハ)　(ロ)號ニ依リ算出シタル日數ヲ三分シテ日

ノ商ヲ得、更ニ(イ)號ノ最終日ノ翌日ヲ起算點トシテ日ノ商ニ相當スル期間ヲ計算シ其最終日ヲ定ム但日ノ端數ヲ生スルトキハ商ヲ一日繰上クルモノトス

五　年ト月ト日トニ跨リ其儘三分スルコト能ハサルトキハ四號(イ)(ロ)ノ例ニ準シ日數ヲ算出シ其算出シタル日數ニ刑期ノ日ヲ加ヘ之ヲ三分シテ日ノ商ヲ得、四號(ハ)ノ例ニ依リ計算ス

六　月ト日ニ跨リ又ハ日ノミニ係ル場合ニ於テ其儘三分スルコト能ハサルトキハ前數號ノ例ニ準シ計算ス

七　刑期ニ算入ス可キ日數アルトキハ先ツ全刑期ノ最終日ヨリ遡テ算入ス可キ日數ヲ控除シ其殘期ノ三分ノ一ヲ計算ス

第五條　假出獄證票ハ別記第一號書式及第二號書式ニ依リ之ヲ作成シ假出場證票ハ別記第三號書式ニ依リ之ヲ作成ス可シ

第六條　假出獄又ハ假出場ニ因リ釋放シタルトキハ許可書到達ノ年月日時及ヒ釋放シタル年月日時ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

少年法第十一條ノ適用ヲ受ク可キ者ニ付テハ前項ノ外尙ホ同條ニ依リ刑ノ執行終ル可キ日ヲ申報ス可シ

第七條（削除）

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年司法省訓令第二號假出場證票ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

（別記第一號書式）　（用紙厚紙、紙質適宜）

假出獄證票

府縣郡市區町村番地（本籍地並ニ假出獄後住居ノ地）

氏名

年月日生

（表）

罪名

刑期

【明治】年　月　日ヨリ執行

【明治】年　月　日刑期終了

假出獄期間　年　月　日　自【明治】年　月　日　至【明治】年　月　日

【明治】年　月　日ニ住居ノ地ニ到著ス可シ

假出獄ヲ許サレタルヲ以テ此證票ヲ附與ス

【明治】年　月　日

某【監獄】

壹尺

（面）

【典獄】氏名印

記事及警察官吏ノ認印

六寸五分

（裏）

假出獄者心得事項

一　監獄ヨリ指定セラレタル日限ニ住居ノ地ヲ管轄スル警察官署ニ出頭シ此證票ニ認印ヲ受ク可シ若シ旅行數日ニ渉ルトキハ警察官署所在地ニ宿泊シ其警察官署ニ出頭シ認印ヲ受ク可シ

二　天災、疾病其他ノ事故ニヨリ前項ノ規定ニ從フコト能ハサルトキ又ハ其處アルトキハ遲滯ナク其事由ヲ警察官署ニ具申シ證明書ヲ受ク可シ此證明書ハ監督警察官署ニ提出シテ認印ヲ受ク可シ

三　正業ニ就キ善行ヲ保ツ可シ

四　假出獄中ハ住居ノ地ヲ管轄スル警察官署ノ監督ヲ受ケ其指揮命令ニ從フ可シ

五　遲滯ナク監督警察官署ニ職業其他生計ニ關スル見込ヲ立テ之ヲ屆出ツ可シ保護者アルトキハ連署ヲ要ス

六　每月一回監督警察官署ニ出頭シテ前項ノ事項ニ付其結果ヲ申述ス可シ旅行ノ許可ヲ得テ同一ノ場所ニ一月以上滯在スルトキハ滯在地ヲ管轄スル警察官署ニ對シ此申述ヲ爲ス可シ

七　三日以上十日未滿ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ監督警察官署ニ其事由、行先地及旅行日數ヲ屆出ツ可シ

八　住居ヲ轉移シ又ハ十日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ其事由、行先地及旅行日數ヲ記載シテ監督警察官署ノ許可ヲ請ヒ旅券ヲ受ク可シ第一第二ノ規定ハ此場合ニ之ヲ準用ス

九　帝國外ニ旅行ヲ爲サントスルトキハ其事由、行先地及旅行日數ヲ記載シ監督警察官署及證票ヲ交付シタル監獄ヲ經由シテ司法大臣ノ許可ヲ請フ可シ第八ノ規定ハ旅行ヲ許可セラレタル場合ニ之ヲ準用ス

十　旅行ヲ爲シタル場合ニ於テ住居ノ地ニ歸著シタルトキハ遲滯ナク監督警察官署ニ出頭シ旅券ヲ還納ス可シ

右假出獄者心得事項ニ違背シタルトキ又ハ左

（面）

ニ掲クル事由アルトキハ假出獄ノ處分ヲ取消サルルコトアル可シ

一　假出獄中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二　假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三　假出獄前他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルモノニシテ其刑ノ執行ヲ爲ス可キトキ

假出獄ノ處分ヲ取消サレタルトキハ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレサルモノトス

（別記第二號書式）　（用紙厚紙、紙質適宜）

（表）

少年假釋放證票

府縣郡市區町村番地（本籍地竝ニ假出獄後住居ノ地）

氏名

年月日生

罪名

刑名　刑期（短期　長期）

【大正】年　月　日ヨリ執行

（面）

【大正】年　月　日期間滿了

假釋放期間　年　月　日　自【大正】年　月　日　至【大正】年　月　日

【大正】年　月　日ニ住居ノ地ニ到著ス可シ

假釋放ヲ許サレタルヲ以テ此證票ヲ附與ス

【大正】年　月　日

何刑務所長　氏名　㊞

記事及少年保護司又ハ司法大臣ノ指定シタル保護團體ノ認印

一尺

六寸五分

（裏）

少年假釋放者心得

一　表面ニ記載セラレタル住居ノ地ニ到著ノ後遲滯ナク證票ヲ少年保護司、少年保護司ナキ地ニ在リテハ司法大臣ノ指定シタル保護團體ニ呈示シテ認印ヲ受ク可シ

二　天災、疾病其他ノ事故ニ因リ前項ノ規定ニ從フコト能ハサルトキ又ハ其處アルトキハ速ニ其事由ヲ少年保護司、少年保護司ナキ地ニ在リテハ司法大臣ノ指定シタル保護團體ニ開示シテ證票ニ認印ヲ受ク可シ

三　正業ニ就キ營行ヲ保ツヘシ

四　假釋放中ハ住居ノ地ノ少年保護司、少年保護司ナキ地ニ在リテハ司法大臣ノ指定シタル保護團體ノ觀察ヲ受ケ其指揮命令ニ從フヘシ

五　住居ヲ變更シ又ハ十日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ其事由、行先地及旅行日數ヲ明カニシテ少年保護司、少年保護司ナキ地ニ在リテハ司法大臣ノ指定シタル保護團體ノ許可ヲ受クヘシ

六　外國ニ旅行ヲ爲サントスルトキハ其事由、行先地及旅行日數ヲ記載シ少年審判所、少年審判所ノ管轄區域外ニ於テハ住居ノ地ノ少年刑務所、少年刑務所ナキ地ニ在リテハ住居ノ地ノ普通刑務所ヲ經由シテ司法大臣ノ許可ヲ受クヘシ

七　旅行地ヨリ住居ノ地ニ歸著シタルトキハ速ニ少年保護司、少年保護司ナキ地ニ在リテハ司法大臣ノ指定シタル保護團體ニ屆出ツヘシ

右心得事項ニ違反シタルトキ又ハ左ニ掲クル事由アルトキハ假釋放ノ處分ヲ取消サルルコトアルヘシ

一　假釋放中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二　假釋放前ニ犯シタル他ノ罪ニ付罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三　假釋放前他ノ罪ニ付罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其刑ノ執行ヲ爲スヘキトキ

假釋放ノ處分ヲ取消サレタルトキハ釋放中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレサルモノトス

假釋放ヲ許サレタル後其處分ヲ取消サルルコトナクシテ表記ノ假釋放期間ヲ經過シタルトキハ刑ノ執行終リタルモノトス

（第三號書式）　用紙厚紙、紙質適宜

假出場證票

府縣郡市區町村番地（本籍地竝ニ假出獄後住居ノ地）

氏名

年月日生

罪名

拘留又ハ勞役場留置期間

【明治】年　月　日ヨリ執行
【明治】年　月　日滿期
假出場期間　年　月　日　自【明治】年　月　日　至【明治】年　月　日
假出場ヲ許サレタルヲ以テ此證票ヲ附與ス
【明治】年　月　日
某監獄
典獄氏名印

……寸……五寸五分……

三　假釋放者ニ交付スル旅券及證明書雛形

（明治四十一年九月内務省訓令第九號）

假出獄取締細則ニ依リ交付スヘキ旅券及證明書ハ左ノ雛形ニ依ルヘシ

第一雛形（住居移轉者ニ交付スルモノ）用紙烏ノ子竪五寸横七寸

假出獄者旅券

府縣郡市區町村番地（本籍地竝ニ假出獄後住居ノ地）
族籍　氏名
年　月　日生
一罪名
一刑名刑期
一假出獄期間　年　月　日　自【明治】年　月　日　至【明治】年　月　日
一旅行許可　年　月　日
一移轉先地名
【明治】年　月　日迄ニ移轉先ニ到著スヘシ
假出獄取締細則第六條ニ依リ此旅券ヲ交付ス
年　月　日
警察署【分署】長
官　氏　名　印
注意事項
一旅行中宿泊セントスルトキハ警察官署ニ出頭シ認印ヲ受クヘシ
一途中天災、疾病其ノ他ノ事故ニ依リ豫定ノ旅行ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ其ノ虞アルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ警察官署ニ具申シ證明書ヲ受ケ行先地ニ到著シタルトキハ警察官署ニ提出スヘシ
一旅行中同一ノ場所ニ一月以上滯在スルトキハ其ノ地ヲ管轄スル警察官署ニ出頭スヘシ

（表）　（面）

一旅行ヲ止メ又ハ行先地ニ到著シタルトキハ遲滯ナク此ノ旅券ヲ還納スヘシ
一此ノ旅券ヲ毀損亡失シタルトキハ速ニ所在警察官署ニ出頭具申スヘシ

認印表

警察署【分署】	同	同	同
【明治】年　月　日 府縣郡市區町村番地某方ニ宿泊 印			

（裏）　（面）

第二雛形（旅行者ニ交付スルモノ）用紙寸法同上

假出獄者旅券

府縣郡市區町村番地（本籍地竝ニ假出獄後住居ノ地）
族籍　氏名
年　月　日生
一罪名
一刑名刑期
一假出獄期間　年　月　日　自【明治】年　月　日　至【明治】年　月　日
一旅行許可　年　月　日
一旅行ノ事由
一行先地
一出發　年　月　日
【明治】年　月　日迄ニ（行先地）ニ到著シ同年　月　日迄ニ歸著スヘシ
假出獄取締細則第六條ニ依リ此旅券ヲ交付ス
年　月　日
警察署【分署】長
官　氏　名　印
注意事項
一旅行途中宿泊セントスルトキハ警察官署ニ出頭シ認印ヲ受クヘシ
一途中天災、疾病其ノ他ノ事故ニ依リ豫定ノ

（表）　（面）

旅行ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ其ノ處アルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ警察官署ニ具申シ證明書ヲ受ケ歸著シタルトキハ警察官署ニ提出スヘシ

一　旅行中同一場所ニ一月以上滯在スルトキハ其ノ地ヲ管轄スル警察官署ニ出頭スヘシ

一　旅行ヲ止メ又ハ歸著シタルトキハ遲滯ナク此ノ旅券ヲ還納スヘシ

一　此ノ旅券ヲ毀損亡失シタルトキハ速ニ所在警察官署ニ出頭具申スヘシ

認印表			
警察署【分署】	同	同	同
【明治】年月日 府縣郡市區町村番地某方ニ宿泊 印			

（裏）

（面）

第三雛形（帝國外旅行者ニ交付スルモノ）

用紙寸法同上

假出獄者旅券（本旅券ノ效力ハ帝國內ニ限ルモノトス）

府縣郡市區町村番地（本籍地竝ニ假出獄後住居ノ地）

族籍　氏名

年月日生

一　罪名

一　刑名刑期

假出獄期間　自【明治】年月日　至【明治】年月日

一　旅行許可年月日

一　旅行ノ事由

一　渡航先

一　出發年月日

一　出發港

【明治】年月日迄ニ【出發港】ニ到著スヘシ

（表）

假出獄取締細則第八條ニ依リ此旅券ヲ交付ス

年　月　日　警察署【分署】長　官氏名印

注意事項

一　旅行途中宿泊セントスルトキハ警察官署ニ出頭シ認印ヲ受クヘシ

一　途中天災、疾病其ノ他ノ事故ニ依リ豫定ノ旅行ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ其ノ處アルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ警察官署ニ具申シ證明書ヲ受ケ出發港ニ歸著シタルトキハ警察官署ニ提出スヘシ

一　旅行中同一ノ場所ニ一月以上滯在スルトキハ其ノ地ヲ管轄スル警察官署ニ出頭スヘシ

一　旅行ヲ止メ又ハ出發港ニ歸著シタルトキハ遲滯ナク此ノ旅券ヲ其ノ地ノ警察官署ニ納付スヘシ

一　此ノ旅券ヲ毀損亡失シタルトキハ速ニ所在地警察官署ニ出頭具申スヘシ

（面）

認印表			
警察署【分署】	同	同	同
【明治】年月日 府縣郡市區町村番地某方ニ宿泊 印			

（裏）

（面）

第四雛形

用紙寸法適宜

假出獄者滯在證明書

府縣郡市區町村番地（本籍地竝ニ假出獄後住居ノ地）

族籍　氏名

年月日生

一　滯在ノ事由

一　滯在ノ場所
一　滯在地ニ到著シタル年月日
一　滯在期間
假出獄取締細則第三條ニ依リ此證明書ヲ交付ス

年　月　日　警察署(分署)長　官　氏　名　印

四　假釋放ヲ許サレタル軍人軍屬ノ身分ヲ失ヒタル者ニ關スル取扱手續

(明治四十一年十月司法省訓令　檢事局宛　監甲第七〇一號)

陸海軍監獄ニ在リテ假出獄ヲ許サレタル軍人軍屬等ニシテ其身分ヲ失ヒタル者ニ關スル取扱手續左ノ通相定ム

第一　檢事ニ於テ本人刑法第二十九條第一項ニ該ルコトヲ知リタルトキハ意見ヲ具シ證票ヲ交付シタル陸海軍ノ監獄長ヲ經由シテ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ其旨ヲ申報ス可シ

第二　陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ於テ本人ノ假出獄處分ヲ取消シタルトキハ本人ヲ逮捕シタル軍法會議ニ最近キ監獄又ハ本人ノ在監スル監獄ニ於テ刑ノ執行ヲ爲シ證票ハ之ヲ交付シタル陸海軍ノ監獄長ニ還納セシム可シ

第三　監獄ニ於テ刑ノ執行ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ證票ヲ交付シタル陸海軍ノ監獄長及ヒ本人ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所檢事ニ通報ス可シ

五　同上手續施行ニ關シ內務省ト協定ノ件

(明治四十一年十月監獄局長通牒　民刑局長通牒　監甲第七〇一號)

陸海軍監獄ニ在リテ假出獄ヲ許サレタル軍人軍屬等ニシテ其身分ヲ失ヒタル者ニ關スル取扱手續本日訓令相成候處右ニ關シ陸海軍大臣ニ於テ別紙ノ通內務省ト協定ノ趣ニ付此段及通牒候也

(別紙)

第一　陸海軍監獄ニ於テ假出獄ヲ許サレ陸軍監獄令第二條又ハ海軍監獄令第二條ニ記載シタル身分ヲ失ヒタル者ノ監督ハ其ノ住所地ヲ管轄スル警察官署ニ於テ之ヲ爲スコト

第二　證票ヲ交付シタル陸海軍ノ監獄長ハ裁判宣告書及假出獄許可書ノ寫ヲ添ヘ前項ニ記載シタル者ノ假出獄中ナル旨及住所地ニ到著スヘキ日ヲ其ノ住所地ヲ管轄スル警察官署ニ通報スルコト

第三　監督警察官署ニ於テ住所ノ移轉又ハ十日以上ノ旅行ヲ許可シタルトキハ旅券ヲ交付スルコト但監督警察官署ノ區域內ニ住所ヲ移轉スル場合ハ此ノ限ニ在ラサルコト

第四　監督警察官署ハ前項ノ旅行又ハ移轉ヲ許可シタル旨ヲ證票ヲ交付シタル陸海軍ノ監獄長、所轄地方裁判所檢事及移轉先ヲ管轄スル地方裁判所檢事ニ通報スルコト

第五　日本帝國圈外ニ旅行ヲ爲サムコトヲ請フトキハ監督警察官署ニ於テ事實ヲ調査シ申請書ニ意見ヲ付シ證票ヲ交付シタル陸海軍ノ監獄長ニ回付スルコト

第六　本人監督警察官署ノ管轄地外ニ在ルトキハ其ノ地ノ警察官署ニ於テ本人ノ申請ニ因リ證票ニ認印ヲ付シ證明書ヲ下付スルコト及取締上必要ノ事項ハ之ヲ監督警察官署ニ通報スルコト

第七　監督警察官署ハ本人ヲシテ正業ニ就キ善行ヲ保タシムル爲必要ナル訓示ヲ爲シ又ハ之カ必要ナル行爲ヲ命スルコトヲ得ルコト及之ヲ命シタルトキハ證票ヲ交付シタル陸海軍ノ監獄長ニ其ノ旨ヲ通報スルコト

第八　監督警察官署ハ六月毎ニ本人ノ行狀ノ良否、職業ノ種別及勉否、生活狀況、親族トノ關係其ノ他ノ事項ニ付調査書ヲ作リ證票ヲ交付シタル陸海軍ノ監獄長及管轄地方裁判所檢事ニ通報スルコト

第九　監督警察官署ニ於テ本人ノ監督ヲ他ニ委任スルニハ適當ナル親族、故舊、出獄人保護事業ニ從事スル者、神官、僧侶、教師又ハ德望アル者ニ限ルコト

第十　警察官署ニ於テ本人刑法第二十九條第一項ニ該ルコトヲ知リタルトキハ意見ヲ具シ所轄地方裁判所檢事及證票ヲ交付シタル陸海軍ノ監獄長ヲ經由シテ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ申報スルコト

第十一　本人死亡シタルトキハ監督警察官署ハ其ノ旨ヲ證票ヲ交付シタル陸海軍ノ監獄長及所轄地方裁判所檢事ニ通報スルコト

備考　證票ヲ交付シタル監獄長ハ海軍ニ在テハ證票

ニ旅行ニ關スル記載ヲ爲シタル監獄長トス

六　假出獄取締細則ハ舊法ノ假出獄者ニモ適用セラルル件

（明治四十一年十月　監獄局長通牒　監甲第六九九號）

假出獄取締細則ハ舊刑法ノ規定ニ依リ假出獄ヲ許サレ現ニ假出獄期間中ニ在ル者ニモ適用セラルヘキ義ニ付現ニ假出獄期間中ニ在ル者ニシテ他監獄ヨリ證票ヲ交付セラレタルモノニ付テハ其身分帳ヲ證票ヲ交付シタル監獄ニ送付相成度

七　假出獄少年取締規則

（大正十一年十二月　司法省令第三十二號）

第一條　少年ノ假出獄ニ付テハ本令ニ定ムルモノノ外一般ノ例ニ依ル

第二條　假出獄ノ許可アリタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ少年審判所ニ通知スヘシ

第三條　假出獄少年ヲ釋放スル場合ニ於テハ其ノ觀察ヲ爲スヘキ少年保護司又ハ保護ヲ引受ケタル者ニ本人ヲ引渡スヘシ

第四條　假出獄少年ハ證票ニ記載セラレタル住居ノ地ニ到着ノ日ニ於テ證票ヲ少年保護司ニ呈示シテ認印ヲ受クヘシ

天災疾病其ノ他ノ事故ニ因リ前項ノ規程ニ從フコト能ハサリシトキハ其ノ事由ヲ開示スヘシ

少年保護司前項ノ開示ヲ正當ナリト認メタルトキハ之ヲ證票ニ記載シテ認印ヲ爲スヘシ

第五條　少年保護司假出獄少年ニ付少年法第六條第二項ノ規程ニ依リ保護處分ヲ爲ス必要アリト思料スルトキハ其ノ事由ヲ少年審判所ニ申述スヘシ

第六條　假出獄少年住居ヲ變更シ又ハ十日以上ノ旅行ヲ爲サムトスルトキハ其ノ事由、行先地及旅行ノ日數ヲ明ニシ少年保護司ノ許可ヲ受クヘシ

第七條　假出獄少年外國ニ旅行ヲ爲サムトスルトキハ其ノ事由、行先地及旅行日數ヲ記載シ少年審判所ヲ經由シテ司法大臣ノ許可ヲ受クヘシ

少年審判所ハ事實ヲ調査シ意見ヲ附スヘシ

第八條　假出獄少年旅行地ヨリ住居ノ地ニ歸着シタルトキハ速ニ少年保護司ニ屆出スヘシ

第九條　假出獄ノ取消アリタルトキハ其ノ執行ヲ爲シタル刑務所ノ長ハ其ノ旨ヲ少年審判所ニ通知スヘシ

第十條　假出獄少年死亡シタルトキハ少年審判所ハ其ノ旨ヲ司法大臣ニ申報シ且證票ヲ交付シタル刑務所ニ通知スヘシ

附　則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス少年審判所ノ管轄區域外ニ於テハ本令ニ定ムル少年審判所又ハ少年保護司ノ事務ハ刑務所又ハ司法大臣ノ指定シタル保護團體ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

八　假釋放少年ニ關スル件

（大正十二年七月　行刑局長通牒　行甲第一〇一八號）

少年ニシテ十八歳ヲ超エ尚引續キ十八歳未滿者ニ準シ少年處遇ヲ爲スモノノ假出獄ニ關シテハ大正十一年司法省令第三十二號假出獄少年取締規則ニ據ルモノト解セラルル向有之候ヘ共少年法ニ於テ少年ト稱スルハ十八歳ニ滿タサルモノト限定セラレ居ルヲ以テ假出獄執行時十八歳ニ滿タサル者ニ付テハ少年法第六條ニ依リ假釋放期間假出獄少年取締規則ノ適用ヲ受クヘキ義ニ有之候ヘ共十八歳ヲ超エタル者ニ就テハ尚引續キ少年處遇ヲ爲セル場合ト雖假出獄少年取締規則ノ適用ヲ受クルモノニ無之義ト思料セラレ候條右ニ御了知相成度候

九　不定期刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ假釋放ニ關スル件

（昭和二年十一月　司法次官通牒　行甲第一五一七號）

假出獄少年ノ釋放ニ付テハ假出獄少年取締規則第三條ニ依リ少年保護司又ハ保護ヲ引受ケタル者ニ本人ヲ引渡スコトト相成居候ヘトモ判決當時少年ニシテ不定期刑ノ言渡ヲ受ケタル者ト雖釋放時十八歳ニ達シタルトキハ同規則ノ適用ナキヲ以テ單獨釋放ヲ爲シ得ヘキモノノ如シ然レトモ斯クテハ思慮分別未タ完カラス社會上ノ經驗ニモ乏シキ年少者ニ對スル保護トシテ遺憾尠カラス候ニ付是等ノ者ニ對シテハ爾今假出獄少年取締規則ノ精神ヲ酌ミ必ス保護者ニ引渡サレ度若シ保護者

出頭致シ難キトキハ保護會ニ一時收容スルカ或ハ保護會職員ナシテ同伴歸住セシムル等適當ノ方法ヲ講シ單獨釋放ヲ爲スカ如キコトナキ樣被致度尙保護者ノ選定ニ付テモ特ニ周到ナル注意ヲ拂ヒ過誤ナキ樣御取計相成度申進候

一〇　假釋放中減刑セラレタル者ノ假出獄證票ニ關スル件

（大正二年一月　前司法省監獄局長通牒　監一發第一二〇號）

假出獄中ノ者ニシテ減刑ノ恩典ニ浴スルモノ有之其ノ結果自然刑期終了日、假出獄期間等ニ變更ヲ生シタルモノニ付テハ之ヲ當該本人ニ知悉セシムルト同時ニ何等カノ形式ニ依テ假出獄當時交付セル假出獄證票中記載ノ相當事項ヲ更正スルノ必要有之候樣被思考候果シテ卑見ノ通トセハ右ハ如何ナル手續ニ依ルヘキ義ニ候哉

（大正二年二月　司法省監獄局長同答　監甲第八三號）

特ニ訂正スル必要ハ無之ト思考致候得共假出獄者ニシテ其ノ訂正方ヲ願出ツル場合ニ於テハ之ニ應スルモ別段差支無之ト存候

一一　舊法處斷受刑者ノ刑期三分ノ一算出方ニ關スル件

（明治四十一年九月　松山監獄典獄照會　松一乙第三四六號）

（抜抄）

今般司法省訓令ヲ以テ假出獄及假出場ニ關スル取扱手續御規定相成候處該手續中刑期三分ノ一算出方ハ舊法ニ依リ刑ノ言渡ヲ受ケタルモノ（現ニ在監スルモノ及將來舊法ニ依リ刑ノ言渡ヲ受クルモノヲ含ム）ニモ一齊ニ之ヲ適用スヘキ義ニ候哉刑期三分ノ一算出方ハ從來規定セラレタルモノ無之ニ付將來ハ總テ該手續ニ依ルヘキモノト解スルヲ一應至當トスヘキモ本月十五日獄務課長通牒監丙第一〇四八號中高知監獄典獄ヘ對スル御回答面ニ依レハ舊法ニ依リ刑ノ言渡ヲ受ケタルモノハ總テ舊法ニ從ヒ計算スル義ナリト有之從テ刑期三分ノ一ノ計算方モ舊法ノ精神ニ依リ刑期中「月」ノアルモノハ總テ舊法計算ノ日數ニ換算シ之レカ三分ノ一ヲ見ルコト（四分三算出例ニ準シ）妥當ナルヤニ思考セラレ聊カ疑義相生候

該手續第四條第三ノ場合ニ於テモ仍月ノ端數ヲ生スルナリ此場合ハ第四號ノ（イ）（ロ）（ハ）ノ例ニ準シ算出スル義ト心得可然哉

（明治四十一年十月　監獄局長同答　監丙第一一二二號）

（抜抄）

一　舊法ニ依リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ刑期計算方ハ都テ舊法ノ規定ニ依ルヘキモノトス

一　貴見ノ通

一二　同上ノ件

（明治四十一年十一月　監獄局長通牒　監丙第一三一八號）

舊刑法ニ依リ處斷セラレタル者ノ假出獄ヲ上申スルニ當リ刑期三分ノ一ヲ算出スルハ總テ舊算出例即明治二十三年三月警保局長通牒ニ依リ取扱候事ニ局議決定候

一三　同上算出例

（明治二十三年三月　內務省警保局長通牒）

假出獄上申ニ係ル囚徒ノ滿期四分ノ三計算方區區ニ渉リ訂正等ノ手數ノ爲メ時日遲延候ニ付以來別紙算出例ニ依リ調査相成候樣被致度

刑期四分ノ三算出例

一　刑期暦ニ依ルモノハ暦ニ從ヒ左ノ如ク計算スルモノトス

例

刑期六年　明治二十一年一月五日宣告　此ノ四分ノ三　四月六ヶ月

自明治二十一年一月五日　刑期四分ノ一
至同二十二年七月四日

自同二十二年七月五日　刑期四分ノ二
至同二十四年一月四日

自同二十四年一月五日　刑期四分ノ三
至同二十五年七月四日

自同二十五年七月五日　滿期
至同二十七年一月四日

一　其刑期年ト月トニ跨リ即チ何年何月ト科セラレタルモノニアリテハ宣告ヨリ滿期迄ヲ現日數ニ直シ之ヲ四分シテ以テ其三ヲ見ルモノトス但シ四分ノ三ヲ見ルニ當リ日數ノ都合ニ依リ除シ得サル奇零ノ時間（一日未滿）ヲ生スルトキハ四分ノ三中ヘ併算スルモノトス

一四　刑ノ執行停止、逃走等刑ノ再執行ノ場合ニ於ケル刑期三分

一三　刑期ノ一算出方ニ關スル件

（大正十年十月　高知監獄典獄照會　高監第一三五三號）

刑執行停止者ノ再執行ニ付テハ刑期（中略）三分ノ一算出方（中略）左例ニ依リ甲說乙說ノ何レヲ可トナスヘキヤ

例

大正九年十一月十一日起算懲役十月
大正十年一月二十日執行停止（執行濟二月九日）
大正十年十月五日復監
大正十一年五月二十六日刑期終了

甲說　刑期十月ヲ三分シテ三月ト端數一月トシ其三月ヨリ先ツ執行濟ノ月數二月ヲ控除シタル殘リ一月ヲ復監起算日ヨリ進メテ十一月四日ヲ求メ次ニ端數一月ヲ十一月五日ヨリ進メテ十二月四日ニ至ル間ノ日數三十日ヲ三分シテ得タル十日ヨリ執行濟ノ日數九日ヲ控除シテ殘日數一日ヲ得之ヲ前ノ十一月四日ノ翌日ニ加ヘタル十一月五日ヲ以テ刑期ノ三分ノ一應當日トス

乙說　復監起算日ヨリ刑期十月ヲ進メ其三分ノ一三月ト十一日ニ當ル十一年一月十五日ヲ求メ之ノ日ヨリ執行濟ニ係ル二月九日ヲ溯リテ算出シタル十一月六日ヲ以テ刑期三分ノ一應當日トス

（大正十年十一月　監獄局長同答　監丙第一四七六號）

刑ノ執行停止、逃走等刑ノ停止後再執行ノ場合ニ於ケル刑期三分ノ一算出方ハ明治四十三年十二月民刑甲第八八號刑ノ執行停止、逃走、假出獄等刑ノ停止後再執行ノ場合刑期計算方ニ關スル司法次官通牒ニ準據スヘキモノナルニ因リ甲說ヲ正當ト認メ候

一五　假釋放上申書樣式竝記載例

（大正十三年四月　司法省訓令行甲第四九一號）

假釋放上申書樣式竝記載例別紙ノ通定ム假出場上申書ニ付テハ之ヲ準用スヘシ

日記　番號
【大正】　年　月　日

何刑務所長　何　某殿

司法大臣　殿
（陸軍大臣又ハ海軍大臣　殿）

假釋放上申

左記ノ者假釋放御許可相成度候

（本籍身分（平民ハ記入ヲ要セス）收容前ノ職業　氏　名　何歲（數ヘ歲ニ依ル）

罪　名
犯數入所度數　初（累）犯　何度
刑名　刑期　懲役（禁錮）何年　懲役何年冒渡ノトコロ大正何年懲役何年何月ニ更ニ大正何年懲役何年ニ減刑
刑ノ起算日　【大正】　年　月　日
刑ノ終了日　【大正】　年　月　日
假釋放條件期間經過ノ日　【大正】　年　月　日
執行濟期間　何年何月餘
殘刑期間　何年何月餘
犯罪ノ原因　未決勾留何十日通算又ハ執行濟何月

以上

（極メテ簡單ニ本人ノ性格ト生活狀態トヲ記載シ犯罪ノ近因トナリタル緣由、動機等ノ事情ヲ開示スヘシ）

收容後ノ行狀
（主トシテ賞罰ヲ記載シ特ニ參考ト爲ルヘキ事項アレハ其ノ旨ヲ簡單ニ記載スヘシ殊ニ累犯者ニ付テハ改悛スルニ至リタル動機ヲ詳記スヘシ）

釋放後ノ保護
（保護會、引受人又ハ協力保護者ノ住所、氏名、職業、年齡、人物、生活ノ狀態、本人トノ間柄及保護ノ方法ヲ明カニスヘシ父母兄弟アリテ其ノ許ニ歸住セサルモノニ付テハ其ノ事由ヲ附記スヘシ）

釋放後ノ生活
（釋放後本人ノ歸住スヘキ場所、從事スヘキ職業竝生計ノ見込確實ナル事情ヲ簡明ニ記載シ且釋放後ノ環境カ性行不良者トノ交際、射倖、飲酒、怠惰又ハ不紀律ノ生活ニ導ク素因ノ有無ヲ明カニシ竝之ニ對スル對策ヲ簡單ニ記載スヘシ）

被害者及其ノ他トノ關係
（被害者、遺族及鄕黨ノ本人ニ對スル感情竝損害賠償若ハ慰藉料等ノ關係ヲ記載シ被害者、遺族又ハ鄕

黨ノ感情、歸住地ノ關係並一般豫防等ノ必要ニ因リ居所其ノ他ノ自由ヲ制限スルトキハ其ノ事由ヲ明カニシ殊ニ痴情又ハ怨恨ニ關スル犯罪ノ如キハ相互ノ感情及其ノ被害者ノ所在ヲモ明カニスヘシ）

其ノ他參考事項

（左ニ該當スル事項ヲ記載スヘシ）

イ　事件ノ牽連スル者ノ裁判ノ顚末及受刑狀態並假釋放ニ關スル顚末又ハ意見

ロ　事件牽連者カ他ノ刑務所ニ於テ行刑中ナルトキハ其ノ刑務所長ニ對シ假釋放上申ヲ爲シタル通知

ハ　罰金科料ノ刑又ハ追徵金アル者ハ其ノ納付顚末

ニ　上申書及附屬書類ノ記載ト一致セサルモノハ其ノ事由並正確ト認ムルモノノ開示

ホ　上訴ノ結果上告審ニテ破毀移送ニ係ル場合ハ其ノ顚末

ヘ　刑執行指揮書記載ノ判決確定日ト刑期起算日ト一致セサル場合ニ於ケル事由ノ開示

（注　意）

上申書

一　氏名ノ難讀又ハ二樣ノ讀方アルモノハ傍訓ヲ施スコト

二　不定期刑ノ者ニ付テハ刑名刑期懲役（禁錮）ノ下ニ短期何年長期何年刑ノ終了日ノ下ニ長期【大正】何年何月短期【大正】何年何月何日ト二行ニ記入スルコト

三　假釋放條件期間經過ノ日計算ニ誤謬多シ注意スルコト

四　執行濟期間及殘刑期間ハ何年何月餘ニテ足リ日ノ端數ハ記入ニ及ハス尙執行濟期間何年何月餘ノ下ニ假釋放條件期間計算ノ例ニ依リテ算出シタル期間ヲ1/3、1/2、2/3、及3/4、ノ四種ニ區分シ其ノ該當シタルモノト其ノ下ニ「以上」ノ文字ヲ併セ記入スルコト

五　罪名ハ適用條文ニ據ル罪名ヲ記入スルコト

六　封筒ハ司法省行刑局長宛親展トスヘキコト

附屬書類

一　附屬書類ハ身分帳簿編綴順序ニ依リ編綴シペン書ヲ妨ケサルコト

二　刑執行指揮書及判決書

イ　判決謄本又ハ抄本ハ犯罪事實ヲ明瞭ニ知得セラルル程度ノモノタルヲ要スルヲ以テ上告判決ニシテ犯罪事實明カナラサルモノハ第二審判決謄本又ハ抄本ヲ添付スルコト

ロ　判決書ニ多數ノ事件牽連者アルモノニ付テハ其ノ全文ヲ謄寫スルコトナク假釋放上申ヲ爲ス者ニ關係アル部分ヲ抄錄シタルモノニテ足ル此ノ際併合罪ノ事實ノ記載ヲ漏ササルコト

ハ　二刑以上引續キ執行シ最後ノ刑ニ付假釋放上申ノ場合ハ前刑ノ執行指揮書及判決書ヲモ添付スルコト

ニ　累犯加重、刑ノ執行猶豫取消又ハ刑ノ執行停止ノ再入ニ付テハ其ノ決定書又ハ刑ノ執行關係ノ書類ヲ添付スルコト

ホ　軍刑務所ヨリ移送ノ受刑者ニシテ刑ノ執行指揮書ナキモノハ移送書又ハ執行囑託書ヲ添付スルコト

ヘ　刑執行指揮書及判決書作成ニ付テハ刑事訴訟法第七十一條及第七十二條ニ依ル形式ヲ必要トセサルコト

三　身上票

イ　年齡ハ本人ニ付テハ生年月日其ノ他ニ付テハ數ヘ歲ニ依リ記載スルコト

ロ　各欄記載事項ハ現在ノ事實ニ適合スルモノタルコト

ハ　內緣ノ配偶者及私生子ノ記入ヲ遺脫セサルコト

ニ　生育ノ關係ハ本人ノ可型性ヲ知リ財產及一家ノ生活關係ハ本人ノ生計及保護ノ關係ヲ知リ父母其ノ他ノ素行、家庭ノ良否、交際ノ狀況及近隣ノ風評ハ環境及保護等ノ關係ヲ知ル資料トシテ重要ナルヲ以テ形式ニ流レス精細ナル調査ニ基キ正確ナル事實ヲ記載スルコト

四　行狀錄

イ　從來ノ形式的字句ニ拘泥セス眞ニ行刑成績ノ實質ヲ觀察シ得ル如ク適切ナル記事ヲ充實スルコト

ロ　領置金額及作業賞與金額ハ的確ニ之ヲ記載シ尙作業賞與金ニ付消費ヲ許可シタルモノニ付テハ其ノ使途及金額ヲ記入スルコト

ハ　親族故舊ニ對スル思念ニ付テハ特ニ居所及保護者選定上重要ナル事項ナルヲ以テ眞實ヲ誤ラサル樣記載スルコト

ニ　賞罰ハ受刑當初ヨリノ事實ヲ記載シ且懲罰ニ付テハ尙事犯ノ大要及處分ヲ明カニスルコト

一六　假釋放上申書樣式見本配付ノ件

（大正十三年五月行刑局長依命通牒行甲第五八七號）

秘發（敕）第　何　號

【大正】何　年何　月何　日

司法大臣　何　殿
陸軍大臣又ハ海軍大臣　殿

何刑務所長　何　某　印

假釋放上申

左記ノ者假釋放御許可相成度候

本籍　何　某

身分（平民ハ記入ヲ要セス）　何　歳

收容前ノ職業

罪名	何
犯數入所度數	何
刑名刑期	懲役（禁錮）何年

初（累）犯

懲役何年言渡ノトコロ大正何年懲役何年何月ニ更ニ大正何年何月懲役何年ニ減刑未決勾留何十日通算又ハ執行濟何月

四月十九日行甲第四九一號訓令ヲ以テ假釋放上申書樣式竝記載例制定相成同月二十二日行甲第五一一號ヲ以テ印刷見本配付ノ件通牒置候處別紙ノ通印刷出來ニ付及配付候若欄內記入シ得サル記事ハ繼紙ヲ以テ補全相成度候

刑ノ起算日	【大正】何年何月何日
刑ノ終了日	【大正】何年何月何日
假釋放條件期間經過ノ日	【大正】何年何月何日
執行濟期間	何年何月餘
殘刑期間	何年何月餘

1/2　以上

此ノ所折目

犯罪ノ原因	
收容後ノ行狀	
釋放後ノ保護	
釋放後ノ生活	
被害者及其ノ	

他ト之ノ關係

其ノ他參考事項

一七　假釋放上申書ニ添附スヘキ行狀錄ノ件

（明治四十一年十月監獄局獄務課長通牒監甲第七〇〇號）

本年九月當省訓令第七號ヲ以テ假出獄及ヒ假出場ニ關スル取扱手續訓令相成候處其第三條ニヨリ假出獄具申書ニ添附スヘキ（乙號）行狀錄ハ身分帳改正後及ヒ入監後一年六月ヲ經過セサル間ハ在監中ノ行狀ヲ綜合シテ該行狀錄一葉ニ記載スルモ差支無之候

一八　同上行狀錄ノ審査期ニ關スル件

（明治四十三年二月監獄局獄務課長通牒監甲第七七號）

假出獄及假出場ニ關スル取扱手續第三條中【乙號】行狀錄最近一年六月分トアルハ假出獄具申當月ヨリ遡リ一年六月間ノ行狀錄ヲ指稱シタルモノニ有之隨テ具申當月審査期ニ相當セサルモノニ付テハ其際特ニ行狀ヲ審査シ其行狀錄ノ寫ヲ添付相成度尤モ右ハ假出獄具申ニ際シ特ニ審査シタルモノニ付若シ假出獄不許可等ノ場合ニ於テハ次ノ審査期ハ前審査期ヨリ起算シ更ニ相當審査可相成義ニ有之候條將來右樣御取扱相成度

追テ【乙號】行狀錄ハ便宜上一年六月間ノ行狀ヲ綜合シテ一通ノ行狀錄ト爲シ添附相成差支無之候

一九　假釋放上申書中執行濟期間ノ區分表示方ニ關スル件

（大正十五年八月行刑局長通牒行甲第一二五〇號）

大正十三年四月十九日行甲第四九一號訓令假釋放上申書樣式中不定期刑ノ執行濟期間ハ短期經過前ニ於テハ短期ヲ基準トシ短期1/3以上、1/2以上、2/3以上及3/4以上ニ又短期經過後ニ於テハ長期ヲ基準トシ長期1/3未滿、1/3以上、1/2以上、2/3以上及3/4以上ニ區分記載相成度候

二〇　特定ノ期日ヲ指定シタル假釋放ニ關スル件

（大正十五年二月行刑局長通牒行甲第二三三號）

國民ノ紀念スヘキ佳辰慶祝日其ノ他特定ノ時機ニ於テ假釋放ヲ爲スヲ以テ一層其ノ效果アリト思料スル場合ノ上申ハ少クトモ指定スヘキ期日十五日前本省ヘ到著ノ見込ヲ以テ書類發送相成度

從來右ノ如キ場合ニ於ケル假釋放ハ多ク電信ヲ以テ許可相成候處今回期日ヲ指示シタル許可書樣式別紙ノ通定メラレ候ニ付爾今前以テ許可書發送可相成候間指定ノ期日釋放方御取計相成度候

追テ通信機關其ノ他ノ障碍ノ爲萬一本文許可書カ指定期日迄ニ到達セサルトキハ到達後監獄法第六十四條ノ法定時間內ニ執行相成度尙本文ニ依ル執行報告ニハ指定セラレタル釋放日ヲ特ニ備考ニ附記相成度

（別紙）

刑務所長

【大正】何年何月何日具申ニ係ル懲役何年何月某ニ對シ來何月何日ヲ以テ假ニ出獄スルコトヲ許可ス

年　月　日

司法大臣

二一　不定期刑ノ者釋放手續ノ件

（大正十二年七月司法次官依命通牒行甲第一一八一號）

少年法第八條ヲ適用シ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ短期ト長期トノ間ニ於テ釋放セシムヘキ場合ニ於テハ當分ノ間假出獄ノ手續ニ依リ御取扱相成度候

二二　假釋放又ハ假出場上申書ハ普通郵便ニテ發送スヘキ件

（大正四年十月監獄局長通牒監甲第六四七號）

假出獄又ハ假出場上申書從來書留郵便ニ依リ發送スルノ例ニ有之候處爾今普通郵便ニ附シ進達相成度

二三　懲役刑ト勞役場留置處分ノ二ヲ有スル者ノ假釋放及假出場ニ關スル件

（明治四十一年十月松山監獄典獄照會發松一乙第三九一號）

目下當監拘禁囚ニシテ明治三十九年九月一日官印僞造行使罪ニ依リ輕懲役六年ニ處セラレ執行中明治三十九年九月二十日非常特別稅法違反ノ罪ニ依リ罰金八百六十七圓十錢ニ處セラレタルモ完納スル能ハサルヲ以テ同年十一月九日輕禁錮二年ノ換刑命令アリ同月十四日換刑執行指揮アリタルモ刑法改正ノ結果右換刑ハ勞役場留置一年ニ變更セリ右等ノ場合ニ於テハ假出獄具申上ニ付明治三十七年二月監一發四四七號大分監獄典獄問合ニ對シ同年五月監丙第二〇一號獄務課長御回答ノ次第モ有之候得共左記ノ廉疑義ニ渉リ決シ兼候條御意見承知致度

一　輕懲役六年ニ對スル法定ノ期間經過後假出獄上申シ差支ナキヤ

二　假出獄御認可ノ上ハ直ニ勞役場ニ留置シ又何時ニテモ假出場上申シ差支ナキヤ

三　假出獄御認可ノ上ハ同時ニ假出場御認可相成度旨ヲ以テ假出獄ト假出場ト同時ニ上申シ差支ナキヤ

追テ右ハ差掛リ候義モ有之候條至急御回示相煩度

（參照）

（明治三十七年二月大分監獄典獄問合發第四四七號　抜抄）

二　刑每ニ算出スヘキモノトスレハ輕懲役六年ニ對スル四分ノ三經過後其六年ノミニ對シ假出獄ヲ爲シ得ヘキヤ

三　若シ輕懲役ノミニ對シ假出獄ヲ爲シ得ヘキモノトスレハ殘ル重禁錮ノ刑ノ執行ハ特別監視終了後ニ執行スヘキヤ將タ假出獄申渡後執行スヘキヤ

（抜抄）

二　理論上ハ先ツ輕懲役ニ對スル決定期間經過後輕懲役ノミ假出獄ヲ許シ得ヘキモノト解スルヲ相當トスルモ行政處分上斯ル場合ニハ輕懲役ニ對スル假出獄ハ詮議難相成候

三　前項回答ニ依リ承知相成度候

（明治四十一年十一月監獄局長回答監丙第一二三七號）

御問合ノ場合ニ於テハ先ツ輕懲役ニ對スル假出獄ヲ許シタル後勞役場留置處分ノ執行ヲ開始シ其上假出場ノ許可ヲ請フノ外無之ト思考致候

二四　併合罪ニ付二個以上ノ有期刑ヲ言渡サレタル者假釋放ノ件

（大正五年九月司法大臣通牒刑甲第八一一號）

併合罪ニ付刑法第五十條ニ從ヒ二個以上ノ有期刑ノ言渡アリタルトキ其ノ執行ニ付同第五十一條但書末段ノ規定ヲ適用スヘキ場合ノ假出獄ニ付テハ從來各宣告刑ノ三分ノ一ヲ經過シタルコトヲ條件ト爲ス取扱振ニ有之候處爾今檢事ノ指揮ニ因リテ定マル執行スヘキ刑ヲ基本トシ各其ノ三分ノ一ヲ經過シタルトキハ假出獄ヲ爲シ得ヘキコトニ省議決定致候

追テ刑法第五十一條但書末段ノ規定ニ從ヒ執行シ得ヘキ刑期ト執行スヘカラサル刑期トハ檢事ニ於テ執行指揮書ニ明記セラレ候樣致度候

二五　假釋放者ノ保護者選定ニ關スル件

（明治四十五年四月監獄局長通牒監甲第三六五號　棒太、十勝、釧走、小菅、宛三池典獄）

假出獄後ノ保護者ヲ選擇スルニハ細密ノ注意ヲ要スルハ勿論ノ儀ニ候處就中無期刑ノ假出獄者ハ終生假出獄取締規則ノ適用ヲ受クヘキ法制ト相成居候ニ付テハ假出獄當時ノ年齡如何ニ依リ或ハ數十年ノ長期間獄外ニ在テ正業ニ就キ善行ヲ保タサルヲ得サル儀ニ有之此ノ不定ノ長期間誘惑ノ誘惑ニ耐ヘ且遷善ノ實蹟ヲ擧ケシムルニハ出獄者ノ確固タル克己心ヲ持スルコトヲ必要トスルノミナラス又保護者ノ監督指導其ノ宜キヲ得ル

コトヲ必要トスルハ言ヲ俟タサル所ニ候無期刑ノ假出獄者ヲシテ終生假出獄取消ノ危險ヲ負擔セシムルノ事情幾分カ憫諒スヘキ廉モ有之當省ニ於テハ其救濟方ニ就キ種種劃策中ニ有之候ヘ共未タ所期ノ目的ヲ達スル運ヒニ至ラス就テハ今後無期刑囚ノ假出獄ヲ上申セラルルニ際シテハ特ニ其保護者ノ選定竝ニ出獄後ノ職業ニ關シ愼重ナル調査ヲ重ネ上述ノ如キ重任ヲ全フスル誠意ト實力トヲ有スト認ムヘキ各般ノ事情ヲ上申書類中ニ詳悉セラレ仍ホ關係調査書類ヲ添付候樣御取扱相成度

二六　假釋放上申書記載方ノ件

（大正十五年四月刑務所長會議ニ於テ）

（指示）

假釋放上申書記載方ニ關シテハ大正十三年行甲第四九一號訓令及所長會議ニ於テ屢屢注意スルトコロアリタルニ拘ラス往往不完全ナルモノアリ爲ニ詮議上支障ヲ生スルヲ以テ就中左記事項ニ付テハ一層注意セラレタシ

イ　累犯者ノ上申ニハ改悛スルニ至リタル動機ヲ記載スル筈ナルニ一般ノ形式ニ囚ハレ記入ヲ缺クモノアリ多數ノ前科ヲ有スル常習的累犯者ニ對シテハ特ニ之ヲ詳記シ性狀ノ變化ヲ明瞭ナラシムルコト

ロ　犯罪ノ原因動機竝其ノ原因動機カ行刑ノ效果ニ依リ除去セラレ再ヒ犯罪ノ因由トナラサルヤ否ヤノ點ニ關スル記載簡單ニ失シ例ヘハ飲酒又ハ痴情關係等ニ因ル犯罪ニ付其ノ原因タル飲酒癖又ハ痴情關係カ除去セラレタルヤ否ヤ不明ニシテ再犯ノ疑念ヲ抱カシムル場合アルヲ以テ特ニ之ヲ詳記スルコト

ハ　上申書添付ノ身上票ハ往往簡粗其ノ要ヲ盡ササルモノアリテ調査上不便尠カラス本票調製ニ付テハ記載例ニ準據シ記事ヲ精確ナラシムルコト

二七　刑ノ執行停止中ノ者ノ假釋放具申ニ關スル件

（明治四十三年一月千葉監獄典獄照會監發第一一六號）

受刑中能ク獄則ヲ謹守シ眞心改悛ノ狀アリ刑期其他假出獄許可ノ條件ヲ具備スルモ只出獄後ノ保護者竝ニ生計上聊カ疑點有之精密調査中疾病ニ罹リ漸次重症ニ陷リタルヲ以テ【刑事訴訟法第三百十九條第二項第二號】ニ依リ刑ノ執行ヲ停止サレ出獄後既ニ六ケ月以上ヲ經過シタル處近時病勢漸次輕快致シ再ヒ執行セサルヘカラサルニ至レリ然ルニ停止出獄後ノ狀況ヲ調査セシニ頗ル謹慎悔悟シ再犯ノ虞毫モナク又病中スラ生活ニ困難セス保護者ニ於テモ誠實ニ保護シ來リ今ヤ刑ノ執行ヲ爲スノ無情ナルノミナラス寧ロ執行ノ必要無之假出獄ヲ許スニ毫モ缺點無之者ニ對シ刑ノ執行停止ノ儘假出獄ノ具申致度候然ルニ前例モ無之又反對ノ議論モ有之決シ兼及御問合候

（明治四十三年監獄局刑務課長回答監丙第五三號）

刑ノ執行停止中ノ者ノ假出獄ヲ許可スルハ固ヨリ妥當ナラサル儀ニ有之候モ特ニ之カ必要有之候ハハ一方假出獄ノ具申ヲ爲シ猶一面ニハ檢事ト協議ヲ遂ケテ假出獄ノ許可ヲ俟チ其執行停止ヲ取消シ卽時假出獄ノ執行相成可然モノト思料候

二八　刑執行停止中ノ者ニ對スル假釋放上申ノ件

（大正十年八月奈良監獄典獄問合秘發第四八號）

八月二十五日付監甲第六二一號ヲ以テ標記ノ件ニ付詮議雜相成趣ヲ以テ返戻相成了承右ハ明治四十三年一月千葉監獄典獄照會ニ對シ同四十三年監丙第五三號獄務課長回答（明治四十四年九月二十日發行ニ係ル監獄法令類纂九二四頁參照）ノ次第モ有之該上申ニ先チ檢事ト打合ノ上提出致候次第ニ候間自然前顯獄務課長ノ回答ニ對シ局議變更相成候儀ナル哉心得ノ爲承知致置度及御問合候間何分ノ御回示相煩度候

（大正十年九月監獄局長回答監丙第一二一二號）

八月二十七日奈監秘發第四八號ヲ以テ標記ノ件御照會ノ趣了承法規ノ末節ニ拘泥スルトキハ時ニ行刑ノ根本義ヲ滅却スルコト明瞭ナル場合ノ存スルコトアリ斯カル場合ニ於テハ末節ヲ棄テ本義ヲ存セシムルノ道ニ出ツヘキコト固ヨリナリトス假出獄ノ如キハ入監者ニ對スル出監ノ特別處分ナリ從テ入監者タルコトヲ條件トシテ行ハルル行政處分ナリ刑ノ執行停止ヲ受ケ出監シタル者ニ對シテハ行フヘキ處分ニアラス是レ明治四十

三年監丙第三號獄務課長回答ニ於テ刑ノ執行停止中ノ者ノ假出獄ヲ許可スルハ固ヨリ妥當ナラサル儀ニ有之トナシタル所以ナリ然レトモ同回答ニ係ル案件ニ於テハ假出獄ヲ許可スヘキ特別必要ナル事由アリタルモノナルヲ以テ其ノ案件限リノ便宜處分トシテ變則ノ手續ニヨリ假出獄ヲ爲サシメタルモノナルヲ以テ直ニ他ノ案件ノ先例ト爲シ難キ事情有之モノニ候處ニ假出獄上申書ヲ返戻致シタルハ前記回答ニ付テノ局議ヲ變更シタルモノニ無之刑ノ執行停止中假出獄ヲ許可スヘキ特別ノ事情ノ認ムヘキモノナキ故本義ニ則リ假出獄ヲ許可スルニ由ナキモノトシテ返戻致シタルモノニ有之候

二九　警察官署附屬ノ留置場ニ在ル受刑者又ハ勞役場留置者ノ假釋放又ハ假出場具申ノ件

（大正二年五月監獄局長通牒監甲第四一〇號）

典獄ハ警察官署附屬ノ留置場ニ在ル受刑者又ハ勞役場留置者ニ付テモ情狀ニ因リ假出獄又ハ假出場ノ具申ヲ爲シ得ヘキ事勿論ナルモ自今右樣ノ場合ニ於テハ當該警察官署ノ長モ亦直接司法大臣ニ對シ假出獄又ハ假出場ノ具申ヲ爲シ差支ナキ事ニ決定相成候條右樣御承知相成度

追テ右ノ次第貴官ヨリ關係警察官署ニ對シ御傳達相成度候也

三〇　假釋放執行報告樣式ノ件

（明治四十四年十一月監獄局長通牒監甲第九九三號）

改正　大正二年第八二五號、

假出獄ノ執行報告書ニハ許可書到達ノ日時ト執行ノ日時トヲ明確ニ記載スヘキ筈ニ候處往往判明ヲ缺キ整理上差支ヲ生スル場合モ有之候ニ付爾今左ノ樣式ニ依リ報告相成度

假釋放執行報告（▲印ノ一行ハ朱書ノコト）

許可書ノ日記番號　特丙第　號

氏　名

許可書日附　【明治】年　月　日

許可書到達（本監）【明治】年　月　日午前午後　時　分

▲（分監）【明治】年　月　日午前午後　時　分

執行　【明治】年　月　日午前午後　時　分

右及報告候也

監獄

【明治】年　月　日　典獄　氏　名印

大臣宛

三一　假釋放執行報告樣式追加ノ件

（大正十二年六月行刑局長通牒行甲第七九五號）

明治四十四年十一月監甲第九九三號監獄局長通牒ヲ以テ假釋放執行報告樣式ヲ定メラレ候處少年法第十一條ニ該當スル者ニ付テハ右報告ニ左ノ一項ヲ追加ス

刑ノ執行終ルヘキ日【大正】年　月　日

三二　假釋放假出場執行報告書發送方ノ件

（大正十年十一月監獄局長通牒監甲第一〇一三號）

假出獄假出場上申書及執行報告書發送方ノ件大正二年八月十五日監甲第八〇九號ヲ以テ及通牒置候處爾今標記ノ場合封筒宛名ハ【監獄局】宛記載相成度

三三　假釋放釋放通報書式ノ件

（大正四年典獄會議ニ於テ）

（注意）

假出獄取締細則第四條ニ依リ證票ヲ交付シタル際檢事及監督警察署ヘ通報スヘキ事項ハ明治四十一年十二月監丙第一六五五號監獄局長ノ通牒ヲ以テ其ノ大要ヲ示シアルモ往往其ノ通報事項不充分ノモノアル趣ナレハ爾今左ノ樣式ニ依リ通報スヘキコト

用紙半紙

假出獄釋放通報

刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所名	罪名	刑名刑期	裁判言渡年月日	裁判確定年月日	刑ノ始期	刑ノ終期	假出獄許可年月日	居住地管轄地方裁判所	釋放年月日	監督書
			【明治】【大正】　年　月　日	【明治】【大正】　年　月　日	同　年　月　日	【大正】　年　月　日	【大正】　年　月　日	地方裁判所檢事局	【大正】　年　月　日	

原籍地	身分	釋放後ノ歸住地	氏名	生年月日	居住地ニ到著年月日	執行濟刑期	假出獄
					【大正】　年　月　日	年　月　日	自【大正】　年　月　日

察官署	警察分署	期間	備考
		至【大正】　年　月　日	

右假出獄取締細則第四條ニ依リ及通知候也

【大正】　年　月　日

宛

監獄
典獄

備考

一　假出獄通知書ノ備考欄ニハ左記ノ事項ヲ記載スヘキコト

（イ）刑ノ始期ヨリ終期ニ至ル期間カ刑期ニ相當セサルトキハ其ノ事由ヲ明記スルコト

例之　前發刑何日通算　未決拘留何日通算

第一審判決ノ日ヨリ裁判確定前日迄何日通算

第二審判決ノ日ヨリ裁判確定前日迄何日通算

第一審判決ノ日ヨリ第二審判決前日迄何日通算

ノ類ノ如シ

（ロ）減刑者ナルトキハ其ノ旨並原刑期

（ハ）通知書記載ノ假出獄者ノ氏名カ判決當時ノ氏名ト異ナル場合ハ其ノ事由

（ニ）控訴取下ノ場合ニハ其ノ旨並年月日

（ホ）控訴ヲ不適法トシテ棄却シタル場合ハ其ノ旨並年月日

（ヘ）原裁判所名並判決年月日（上訴審ニ於テ裁判確定ノ場合）

（ト）上告判決又ハ上告取下ノ場合ハ其ノ旨並年月日

（チ）其ノ他通知ノ要アリト思料シタル事項

三四　少年假釋放通報ニ關スル件

（大正十二年六月行刑局長通牒行甲第七九五號）

少年ニ假釋放證票ヲ交付シタルトキハ假出獄取締細則及假出獄少年取締規則ニ基キ別紙書式ニ依リ住居ノ地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事及少年審判所、少年審判所ノ管轄區域外ノ地ニ於テハ住居ノ地ノ刑務所（但シ少年刑務所所在地ニ在リテハ少年刑務所）並司法大臣ノ指定シタル保護團體ニ通報可相成候

（別紙書式）

少年假釋放通報

刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所	
罪名	
不定期刑又ハ定期刑ノ刑名刑期	
裁判言渡ノ日	
裁判確定ノ日	
刑ノ始期	
刑終了ノ日又ハ短期及長期應當日	
假釋放許可ノ日	
釋放ノ日	
少年審判所又ハ刑務所	
少年保護司又ハ司法大臣ノ指定シタル保護團體	
備考	

右及通報候也

【大正】　年　月　日

宛

何刑務所長　氏　名　㊞

原籍地	
身分	
釋放後ノ住居地	
氏名	
生年月日	年　月　日生
住居ニ到著ノ日	
執行濟期間	
假釋放期間	

取扱例

備考欄ニハ左記ノ事項ヲ記載スルコト

（イ）刑ノ始期ト短期、長期應當日又ハ刑終了ノ日トノ期間カ刑期ニ相當セサルトキハ其ノ事由ヲ明記スルコト

（ロ）其ノ他大正四年所長會議ニ於ケル注意假出獄釋放通報書式備考ノ通

三五　假釋放者ノ警察官署ヘ出頭スル件

（明治四十一年十月內務省警保局長照會警視第八四號ノ內）

假出獄者取扱方ニ關シ別紙寫ノ通リ警視總監ヨリ照會有之候處事情不得止次第ト被存候ノミナラス他ノ各地方ニ於テモ同樣ノ場合ハ更ニ多カルヘク存候ニ付テハ警視廳同一ノ方法ニ據ラシムルノ必要ヲ認メ候處貴省ノ意見如何ニ候哉承知致度

（別　紙）　（警視總監照會　警保局長宛）

假出獄者取締ニ關スル件

假出獄取締細則第十二條ニ依レハ假出獄ヲ許サレタル者ハ毎月一回監督警察官署ニ出頭ヲ要スル儀ニ有之候ニ付テハ郡部ニ於ケル寒村僻地ニシテ警察官署ヲ距ル數里ニ渉リ動モスレハ途中宿泊ヲ要スル場合ノ如キモ尙且警察官署ニ出頭セシメサルヘカラス斯クテハ假出獄者ノ不便不尠ノミナラス同細則ノ主旨ニモ背反スルニアラサルヤノ嫌ヒアルヲ以テ警察官署ヲ距ル三里以上ノ遠隔地ニ在リテハ便宜上巡査駐在所ニ出頭セシメ同細則ニ於ケル監督上ノ目的ヲ達スル樣致度右ハ差支無之モノト思料サルルモ爲念之ニ對スル御意見承知致度

（明治四十一年十二月　警視廳局長同答　監丙第一三四三號）

假出獄取締細則ノ精神ハ努メテ直接警察官署ニ出頭セシムヘキ趣旨ニ有之候ヘハ三、四里ヲ隔ツルニ過キサルカ如キ土地ニ在テハ勿論縱令數里ヲ隔ツルト雖モ汽車汽船等ノ便アル地方ニ在テハ警察官署ニ出頭セシムル上ニ於テ格別困難アリト認ムル能ハス實際山間僻地ニシテ五里以上ヲ隔テ往復一日ニテ辨シ得ヘカラス爲メニ宿泊ヲ要スルカ如キ場合ハ巡査駐在所ニ出頭セシムルノ便宜ヲ取ルハ事實已ムヲ得サル儀ト存シ候ヘ共可成斯ル變例ハ其範圍ヲ狹小ニ制限致度意見ニ有之候

三六　假釋放者ノ監督委任ニ關スル件

（明治四十二年五月　大阪監獄典獄照會　大監甲第四八二號）

司法省令第二十五號（四十一年九月十一日）ヲ以テ假出獄取締細則御達相成候處其第十五條ニハ或場合警察官署ハ其監督ヲ他ノ者ニ委任スルコトヲ得ルト規定セラレ其委任ヲ受ケタル者カ爲スヘキ行爲ハ同條第二項ニ規定セラレアルモ同規則第五條第六條第八條等ノ事柄ニ付テハ依然警察官署ヘ屆出若クハ許可ヲ受クヘキカ或ハ監督ノ委任ヲ受ケタル以上右各條ノ取扱處置ハ總テ受委任者ニテ專行シテ可然哉實際取扱上判明不致候間何分ノ御指示仰度

（明治四十二年六月　監獄局獄務課長同答　監丙第七一〇號）

委任シ得ヘキ監督ノ範圍ハ別ニ制限セラレス監督ノ委任ヲ受ケタル者ハ其ノ委任サレタル範圍內ニ於テ警察官署ノ代理トシテ監督ヲ爲スヘキモノニ有之候

追テ御問合中ニ在ル第八條帝國外旅行ノ申請ニ對シ意見ヲ付シテ相當進達ノ手續ヲ爲ス等ハ監督ニ非ルヲ以テ性質上之ヲ他ニ委任スル能ハサルモノニ有之候

三七　假釋放者ノ行狀調査通報期間ノ件

（明治四十四年三月　警視廳局長通牒　監丙第一六四號）

假出獄取締細則第十四條ニ依ル通報ハ假出獄ノ日ヨリ起算シ六月毎ニナスヘキ筋合ナルモ假出獄者各自ニ對シ區區ニ起算スルヲ以テ自然繁雜ニ亘リ警察官署ニ於テ其期日ヲ誤ルナキヲ保シ難キニ依リ自今毎年六月及十二月ノ兩期ニ取纏メ通報セシメタキ旨千葉縣知事ヨリ上申アリタル趣內務省警保局長ヨリノ照會ニ對シ差支ナキ旨回答致置候

三八　假釋放者ノ監督ニ關スル件

（注　意）　（明治四十四年　典獄會議ニ於テ）

警察官署ヨリ假出獄ヲ許可シタル者ノ行狀報告ヲ受ケタルトキハ監獄ハ最モ鄭重ニ考査シ出獄後ノ行狀善良ナル者ニ對シテハ益奬勵ヲ與フヘク苟モ惡交、家庭ノ不圓滿、職業怠慢其他行狀不良ト認ムル者ニ對シテハ通信教誨ヲ施シ或ハ教誨師等ヲシテ親シク訪問セシメ、善意ノ干渉ヲ試ミ若クハ警察官署ニ對シ爾後ノ行狀ニ付テ特別ノ報告ヲ求ムル等一層再犯防遏ノ手段ヲ盡スノ注意アルヲ要ス

三九　假釋放者行狀調査簿設定ノ件

（明治四十三年十二月　司法省訓令第五號）

假出獄者行狀調査簿別紙ノ通相定メ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

但別紙ハ別ニ頒布ス

（別紙）　假出獄者行狀調査簿

（用紙美濃）

罪名犯數	犯本籍地	刑名刑期	現住地	釋放【明治】年月日	氏名	刑期終了【明治】年月日	年齢	釋放時ニ於ケル作業賞與金並ニ所持金高	保護者住所氏名	監督官署	職業ノ種別及ヒ勉否	年月日	行狀ノ良否	生活ノ狀況	親族トノ關係	其ノ他ノ事項
							年月日生					年月日				
												年月日				
												年月日				

年月日	備考

（記載例）

行狀良否等ノ各欄ハ假出獄取締細則第十四條ニヨリ監督警察官署ヨリ六月毎ニ通報アリタル調査書ノ要領ヲ登載スルモノトス

備考欄ニハ居住地ノ異動來信及通信教誨ノ要領等ヲ記載スルモノトス

四〇　勞役場留置ヲ執行シタル場合假釋放期間計算方ノ件

（大正五年十二月　法典調査會監獄第三四二八號）

懲役刑ト罰金刑ト併科ノ言渡ヲ受ケ其ノ懲役刑執行中罰金刑ニ對シ勞役場留置ノ指揮アリタル後懲役刑ニ付假出獄ノ許可アリタル時ハ明治四十一年十一月監丙第一二三七號松山監獄典獄ヘ御回答ノ趣旨ニ基キ假出獄後直ニ勞役場留置處分ノ執行ヲ開始シ得ヘキモノト思考候處此ノ場合ニ於テ假出獄期間中ニナシタル勞役場留置執行ノ期間ハ假出獄ノ期間ヨリ控除スヘキモノナルヤ將又假出獄期間ト勞役場留置期間トハ同時ニ併進スヘキモノナルヤ

（大正五年十二月　監獄局長回答　監丙第一〇八六號）

假出獄執行當日ヨリ起算スヘキ儀ト思料致候

四一　少年ノ假釋放期間ニ關スル件

（大正十四年七月行刑局長通牒行丙第一一九七號）

標題ニ關シ別紙甲號ノ問合ニ對シ乙號ノ通回答致置候

（別紙）

甲號　（大正十四年六月熊本刑務所長問合刑發第一二七七號）

標記假出獄期間計算方ハ少年法第十一條及同第二條ニ依ルヘキハ勿論ノ儀ニ候處同第八條第一項及第二項ノ規定ニ依リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シ假出獄ヲ許ス場合ニ於テ期間ヲ指定スルニハ

甲　言渡刑期（又ハ減刑變更刑期）ノ長期ノ滿期日迄トシ其ノ期間內ニ於テ處分ヲ取消サルルコトナクシテ假出獄前ニ刑ノ執行ヲ爲シタルト同一ノ期間ヲ經過シタルトキハ刑期滿了前ト雖刑ノ執行ヲ終リタルモノトスルノ意ニシテ

乙　殘刑期ノ如何ニ拘ラス假出獄前ニ刑ノ執行ヲ爲シタルト同一ノ期間ヲ必ス經過スルニアラサレハ刑ノ執行ヲ終ラサルモノトシテ該期間ヲ以テ假出獄期間トス

ルカ如キ刑期外ニ刑期ヲ延長スヘキモノニアラスト思候ヘ共當所管內指定保護團體ノ保護ヲ受ク料致ル他刑務所ノ少年假出獄者ニシテ（乙）ノ方法ニ依リ期間ヲ指定セラレタル者有之疑義相生シ候ニ付何分ノ御指示相煩度候

（乙號）　（大正十四年七月行刑局長回答行內第一一九七號）

六月二十三日刑發第一二七七號ヲ以テ御問合相成候標記ノ件右ハ甲說ニ依ルヘキモノニ有之候條御了知相成度候

四二　假釋放期間經過後ノ再入所者報告ノ件

（大正三年一月監獄局長通牒監甲第三八號）

假出獄ニ因リ釋放セラレ爾後五年以內ニ更ニ有罪ノ確定判決ヲ受ケ假出獄期間經過後再ヒ入監シタル者ハ每年六月末日及十二月末日ヲ期シ取纏メ翌月十日迄ニ別紙樣式ニ依リ報告相成度

假出獄期間經過後ノ再入監者報告

假出獄				再犯期間				氏名
執行監獄名	罪名	刑名刑期	執行年月日	罪名	刑名刑期	入監年月日	出監時ヨリ犯行時ニ至ル	假出獄期間滿了時ヨリ犯行時ニ至ル	年齡	

備考

一　期間欄ニハ出監時若ハ假出獄滿了時ヨリ初メテ再犯行爲アリタル迄ノ期間ヲ記入スヘシ若シ假出獄中ノ犯罪假出獄期間經過後發覺シタル者アルトキハ「假出獄期間滿了時ヨリ犯行時ニ至ル」欄ニ假出獄期間中ノ旨ヲ記入スヘシ

二　年齡ハ犯行アリタル當時ノ數ヘ年ヲ記入スヘシ

四三　刑法第三十條ノ假出場ハ取消スコトヲ得サル件

（明治四十一年六月名古屋控訴院檢事長照會）

（拔抄）

改正刑法第三十條ノ假出場ハ其ノ取消ニ就テ何等ノ規定ヲ設ケスト雖モ既ニ假リニ其出場ヲ許スニ過キサルモノナルヲ以テ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得ルモノト解釋シ差支無之哉將又「假リ」ノ文字アルニ拘ラス絕對ニ取消シ得ヘキモノニ非スト解釋スヘキモノニ候哉若シ取消シ得ヘキモノトセハ其取消ニ要スヘキ標準如何

（明治四十一年七月民刑局長回答民刑甲第一四三號）

（拔抄）

假出場ハ取消スコトヲ得ス

四四　假釋放ヲ取消サレタル者ノ假出獄證票ノ處分並刑ノ執行指揮ニ關スル件

（明治四十一年九月　京都地方裁判所檢事正照會　照第一二〇六號）

司法省令第二十五號假出獄取締細則ニ付左ノ疑義有之及御問合候

一　檢事假出獄取消ノ命令ヲ執行シ還納セシメタル證票ハ刑ヲ執行スル監獄ノ長ニ送致スベキヤ又ハ檢事局ニ留メ置キ可然哉

二　細則十八條ニ依リ逮捕狀ヲ執行シタルトキハ刑執行ニ關スル取扱規程ニ依リ刑ノ執行ヲ爲シ可然哉

三　前項ノ通取扱フヘシトセハ其刑ノ執行指揮書ニハ判決謄本又ハ抄本ヲ添付セス假出獄證票ヲ以テ之ニ代用シ差支ナキヤ

（明治四十一年九月　民刑局長同答　民刑甲第一九一號）

一　檢事假出獄取消ノ命令ヲ執行シタル場合ニ於テ還納セシメタル假出獄證票ハ必ス收監シタル監獄ニ送致スヘキモノトス

二、三　細則第十八條ニ依リ逮捕狀ヲ執行シタルトキハ其逮捕狀ヲ以テ收監シ前項ノ外假出獄取消命令書ノ謄本ヲ送付シ別ニ執行指揮書及判決謄本又ハ抄本ヲ送付スルヲ要セス

四五　假釋放取消ノ場合ニ於ケル殘刑執行方ノ件

（明治四十四年六月　福岡監獄典獄照會　發第二二一二號）

假出獄中ノモノ他ノ犯罪ニ因リ入監シ假出獄處分ヲ取消サレタル場合ニ於テ殘刑執行方ニ關シ當監ニ於テハ左記丙說ノ通解釋致居候處甲若クハ乙說ノ通リ解釋スルモノ有之咏カ疑義相生シ候條何分ノ御指示相成度

一　甲說　他ノ犯罪ニ對スル判決確定前日迄刑期ニ算入セス

一　乙說　他ノ犯罪ニ對スル判決確定後司法大臣ニ於テ假出獄處分ヲ取消シタル前日迄刑期ニ算入セス

一　丙說　他ノ犯罪ニ依リ刑事被告人トシテ入監シタル前日迄刑期ニ算入セス

（明治四十四年六月　刑事局長同答　刑事甲第五九號）

他罪ノ爲ニ入監シタル未決勾留日數及後罪ノ刑ノ執行期間ハ殘刑ノ執行ニアラサルヲ以テ此等日數ヲ殘刑期ニ算入シ執行スルヲ得サル儀ト思考候

四六　假釋放取消申報ニ關スル件

（大正十二年七月　行刑局長通牒　行甲第一〇八七號）

假出獄處分取消申報ニ就テハ豫テ遅ニ申報スヘキ旨通牒アルニ拘ラス今尙刑確定後ニ至リ始メテ之ヲ爲サルノ例ニ相成居候處假出獄ハ監獄法第六十七條及假出獄取締細則ノ規定ニ違反シタル行爲アルトキハ之ヲ取消シ得ヘキモノニシテ必シモ刑ノ確定ヲ俟ツテ之カ取消處分ヲ爲スヘキモノニ非サルノミラス此カ爲往往本人ヨリ徒ニ控訴上告ヲ爲シ期間ノ經過ニ因リ假出獄ノ取消ヲ免レムトスル者有之候間本人カ期間中犯罪ヲ爲シ又ハ假出獄取締規則違反ノ事實アルトキハ刑ノ確定ヲ待ツコトナク假出獄取締規則違反ノ者トシテ直ニ左記事項ヲ具シ假出獄取消申報相成候樣致度候

左　記

一・住所氏名年齡

二　假出獄執行ノ刑務所及同年月日

三　假出獄期間滿了ノ日

四　拘禁ノ有無及場所

五　假出獄中ノ犯罪又ハ假出獄取締規則違反ノ原因トナリタル事實

六　假出獄中ニ於ケル本人ノ行動並生活狀態

七　本人ニ對スル監督保護ノ方法及狀態

八　既ニ判決ノ言渡アリタルトキハ其ノ刑名、刑期、言渡年月日及同裁判所名

九　假出獄取消ニ對スル意見

十　其ノ他參考トナルヘキ事項

四七　同上ノ件

（大正十二年七月　行刑局長通牒　行甲第一〇八七號　檢事正宛）

假出獄處分取消申報ニ就テハ明治四十二年一月民刑乙第一三號ヲ以テ民刑局長ヨリ速ニ申報スヘキ旨通牒アルニ拘ラス今尙刑確定後ニ至リ始メテ之ヲ爲サルノ例ニ相成居候處假出獄ハ監獄法第六十七條及假出獄取締細則ノ規定ニ違反シタル行爲アルトキハ之ヲ取消シ

得ヘキモノニシテ必シモ刑ノ確定ヲ俟ツテ之カ取消處分ヲ爲スヘキモノニ非サルノミナラス此カ爲往往本人ヨリ徒ニ控訴上告ヲ爲シ期間ノ經過ニ因リ假出獄ノ取消ヲ免カレムトスル者有之候間本人カ期間中犯罪ヲ爲シ又ハ假出獄取締規則違反ノ事實アルトキハ刑ノ確定ヲ待ツコトナク假出獄取締規則違反ノ者トシテ直ニ左記事項ヲ具シ假出獄取消申報相成候樣致度候

左記

一　住所、氏名、年齢
二　假出獄執行ノ刑務所及同年月日
三　假出獄期間滿了ノ日
四　拘禁ノ有無及場所
五　假出獄中ノ犯罪又ハ假出獄取締規則違反ノ原因トナリタル事實
六　假出獄中ニ於ケル本人ノ行動並生活狀態
七　本人ニ對スル監督保護ノ方法及狀態
八　既ニ判決ノ言渡アリタルトキハ其ノ刑名、刑期、言渡年月日及同裁判所名
九　假出獄取消ニ對スル意見
十　其ノ他參考トナルベキ事項

四八　假釋放取消ニ關スル件

（大正十五年五月　岡崎少年刑務所長問合發第四三九號）

不定期刑短期ヲ經過シタルモノノ假釋放ハ法定ノ取消原因發生ニ依リ之ヲ取消シ得ルヤ否ヤニ付左ノ二說アリ何レカ相當ナリヤ

甲說　取消スコトヲ得

理由　少年法第十條第一項三號ニ「短期ノ三分ノ一經過シタル後假出獄ヲ許スコトヲ得」トアルハ假出獄ヲ爲シ得ル始期ヲ定メタルモノニシテ其ノ終期ヲ短期ノ終了ニ限定セル趣旨ニ非ス即チ短期終了後ト雖其ノ長期終了前ハ假出獄ヲ許シ得ヘク從テ短期終了後ニ於テ取消原因ヲ生スルトキハ同法第十一條ノ場合ヲ除キ之ヲ取消シ得ヘキモノトス

乙說　取消スコトヲ得ス

理由　短期ヲ經過シタルモノニ對スル釋放ハ不定期刑ノ本旨ニ因ル當然ノ結果ニシテ執行終了ト看做スヘキモノナリ而シテ少年法ハ其ノ第十條三號ニ依リ短期ノ三分ノ一ヲ以テ假出獄條件期間經過ト定メ同第十一條二項ニヨリ其ノ假出獄中ニ於ケル刑執行終了ノ特例ヲ設ケラレタルノミニシテ短期終了後ニ於テハ法律上ノ假出獄ヲ認メス從テ本問ノ假釋放ハ之ヲ取消スコトヲ得ス

中、因ニ大正十二年七月二十八日行甲第一一八一號ノ通牒ニ依ル假釋放ハ取扱上ノ周到ヲ期スル爲釋放ニ關スル一種ノ手續ヲ定メラレタルモノト解スヘキナリ

右ハ目下差掛リタル案件ハ無之候ヘ共假釋放證票ニ記載スヘキ刑ノ期間滿了日ニ影響有之候ニ付何分ノ御回示相煩度候

（大正十五年六月　行刑局長回答行丙第八四九號）

五月六日岡少刑發第四三九號ヲ以テ標記ノ件御問合相成候處不定期刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其ノ短期ヲ經過セシト否トヲ問ハス總テ法令ノ定ムル所ニヨリ假出獄ヲ許可シ得ヘキモノナルヲ以テ甲說ヲ正當ト思料致候

四九　假釋放少年ニシテ取締規則ニ違反シタル場合通知方ノ件

（大正十五年十二月　保護課長、行刑局長通牒　保第三四九八六號）

假出獄少年ニシテ刑法第二十九條第一項ニ該當スル者アルトキハ檢事ハ假出獄取締細則第十六條ニ依リ司法大臣ニ申報スヘキモノナル處檢事ニ於テハ刑法第二十九條第一項第一號乃至第三號ノ場合ハ事件ノ送致其ノ他ニ依リ之ヲ認知スルコトヲ得ヘキモ同第四號ノ場合即チ監獄法第六十七條假出獄取締細則並假出獄少年取締規則ニ違反シタル行爲アル場合ノ如キハ檢事ニ於テ之ヲ認知シ難ク爲ニ假出獄ノ期間ヲ經過シ其ノ取消ヲ不能ナラシムル虞ナキニ非サルヲ以テ觀察中ノ假出獄少年ニシテ右ニ該當スルコトヲ發見シタルトキハ遲滯ナク所轄檢事ニ其ノ旨通報相成候樣致度

第三節　釋放

一　精神病者タル收容者放免ニ關スル取扱手續

（明治三十四年六月　內務省訓令第七號　司法大臣連署）

監置ノ必要アル精神病者タル在監人ニ關シテハ監獄ノ首長ハ其ノ放免前相當ノ時期ニ於テ監護義務者ニ通知

シ監護義務者ナキカ又ハ監護義務者其ノ義務ヲ履行スルコト能ハサル事由アルトキハ精神病者住所地（住所地ナキカ若クハ不明ナルトキハ監獄所在地）ノ市區町村長ニ通知シ之ヲ引取ラシムルノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ手續ヲ爲スモ放免ノ際現ニ之ヲ引取ル者ナキ場合ニ於テハ監獄ノ首長ハ其所在ノ警察官署ニ通知シ之ヲ引渡シ警察官署ハ監護義務者又ハ市區町村長ニ之ヲ引取ラシムルノ手續ヲ爲スヘシ

監獄ノ首長前各項ノ通知ヲ爲ストキハ醫師ノ診斷書其他必要ナル書類ヲ添付スヘシ

二　重キ疾病ニ罹リタル者ノ釋放ニ關スル件

（明治四十一年十二月　山口監獄典獄照會　監發一第二〇九號）

釋放セラルヘキ在監者重キ疾病ニ罹リ監獄ニ於テ醫療中ノ者ヲ其請求ニ依リ仍ホ在監セシムルコトヲ得ヘキハ監獄法第六十九條ノ明示スル所ニ候得共之ハ瀕死等一時已ムヲ得サル場合ニ限リ候ニテ其權衡不分明ニシテ引取人ナク且ツ旅費ナキ者ノ如キ假令縣內庇護ノ者タリトモ明治三十五年二月二十七日愛媛縣知事伺監第一七六八號ノ第二項ニ對スル同年三月乙第一三七五號地方、監獄兩局長ノ御通牒ニ基キ監獄ヨリ直接監獄所在地ノ市町村長ニ引渡シ行旅病人トシテ取扱フヘキ儀ト思料候處又一面ヨリ解スレハ監獄法第六十九條及第七十條等ノ規定ニ依リ護送牒ハ自然效力ヲ失ヒ候モノノ如ク考ヘラレ疑義決シ兼ネ取扱上進捗リ困却ノ次第モ有之候ニ付否折返シ何分ノ御回示相煩シ度

（明治四十一年十二月　監獄局長回答　監丙第一六六五號）

前段御意見ノ通ニ有之候

三　精神病者タル收容者放免ニ關スル取扱手續ニ關スル件

（大正九年九月　內務省衛生局長宛　內務省衛生局第一〇〇號　長官通牒）

標記ノ件ニ關シ北海道廳長官ト左記ノ通照復致シ候

（大正九年七月　北海道廳長官　內務省衛生局長宛　道第八六二二號）

精神病者タル在監人放免ニ關スル取扱方ニ就テハ既ニ

囚タルト未決囚タルトヲ問ハス等シク明治三十四年六月內務省訓令第七號ニ依リ取扱フヘキモノト思料セラルルモ該訓令ハ檢事カ不起訴處分ヲ爲シタルカ爲突然放免トナル出監者ニハ適用スヘキモノニアラストモ解セラレ候條何分ノ御回答相成度候也

（年　月　日　衛生局長書號　北海道廳長官宛）

標記ノ件ニ關シ客月二十一日附警衛第八六二二號ヲ以テ御照會有之候處精神病者タル在監人ノ出監ニ對シテハ其ノ既決囚タルト未決囚タルトヲ問ハス均シク明治三十四年六月內務省訓令第七號ニ依リテ取扱フヘク從テ檢事ノ不起訴處分ニ依リ出監スルモノニ對シテモ同樣ノ取扱ヲ爲スヘキ義ト御了知相成度司法省トモ打合セノ上及御回答候也

四　心神喪失ニ因ル刑執行停止者引取人ナキ場合釋放ニ關スル件

（明治四十四年三月　司法省監獄典獄會合　甲第四七號）

刑事訴訟法第三百十九條第二項第一號ニ該當スル在監人ニ對シ監獄法施行規則第十六條ニ依リ其旨檢事ニ通報シ刑ノ執行ヲ停止セラレタル場合ニ於テ監護義務者ナキカ又ハ監護義務者其義務ヲ履行スルコト能ハスト思考スルトキ若クハ執行停止ノ際引取人出頭セサル場合ニ於テハ明治三十四年六月內務省訓令第七號ニ依リ取扱差支無之哉疑義相生シ候ニ付何分ノ御垂示相煩度

（明治四十四年三月　監獄局長回答　監丙第一二五九號）

右ハ其ノ心神喪失ノ狀態ニ依リ監置ノ必要アルモノニ付テハ貴見ノ通御取計相成可然又監置ノ必要ナクシテ癲病ノ爲步行ニ堪ヘサルモノナルトキハ行旅病人トシテ御取扱相成可然モノト思料候

五　禁錮以上ノ受刑者釋放ノ際警察官署ヘ通報ノ件

（大正十一年九月　司法省訓令　行甲第一四二四號）

禁錮以上ノ受刑者釋放ノ際ハ過去ノ經歷ト在監中ノ狀況ニ鑑ミ將來視察ノ必要アリト認メタル者ニ付テハ左

記樣式ニ依リ之ヲ所在地ノ警察官署ニ通報スヘシ

第　號

【大正】　年　月　日

監獄（分監）（出張所）

警察署御中

受刑者釋放通知

指紋番號	大正 年 月 日	釋放ノ年月日	【大正】年月日
罪名		犯數及入監度數	犯度
刑名刑期		前科	本籍 出生地 歸住地
身體ノ特徴		改悛ノ程度	氏名 生年月日
犯罪ノ常用手段			

記載例

一　前科欄ニハ前科ノ罪名及其ノ度數ヲ記載スヘシ例ヘハ窃盗三、詐欺一、トスルカ如シ

二　改悛ノ程度欄ニハ兇惡不良若ハ改悛ノ狀無シ又ハ改悛ノ狀稍有ルモ適當ノ保護者ナク罪ヲ犯スノ危險アリ等ノ類ヲ記載スヘシ

三　犯罪ノ常用手段欄ニハ成ルヘク具體的ニ其ノ常用スル手段ヲ詳記スヘシ

六　受刑者釋放通知方ノ件

（大正十一年九月司法次官通牒行甲第一四二四號）

（前略）改悛ノ狀ナキ者等特ニ嚴重ナル警察視察ヲ爲ス必要アル者ニ付テハ本日行甲第一四二四號訓令ニ依リ警察ニ對シ通知ヲ爲シ其ノ他ノ釋放者ニ付テハ主トシテ保護會ニ於テ監督ヲ爲シ警察ニ於テハ本人ノ社會同化ヲ害セサル程度ニ於テ間接視察ヲ爲スコトアルハ格別前科者トシテ特別視察ヲ爲ササルコトニ協定致候ニ付テハ左ノ通夫夫御取計相成度候

（中　略）

釋放通知

九　視察ノ必要トハ兇惡不良ノ者、改悛ノ狀ナキ者、改悛ノ狀稍有ルモ適當ノ保護者ナク罪ヲ犯ス危險アル者等警察官ニ於テ特ニ視察ノ必要アル者ヲ指スコト

十　刑ノ執行停止ニ依ル釋放者ハ通知ヲ要セサルコト

十一　警察官署ニ釋放通知ヲ爲ササル者ニ付テハ保護會ヲ督勵シ其ノ監督ニ遺憾ナキヲ期セラルヘキコト

七　釋放者ノ監督視察ニ關スル件

（大正十一年九月司法次官通牒檢事正宛行甲第一四二四號）

從來警察ニ於ケル釋放者ノ視察ニ付テハ監視制度廢止ノ今日ニ於テモ尚其ノ餘弊ノ存スルモノ有之遺憾ニ候處此ノ度內務當局ト協定ヲ遂ケ特ニ警察視察ヲ必要トスル釋放者ニ限リ監獄ヨリ其ノ氏名、年齡、身分其ノ他ノ事情ヲ警察官ニ通知シ嚴重ニ之ヲ視察シテ罪ヲ犯スノ機會ナカラシメ其ノ他ノ釋放者ニ付テハ總テ之ヲ警察ニ通報セサルコトトシ從前ニ於ケル前科者タル特別視察ヲ爲ササルコトニ相成候條此ノ際釋放者ノ監督視察ニ付從前ノ弊風ヲ除去致度希望ニ候間御含ミノ上可然御盡力相成度候

追テ御參考ノ爲內務大官ヨリ本官ニ對スル照會ノ回答書寫添付致候

內務大官宛回答書（拔抄）寫

二　釋放者通知ノ件

イ　釋放中再ヒ罪ヲ犯ス危險性アリテ警察視察ヲ必要トスル者ニ限リ通知シ其ノ他ノ者ニ付テハ通知セサルコト但シ寫眞ハ目下撮影ノ設備整ハサルヲ

以テ交付シ難シ

ロ　一般釋放者ノ視察方法ニ付テハ從來往往遺憾ノ點有之例ヘハ巡査カ制服ニテ釋放者ノ所在訪問ヲ爲シ又ハ他人ノ前ニ於テ刑餘者タルヲ曝露スルコトアリ其ノ結果折角改悛正業ニ從事セル者ヲシテ自暴自棄ニ陷ラシムル事例アリ仍テ前項以外ノ釋放者ニ付テハ從來ノ警察視察ノ方針ヲ改メ本人ノ社會同化ヲ害セサル程度ニ於テ間接ニ視察ヲ爲スハ格別表面ヨリ前科者トシテ特別視察ヲ爲ササル樣篤ト地方長官ニ對シ訓達相成タキコト

八　受刑者釋放通知ニ關スル件

（大正十二年七月行刑局長通牒保護四長通牒一九二〇號）

今般內務省警保局長ヨリ別紙ノ通通知有之候處再犯ノ虞ナキ釋放者ニ對スル警察官署ノ特別視察カ其ノ者ノ社會同化ヲ阻碍スルコトアルト同樣再犯ノ虞アル釋放者ヲ警察視察ニ附セサルコトモ亦社會保護ヲ目的トスル刑事政策ノ要求ニ背反スル義ニ有之候而シテ釋放通知ニ關スル內務省トノ協定ニ因リ行刑成績ノ判定及釋放通知ノ正否ハ行刑並保護ノ成果ヲ確保シ若ハ豫防警察ノ機能ヲ活用スルニ付テハ從來往往遺憾ノ點有之例ヘハ巡査カ制服ニテ釋放者ノ所在訪問ヲ爲シ又ハ他人ノ前ニ於テ刑餘者タルヲ曝露スルコトアリ其ノ結果折角改悛正業ニ從事セル者ヲシテ自暴自棄ニ陷ラシムル事例アリ仍テ前項以外ノ釋放者ニ付テハ從來ノ警察視察ノ方針ヲ改メ本人ノ社會同化ヲ害セサル程度ニ於テ間接ニ視察ヲ爲スハ格別表面ヨリ前科者トシテ特別視察ヲ爲ササル樣篤ト地方長官ニ對シ訓達相成タキコト

追而爲參考出獄者ノ視察ニ關スル內務省警保局長依命通牒寫添付致候

（別紙）

（大正十二年六月內務省警保局長內務省警保第六四號）

刑務所ノ釋放者通知取扱方ノ件依命通牒

豫防警察上ノ參考ニ資スル目的ヲ以テ全國刑務所ニ於テ行刑ヲ終リ釋放セラルルニ當リ勤改悛ノ情認メ難キ者ニ關シ通報方司法省ニ交渉致居候處今般同省ヨリ別紙ノ通回答有之候條釋放通知ヲ受ケタル者ニ對シテハ左記要項ニ基キ視察保護ヲ加フルト共ニ相互ニ聯絡ヲ確實ニシ刑事警察上ノ目的ヲ達成スルコトニ努メラレ候樣御配慮相煩度右申進候

左記

一　刑事要視察ノ釋放通知取扱方

（一）刑務所ヨリ釋放通知書ヲ受タル警察官署ハ該通知書ヲ釋放者住地所轄警察官署ニ送付スルコト

（二）釋放者住地所轄警察官署ハ刑事要視察人名簿ニ釋放通知書記載事項ヲ記入シタル上刑事要視察人トシテ視察保護ヲ加フルコト

（三）釋放者轉住地ニ轉遷セサルトキハ原籍地及關係者所在地所轄警察官署ニ報告シ所在發見ニ努ムルコト

釋放者ノ所在ヲ發見シタルトキハ其ノ所在地所轄警察官署ニ該名簿ヲ送付スルコト

釋放者ノ所在不明ナルトキハ警察部ニ報告シ警察部ハ關係アル府縣ニ對シ捜査方ノ措置ヲ講スルコト

（四）釋放者刑事要視察人名簿ニ記入後轉出シタルトキハ轉出先所轄警察官署ニ通報スルト共ニ其ノ名、簿ノ寫ヲ送付スルコト

（五）刑事要視察人ノ行動ニ付注意ヲ要スル事項ヲ發見シタル時ハ關係警察官署ト聯絡ヲ採リ適當ノ措置ヲ講スルコト

（六）刑事要視察人ノ身分關係ニ異動ヲ生シタルトキ又ハ再ヒ罪ヲ犯シ檢擧セラレタルトキハ其ノ旨ヲ關係警察官署ニ通報スルコト

二、刑事要視察人ノ視察方ニ關スル注意

（一）釋放者中改悛ノ情認メ難キ者ハ通例職業的犯人タルヲ常トスルカ故ニ行刑當局ヨリ其ノ釋放ノ通知ヲ受クタルトキハ豫防警察上相當ノ視察ヲ爲スト共ニ之ニ對シ必要ナル保護ヲ加ヘ是等ノ者ヲ社會ニ同化シ得ル樣指導誘掖ニ努ムルト共ニ若シ再ヒ社會ヲ侵害スル等ノ事實アルニ際シテハ其ノ害惡ノ未タ甚シカラサルニ先チ之ヲ防制スルコトニ努ムルコト

（二）視察及保護方ニ付テハ別紙司法次官問答ノ二ノロ及大正六年十二月二十一日付內務省司警第三號出獄者視察ニ關スル依命通牒ヲ參照スルノ外地方ニ於ケル免囚保護事業者ト十分ノ連絡ヲ採ルコト

（三）上級警察官吏ハ直接視察保護ノ任ニ當ル下級警察官ノ視察方ニ付十分ノ指導ト監督トヲ加フルコト

別紙內務次官宛ノ回答ハ大正十一年九月檢事正宛司法次官通牒添付ノ回答書ニ同シ

九　同上ノ件

（大正十二年十月行刑局長通牒行甲第一六〇〇號）

別紙送付ノ自大正十一年四月至同十二年五月刑期別改

悛狀態及釋放通知調ニ依ルニ改悛ノ狀無キ者ニシテ警察官署ヘ通知セサルモノアリ殊ニ改悛ノ狀認メ難キ者ニ付テハ全然通知セサルカ若ハ大部分通知セサルモノ有之右ハ釋放者ノ一部ニ付テノ統計ニ過キサルモ以テ一般ノ取扱振ヲ推知スルコトヲ得ヘキモノニ有之候凡ソ適切ナル行刑ノ下ニ刑期ヲ終ヘ猶且改悛ノ狀認メ難キ者ノ如キハ畢竟再犯ニ陷リ易キ虞アルモノト認ムルヲ相當トスヘク釋放通知ニ關スル大正十一年九月二十八日行甲第一四二四號訓令及通牒ノ趣旨亦茲ニ存スル次第ニ候條爾今改悛ノ狀無キ者及其ノ狀認メ難キ者ト認定シタル者ニ付テハ一切之ヲ警察官署ニ通知スルコトニ御取計相成候樣致度候

（別紙省略）

一〇　同上ノ件

（昭和二年九月行刑局長依命通牒行甲第一二六三號）

受刑者釋放通知ニ付テハ數次通牒致置候處實施後ノ狀況ヲ見ルニ右通知ハ取扱ノ便宜上釋放時ニ行フヘキ行狀審査ニ於テ之カ要否ヲ調査シタル上釋放前日若ハ當日ニ至リ之ヲ發送スルモノ往往有之爲歸住地警察官署ニ於テ之カ移牒ヲ受クルトキニハ既ニ其ノ所在ヲ變更シ若ハ所在不明トナル者アリテ豫防取締上困難ヲ感スル向尠カラサル趣ニ有之候斯クテハ右通知ノ本旨ニ反スルノミナラス犯罪ノ豫防上洵ニ遺憾ノ次第ニ有之候條可成釋放前相當ノ期間ヲ置キ通知ヲ發送セラルルハ勿論警察官憲ヨリノ希望アルトキハ歸住地警察官署ニ對シテモ直接通知ヲ發スル等相當便宜ヲ與ヘラレ候樣致度候

一一　行刑成績通知ノ件

（大正十一年二月司法省訓令監甲第一九八號）

檢事ヨリ行刑ニ關スル參考資料ノ通知ヲ受ケタル者恩赦假出獄又ハ滿期ニ因リ釋放セラレタルトキハ直ニ刑ノ執行ヲ指揮シタル檢事局及刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事局ニ對シ別紙樣式ノ通知書ヲ作成シテ送付スヘシ典獄ニ於テ特ニ必要ト認メタル者ニ付亦同シ

監獄典獄

裁判所檢事局宛

行刑ノ成績通知

受刑者ノ氏名	
確定判決言渡裁判所及言渡年月日	
執行指揮ノ年月日及日記番號	
罪名刑名刑期犯數	
行刑ノ經過	
性情ノ變化	
改悛ノ有無	
其他參考事項	

取扱例

一　刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所檢事局ト刑ノ執行ヲ指揮シタル檢事局ト異ナル場合ハ各檢事局ヘ本通知書ヲ送付ス

二　二刑以上引續キ執行スヘキ者ハ全部完了シタル際各刑毎ニ之ヲ作成ス

三　刑期滿了後引續キ勾留狀ヲ執行シ若ハ勞役場ニ留置スヘキ者ハ刑期滿了ノトキヲ以テ釋放ト看做ス

四　恩赦假出獄又ハ二刑以上引續キ執行シタル場合ノ如キ宣告刑ト在監期間ト相違スルモノハ其ノ事由竝現實執行シタル期間ヲ罪名、刑名、刑期、犯數欄ニ記載ス

五　行刑ノ經過欄ニハ處遇ノ概要殊ニ檢事ヨリ通知ヲ受ケタル行刑ノ參考資料ニ付採リタル措置及受刑者ノ在監中ニ於ケル行狀其ノ他參考トナルヘキ事項ヲ記載ス

六　性情ノ變化欄ニハ行刑ノ結果受刑者ノ性質ト習癖ノ變化及其ノ狀況ヲ記載ス

七　改悛ノ有無欄ニハ左ノ區分ニ依リ記載ス

一　改悛ノ狀アリ

二　稍改悛ノ狀アリ

三　改悛ノ狀認メ難シ

四　改悛ノ狀ナシ

八　其ノ他參考事項欄ニハ以上ノ外受刑者ノ裁判、被害者、親族並故舊ニ對スル感想等其ノ他參考トナルヘキ事項ヲ記載ス

（參考）

（大正十一年二月監獄局長通牒　檢事長宛　監甲第一九八號　檢事正）

標記ノ件ニ付今般別紙ノ通典獄ニ對シ訓令相成候條御了知相成度候

（別紙）

大正十一年二月司法省訓令監甲第一九八號

一二　行刑ノ成績通知書作成上注意ノ件

（大正十一年三月監獄局長通牒　監甲第三二七號）

行刑ノ成績ヲ檢事ニ通知方ノ件ニ付客月二十七日監甲第一九八號ヲ以テ訓令相成候處右ハ當該受刑者ニ對シ判決ノ內容ヲ實際ニ執行シタル成績ヲ闡明シ將來ニ於ケル犯罪ノ訴追及處刑ノ參考資料ニ供セムトスル趣旨ニシテ刑政上頗ル重要事項ニ屬スルカ故之カ作成ニ付テハ特ニ愼密ノ注意ヲ拂ヒ努メテ觀察ノ正鵠ト記事ノ確實ヲ期スルヲ要ス若シ夫レ皮相ノ見ニ依リテ其ノ考察ヲ誤マリ言辭ノ美ヲ飾リテ事ノ情ヲ盡ササルカ如キコトアラムカ啻ニ所期ノ目的ヲ達スルコト能ハサルノミナラス却テ累ヲ他ニ及ホシ遂テ行刑官ノ信用ヲ失墜スルニ至ル懼ト思料致候間能ク其ノ意ヲ諒シ遺算ナキ樣御取計相成度

追テ假出獄ノ場合ニ於テハ行刑ノ經過ノ記載ニ付特ニ注意シ殊ニ短期自由刑ノ執行トシテ獨房ニ留置シ嚴正ナル處遇ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ示シ又假出獄カ犯罪ノ一般豫防ニ影響ナキコト例令ハ本人歸住地ハ犯罪地ト遠隔ナルコト若ハ假出獄ノ條件トシテ本人ノ居所ヲ指定シ犯罪地トノ連絡ヲ絕タシムルコト等ヲ明ニシ以テ宣告刑ノ全部ヲ執行セサルコトカ犯罪ノ特別若ハ一般ノ豫防ニ何等ノ障碍ナキコトヲ記述セラレ度候

一三　行刑ノ成績通知書樣式ノ件

（大正十一年十月行刑局長通牒　行甲第一五九二號）

第　號

【大正】　年　月　日　刑務所

裁判所檢事局御中

行刑ノ成績通知

受刑者ノ氏名	
確定判決言渡裁判所及言渡年月日	
執行指揮ノ年月日及日記番號	
罪名刑名刑期犯數	

標記書類用紙ハ刑務所ニ依リ美濃紙判ヲ用ヒ或ハ半紙判ヲ使用シ又各欄ノ分割方區區ニ渉ル爲整一ヲ缺キ不體裁ニ付其ノ檢事局ニ送付スルモノト當局ニ提出スルモノトヲ問ハス別紙ノ通一定致候間爾今各刑務所ニ於テ變改セサル樣致度而シテ舊用紙ノ殘存スル間ハ之ヲ使用セラレ差支無之候條御了知相成度候

追テ當局ニ提出スル場合ハ記番號、殺傷年月日、及場名ニ便宜ノ爲冒頭ニ餘白ヲ存シタル次第ニ付申添候

（用紙半紙）

行刑ノ經過	
性情ノ變化	
改悛ノ有無	
其ノ他參考事項	

（大正十五年一月行刑局長通牒行甲第八〇號）

行刑上ノ參考資料通知ニ關シ今回別紙ノ通通牒候ニ付テハ自然今後檢事局ニ送付スヘキ標記通知書ハ右通牒ノ範圍ニ依ル者ノミニ付作成送付スルコトニ相成候

（別紙）

（大正十五年一月刑事局長通牒行刑局長檢事正宛行甲第八〇號檢事總長宛）

大正十年九月監甲第六七四號訓令ニ依リ刑務所ノ長ニ送付スベキ標記通知書ハ當分ノ間不定期刑ノ言渡ヲ受ケタル者及特ニ必要アリト思料スル者ノミニ付作成送付相成度候

一四　行刑成績通知書記載事項ノ件

（大正十一年十月行刑局長通牒行甲第一六一一號）

本年九月二十八日行甲第一四二四號訓令ニ依リ警察視察ヲ要スル者トシテ通報シタル者ニ付テハ其ノ行刑ノ成績通知ヲ爲ス際其ノ他參考事項欄ニ「警察視察ヲ要スル者ト認メ警察官署ヘ通報ス」ト記載相成度候

一五　行刑ノ成績通知書ニ關スル件

第十八章　保護

第十八章 保護

保護

一 社團又ハ財團ヲ法人ト爲スニ要スル手續ノ件

（明治三十三年八月司法省令第三十二號）

第一條 社團又ハ財團ニシテ民法第三十四條ニ依リ之ヲ法人ト爲スニ付司法大臣ノ許可ヲ要スルモノハ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由シ其ノ申請書ニ通ヲ差出スヘシ其許可ヲ得テ設立シタル法人及民法施行法第十九條ノ法人ニ於テ司法大臣ノ許可ヲ要スル場合亦同シ

第二條 前條ノ法人ヨリ司法大臣ニ差出スヘキ願屆書ハ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由スヘシ

二 同上ノ場合注意監督方ノ件

（明治三十三年八月司法省訓令甲第二五號）

出獄人保護ニ關シ社團又ハ財團ヲ法人ト爲スニ付民法第三十四條ニ依リ司法大臣ノ許可ヲ要スル申請書ノ經由方申出ツルモノアルトキハ其事業ノ順序狀況竝設立者ノ身元經歷等ヲ調査シ又法人ヨリ司法大臣ニ差出スヘキ認可申請書及願屆書ノ經由方申出ツル時ハ其事實等調査ノ上何レモ意見ヲ附シ進達セラルヘク且該法人ノ事務ニ付テハ專ラ公益ヲ主トシ營利ノ行爲アルヘカラサルハ勿論其設立ノ目的及條件以外ニ涉ルヘカラサル儀ニ付所管内ニ於テ該法人ニ對シテハ嚴重監督ヲ加ヘラレ仍民法第七十一條及民法施行法第二十三條ノ場合ニ該當スト認ムルモノアル時ハ直ニ詳細其旨具申セラルヘシ

三 假出獄少年取締規則附則第二項ニ依リ保護團體指定ノ件

（大正十二年二月司法省告示第六號）

改正 大正一二年、一三年、一四年、一五年、

假出獄少年取締規則附則第二項ニ依リ左記ノ保護團體ヲ指定ス

埼玉自彊會
川越就實園
千葉縣聞性會
茨城縣聯合保護會
栃木縣中央保護會
群馬縣佛教聯合保護會
靜岡縣聯合保護會
山梨以德會
新潟縣聯合保護會
奈良縣聯合保護會
滋賀縣聯合保護協會
端正會
精華會
德島縣助成協會
讃岐修齋會
高知慈善協會
海南救濟會
愛知自彊會
三重縣保護會
岐阜縣保護會
福井縣福田會
富山養德園
廣島縣聯合保護會
岡山縣聯合保護會
鳥取縣給濟會
和光會
島根縣授產會
愛媛保護會
長崎縣佛教聯合保護會
佐賀縣恒產會
福岡縣聯合保護會
大分縣保護會
肥後慈惠會
熊本自彊協會
鹿兒島縣保護協會
日州保護會
沖繩自彊會
宮城縣聯合保護會
福島縣聯合保護
山形縣保護聯合會
山口聯合保護會

米澤自彊會
巖手縣聯合保護會
秋田至仁會
青森縣佛教慈晃會
北海道授產場
札幌大化院
函館助成會
網走慈惠院
十勝自彊會
釧路慈德會
樺太保護會
旭川保護會
石川更新會
長野縣佛教社會事業協會

四　保護團體指定ニ關スル件

（大正十二年二月　司法大臣官房保護課長通牒　保第三〇四號）

司法省告示第六號ヲ以テ假出獄少年取締規則附則第二項ニ依ル保護團體指定相成候處聯合組織若ハ本支部ノ關係ニ在ル團體ニ就テハ其ノ全部ヲ包括的一體ト認メ指定セラレタル義ニ付右ニ御了知相成度尙關係保護團體ヘモ其ノ旨傳達置相成度候

五　釋放者保護會ノ規則書及印刷物遞送方ノ件

（大正十一年十二月　司法大臣官房保護課長通牒　保第五〇八號）

保護會新設ノ場合及既設保護會ニ於テ定款、寄附行爲、會則、內規等ヲ變更シタル場合ハ該規則書ヲ又定期若ハ臨時ニ發行スル會報其ノ他該會ノ事情ヲ了知スルニ足ル文書ヲ印刷シタル場合ハ右印刷物ヲ一部ツツ其ノ都度該保護會ヨリ取寄セ御廻送相成度候

六　改悛ノ狀ナキ釋放者ヲ收容保護スル場合ノ取扱方ニ關スル件

（大正十一年十二月　司法大臣官房保護課長通牒　保第五〇六號）

釋放者改悛ノ狀ナキ場合ト雖保護會ニ於テ收容保護ス

ルニ至リタルトキハ所在地警察官署ニ對シ釋放通知ヲ爲ササル向アルヤニ及聞候處本年九月二十八日行甲第一四二四號司法次官通牒ノ趣旨ハ改悛ノ狀ナキ釋放者ニ對シテハ特別視察ヲ爲スノ要アリト認メ警察官署ニ釋放通知ヲ發スヘシト爲スモノニシテ保護會ニ於テ保護ヲ加フルト否トニ因リ取扱ヲ區區ニ爲スコトヲ認容シタルモノニハ無之候尤モ改悛ノ狀ナキ者ニテモ保護ヲ願出タル時ハ之ニ必要ナル保護ヲ加フヘキハ勿論ナリト雖如此場合ニ於テハ所轄警察官署ニ對シ保護中ノ者ナル旨ヲ以テ一般ノ特別視察者ト異リ視察方法等ヲ相當緩和スヘキコトヲ交渉シ其ノ諒解ヲ得ル樣協議スルヲ相當ト被思料候ニ付將來ハ右ニ依リ御取扱相成度尙保護會ヲシテ此ノ趣旨ヲ了解セシムル樣可然御配慮相煩度候

七　被保護者及附添人ニ對シ旅客運賃割引ニ關スル件

（大正十一年四月監獄局長通牒監甲第四五五號）

曩ニ本省及財團法人輔成會ヨリ鐵道省ニ對シ大正九年同省告示第九十九號國有鐵道旅客及荷物運送規則第六十三條ノ特種旅客運賃低減ノ規程ヲ免囚保護會ニモ適用方交渉中ノ處今般其ノ承認ヲ得本年二月同省達第九六號（大正十一年二月十一日發行鐵道公報第五二七號登載）ヲ以テ全國各驛ヘ通達本年三月二十一日ヨリ施行ノ旨回答有之候條左記ニ依リ御取扱相成度候

追テ管內保護會ヘハ貴官ヨリ可然通達セラレ度又該割引證ハ近日送付スヘキモ來年度ヨリハ年度初ニ所要數ヲ請求相成度候

左記

一　鐵道省ニ於テ指定スル免囚保護會（別紙ノ通）ノ保護ヲ受クル者ノ中救恤ヲ要スル者歸住又ハ就職ノ爲旅行スル場合ニ於テハ割引證引換ニ三等旅客運賃ノ五割ヲ低減ス

二　前項ノ場合ニ於テ被保護者カ老幼、不具若ハ逃走ノ虞アル爲鐵道省ニ於テ特ニ附添人ヲ要スト認ムルトキハ被保護者一人ニ付附添人一人ヲ限リ被保護者ト同一ノ割引ヲ爲ス

附添人ハ保護會役員タルヲ要セス父兄近親等ニテモ差支ナシ

三　前項ニ依リ運賃ノ割引ヲ受クタル者ハ急行料金ヲ要スル急行列車又ハ急行汽船ニ乘車船スルコトヲ得ス又上級ノ車船室ニ乘換ノ請求ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

四　割引證用紙ハ別紙樣式ニ依リ本省ニ於テ調製シ各監獄ニ送付ス

五　保護會ニ於テ割引證ヲ發行セムトスルトキハ其ノ都度監獄ノ長ニ對シ用紙ノ交付ヲ請求スヘク監獄ノ長ハ請求ニ基キ用紙ニ番號ヲ附シ監獄ノ印ヲ以テ用紙ト帳簿トニ契印ヲ施シタル上之ヲ保護會ニ交付スヘシ

用紙ノ受拂ハ左記樣式ノ帳簿ニ記載シ嚴重監督スヘシ

番號	受拂月日	受拂	殘	發行月日	發行者氏名	乘車人氏名年齡	附添人氏名	乘車船區	發行事由	備考

六　割引證ハ別紙記載ノ代表保護會會長名ヲ以テ發行シ附添人アル場合ニ於テモ一葉ヲ發行スレハ足ル

七　割引證ヲ不當ニ行使シタルモノアルトキハ之カ取扱ヲ爲シタル保護會ニ對シテハ爾後割引證ヲ交付セス且相當制裁ヲ加ヘラルルコトアルヘシ

鐵道割引名簿登錄代表保護會

東京　自立會、東京興仁會、東京佛教慈濟會、救世軍勞作館、同婦人ホーム、無料宿泊所、兩全會、眞哉會、齊修會、曹洞宗報効會、日蓮宗東京慈濟會、八王子扶蓙園、南多摩郡佛教會、佛教聯合會

神奈川　幼年保護會、修道保護會、神奈川縣佛教慈德會

埼玉　埼玉自彊會、川越就實園

千葉　千葉縣歸性會

茨城　茨城聯合保護會

栃木　栃木縣聯合保護會
群馬　群馬縣佛教聯合保護會
長野　長野佛教聯合會、上縣佛教會、助成協會
山梨　山梨慈善保護會、北巨摩郡出獄者保護會、北都留慈惠會、東八代郡慈濟會、
靜岡　靜岡縣聯合保護會
愛知　愛知自啓會、中京免囚保護所、
三重　三重縣保護會
滋賀　滋賀縣聯合保護協會
岐阜　岐阜縣保護會、可兒郡修養會、崇德會、山縣郡免囚保護會、德風會
福井　福井縣福田會
石川　加能慈惠保護會、能登國慈惠會、能進會、廣濟會
富山　富山縣曹洞宗永濟會、富山養得園
新潟　新潟聯合保護會
福島　福島縣聯合保護會
宮城　宮城縣出獄人保護會、宮城縣佛教治濟會、能仁會、刈田佛教廣濟會
山形　山形縣免囚保護聯合會、米澤商會
秋田　秋田至仁會、眞宗協會、佛教利生會、南秋田郡佛教會
巖手　巖手縣免囚保護聯合會
青森　青森縣佛教慈光會
京都　京都免囚保護聯合會
大阪　大阪府免囚保護聯合協會
奈良　奈良縣聯合保護會
和歌山　端正會、精華會、海草郡佛教各宗協同會
兵庫　神戸監獄管內聯合保護會
岡山　岡山縣免囚保護聯合會
廣島　廣島縣聯合保護會
山口　山口縣出獄人保護聯合會
鳥取　鳥取縣給產會、和光會
島根　島根授產會
香川　讃岐修齊會
愛媛　愛媛保護會
德島　德島縣助成協會
高知　嶺南救濟會、高知自彰舍
福岡　福岡縣聯合保護會
大分　大分保護會
佐賀　佐賀縣愼濟會、唐津力行保護會
長崎　長崎縣佛教聯合保護會
熊本　熊本自營協會、肥後慈惠會
宮崎　日州保護會
鹿兒島　鹿兒島縣保護協會
沖繩　沖繩自營會
北海道　北海道樺太免囚保護聯合會、釧路慈德會
樺太　樺太保護會

表

第　號

被救護者輸引證

乘車船區	自　驛 至　驛
乘車人附添人姓名年齡	
乘車船等級輸引率	三等　五割

【大正】年　月　日發行

所在地　何何會長　氏　名印

寸　三　寸

裏

注意

一　本證ハ鐵道ノ指定シタル孤兒院、養育院、感化院、免囚保護會等ニテ救護ヲ受クル者及鐵道ニ於テ必要ト認メタル同行ノ附添人ニ限リ使用シ得ルモノニシテ番號、使用者ノ姓名、年齢及發行日付ハ發行者之ヲ記入シテ交付スルモノトス

二　本證ハ記名人以外ノ者之ヲ使用スルコトヲ得サルモノトス

三　本證ニ依リ購求シタル割引乘車券ハ他人ニ讓渡シ又ハ他人之ヲ使用スルコトヲ得サルモノトス

四　本證ニ依リ運賃ノ割引ヲ受ケタル者ハ急行列車又ハ急行汽船ニ乘車船スルコトヲ得サルモノトス

五　本證ノ有効期間ハ發行ノ日ヨリ三箇月トス

八　被救護者割引證用紙請求ノ場合添付スヘキ調書ニ關スル件

（大正十二年三月司法大臣官房保護課長通牒保第五〇六號）

大正十一年四月十四日監甲第四五五號被保護者及附添人ニ對シ旅客運賃割引ニ關スル件通牒ニ基キ被救護者割引證用紙御請求ノ場合ハ別紙樣式ニ依リ調書ヲ作成シ添付相成度候

（別紙）

第一表　受拂

前年度受入數	前年度發行數	本年度へ越數	本年度所要見込數	差引請求數

第二表　發行內譯

割引證ヲ使用セシ者ノ屬スル保護團體名	發行事由				被保護者數	
	歸住就職		計		同上ニ對スル發行數ノ百分比	
	枚數	實人員	枚數	實人員		

備考

一　本表ハ前年發行セシ分ニ付作成ス

二　附添アリシ場合ハ當該欄ニ其ノ數ヲ朱書再揭スルコト

第三表　釋放者數ト發行數トノ割合

受刑者	刑事被告人	勞役場留置者	其他	計	
釋放數	發行數	釋放數	發行數	釋放數	發行數	釋放數	發行數	釋放數ニ對スル發行數ノ百分比

備考

一　本表ハ前年度發行セシ分ニ付作成ス

二　其ノ他欄ニハ刑務所ニ收容セラレサル者ニシテ執行猶豫起訴猶豫トナリシ者等ヲ記載ス

九　國有鐵道旅客運賃割引證票訂正方ニ關スル件

（大正十二年六月　司法大臣官房保護課長宛　保第一六五五號）

首題ノ件ニ關シ鐵道省運輸局長ヨリ別紙ノ通通知有之候處事實不正ニ使用セシ者アリトセハ甚タ遺憾ノ次第ニ付再過ナキ樣嚴重監督相成度尙指定保護團體ヘハ別紙竝本文ノ趣旨傳達相成度候

（大正十二年六月　鐵道省運輸局長　司法省刑局長宛　鐵運乙第二三六〇號）

國有鐵道ニ於テ旅客運賃ノ割引ヲ爲ス場合ニ提出スル證票ニシテ訂正ヲ爲シタルモノノ取扱方ニ關シ別紙規定ヲ制定シ七月一日ヨリ實施可致候間關係ノ向ニ洩レナク御通報相煩度

追テ證票交付ノ際發行者ニ於テ必要事項ヲ記入發行可相成筈ニ有之右規定御勵行ナキ爲自然他人ニ讓與スル等不都合ノ行爲ヲ爲ス者ヲ生シ取締上甚タ遺憾ノ次第ニ付特ニ嚴重ナル御取締相煩度

（別紙）

國有鐵道旅客及荷物運送取扱細則

第六條　旅客又ハ荷主ノ提出シタル割引證票其ノ他ノ文書中ニ訂正シタル箇所アル場合ニ於テハ左ノ證明アルモノニ限リ之ヲ有效トシテ收受スルコトヲ得ルモノトス

一　發行者ノ記入スヘキ事項ニ付テハ發行者ノ認印

二　使用者ノ記入スヘキ事項ニ付テハ使用者ノ認印

一〇　旅客運賃ノ割引ヲ受クルモノ名稱等ニ變更ヲ生スル場合届出ノ件

（大正十三年四月　司法大臣官房保護課長通牒　保第二七二八號）

大正九年鐵道省告示第九十九號國有鐵道旅客及荷物運送規則第六十三條ニ依リ特種旅客運賃ノ低減ヲ受クルモノハ總テ同省達ヲ以テ其ノ名稱及所在地ヲ全國各驛ヘ通達ノ上施行セラルル義ニ有之候ニ付若シ割引證其記載ノ名稱又ハ所在地カ當該達ト相違スルトキハ自然ノ使用ヲ拒否セラルルコトト可相成候條名稱及所在地ヲ變更スル場合ハ其ノ事由及實施年月日ヲ記載シ鐵道省ヘ訂正交渉方豫メ貴官經由當省ヘ出願セシムル樣關係團體ヘ通達相成度候

追テ鐵道省ニ於テハ優良團體ニ對シ運賃割引ノ特典ヲ許容スル方針ニ付貴下所在地ヲ變更スルトキハ其ノ落變ノ確立ヲ疑ハレ不利益ヲ招致スル虞有之候間御含置相成度候

一一　被救護者割引證樣式改正ノ件

（大正十一年三月　司法大臣官房保護課長通牒　保第三六五三號）

被救護者割引證ハ從來當省ニ於テ印刷シ來リ候處大正十四年度ヨリ鐵道省ニ於テ印刷シ其ノ省印ヲ押捺シタル上當省經由配布スルコトニ改定相成候條現割引證ハ本年度限之ヲ廢止シ來ル四月一日ヨリハ新割引證使用相成度尤モ現割引證ニシテ三月三十一日以前ニ發行シタル分ハ其ノ有效期間即チ發行ノ日ヨリ三月間（割引證裏面注意事項第五號參照）ハ有效トシテ取扱フコトニ相成居候條御了知相成度候

追テ管下ノ關係保護團體ヘハ貴官ヨリ可然示達相成度候

一二　東京府下釋放者保護會監督區域ニ關スル件

（大正十一年十月　司法大臣官房保護課長通牒　保第三七八號）

今般輔成會ヲ除ケル東京府下ノ釋放者保護會ヲ典獄ニ於テ監督スヘキ區域左記ノ通相定メ候

追テ管下免囚保護會ヘハ貴官ヨリ其ノ旨傳達相成度候

左記

一　小菅監獄
浅草區、本所區、深川區、南葛飾郡、南足立郡

一　【東京】監獄
麹町區、神田區、日本橋區、京橋區、麻布區、赤坂區、四谷區、牛込區、西多摩郡、南多摩郡

一　豐多摩監獄
芝區、荏原郡、豐多摩郡、北多摩郡

一　集鴨監獄
小石川區、本郷區、下谷區、北豐島郡

浦和、川越少年刑務所

一三　釋放者保護會ノ管轄變更ニ關スル件

（大正十一年十一月司法大臣官房保護課長通牒保第五二〇號）

釋放者保護機關川越就實園ハ從來【浦和刑務所】ノ管轄ニ屬シ居候處今般便宜上之ヲ川越少年刑務所ノ管轄ニ屬セシムルコトニ相成候

一四　釋放者保護事業巡視報告廢止ノ件

（大正三年三月監獄局長通牒監甲第二一一號）

出獄人保護事業ニ關スル巡視報告方ニ係ル明治四十二年九月監甲第一一六六號並明治四十三年九月監甲第一七六二號通牒ハ之ヲ廢止候條爾今ハ隨時巡視シ特ニ參考トナルヘキ必要事項ニ限リ報告相成候樣致度

一五　保護會ヘ保護ヲ依賴スル場合通報事項ノ件

（大正五年十一月監獄局長通牒監甲第六八一號）

監獄法施行規則第百六十九條ニ依リ監獄ヨリ保護會ニ對シ發送スル釋放者ノ保護通知書ニ記載スヘキ事項ニ關シ曩ニ財團法人補成會ノ開催ニ係ル全國免囚保護事業當局其ノ協議會ニ於テ決議シタル趣ヲ以テ今般同會會長ヨリ別紙ノ通申出有之候處相當理由アル要求ト思料致候間將來右ニ依リ通報方御取計相成度

（別紙）

保護會ヘ保護ヲ依賴スル場合ニハ少クトモ左ノ事項ヲ通知スル樣各監獄ニ要求スルコト釋放者ノ本籍、前住地、歸住地、氏名、生年月日、釋放年月日、釋放事由、釋放時携有金品、犯由、犯狀概略、罪名犯數、刑名刑期、在監中ノ業種行狀、保護事由、教育程度、健康狀態、宗派寺院及其ノ所在、前科ノ種類、生育關係及入監前ノ生活狀態、性癖及嗜好、特技、交友關係近親者ノ所在及其ノ素行

一六　地方釋放者保護講演會ニ本省及補成會職員ノ出演ニ關スル件

（大正九年一月監獄局長通牒監秘甲第四號）

從來各地方ニ於テ免囚保護事業ニ關スル會同ノ機會ヲ利用シ廣ク一般社會ニ免囚保護思想ノ普及ヲ圖ル爲講演會ヲ開キ本省及補成會職員ノ出演ヲ求メラルル向有之候處右ハ素ヨリ時宜ニ適シタル緊要ノコトニ屬スルヲ以テ可成繰合セ出張致度候ヘ共人少ノ折柄ニ付東京附近ノ如キ即日往復シ得ヘキ所ハ格別僅ニ一ケ所ノ爲ニ途中數日ヲ要スヘキ遠隔ノ地ニ出張ノ儀ハ乍遺憾到底行ハレ難ク候間斯カル地方ニ在リテ將來此ノ種講演會ヲ開催シ出張ヲ求メムトスル場合ハ先ツ隣府縣又ハ所轄控訴院管內ノ當事者間申合セ順次數ケ所ニ引續キ巡廻講演ノ日取ヲ定メ連名ヲ以テ其ノ旨御申出相成候樣致度如此ナレハ出張ノ名分一層明カニ途中空費ノ日時モ節約セラルヘクト思料致候

一七　釋放者保護事業奬勵費取扱規程

（大正九年三月司法省令第四號）

改正　大正一二年第四號、

免囚保護事業奬勵費取扱規程

第一條　免囚保護事業奬勵金ハ毎年一回其ノ年度內ノ事業ニ對シ之ヲ下付ス

前項ノ年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ルモノトス

第二條　奬勵金ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ其ノ所在地ヲ管轄スル監獄ノ典獄ヲ經由シ毎年四月三十日マテニ申請書ヲ司法大臣ニ差出スヘシ

少年法ニ依リ少年ノ保護ニ從事スル者ハ所轄少年審

判所ノ長ヲ經由シ前項ノ申請書ヲ差出スヘシ

第三條　申請書ニハ下付ヲ求ムル事由並本規程ヲ遵守スヘキ旨ヲ明示シ且事業成績表、收支計算書、資產表ヲ添附スヘシ

初テ奬勵金ノ下付ヲ申請スル者ハ前項ノ書類ノ外會則又ハ事業施意書ヲ添附スヘシ

第四條　奬勵金ヲ下付スヘキモノト認ムルトキハ支給スヘキ金額ヲ指定シ之ヲ申請人ニ告知ス

金額ノ支給ハ所轄典獄又ハ少年審判所ノ長ヲ經由シテ之ヲ爲ス

第二項ノ手續ヲ終ラサル前奬勵金ヲ下付スルニ適セサル事情アルコトヲ發見シタルトキハ第一項ノ告知ヲ取消スヘシ

第五條　奬勵金ノ下付ヲ受ケタル者ハ左ノ義務ヲ負フモノトス

一　事業ノ經營並金錢ノ出納ニ付所在地ヲ管轄スル監獄ノ典獄又ハ少年審判所ノ長及財團法人輔成會管理者ノ指揮監督ヲ受クルコト

二　保護事業ヲ中止若ハ廢止シ主管者又ハ會則ヲ變更シタルトキ及執務上重要ナル事故發生シタルトキハ所轄典獄又ハ少年審判所ノ長ヲ經由シ遽ニ其ノ旨ヲ司法大臣ニ申報スルコト

第六條　本規程ニ依リ典獄又ハ少年審判所ノ長ヲ經由スル書類ハ典獄又ハ少年審判所ノ長之ヲ審査シテ意見ヲ附シ遲滯ナク司法大臣ニ進達スヘシ

第七條　典獄又ハ少年審判所ノ長ハ少クトモ毎年一回其ノ管內ニ在リテ奬勵金ノ下付ヲ受クル者ヲ視察シ其ノ事業ノ管理經營ニ關スル狀況ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

附　則

本令ハ大正九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

一八　釋放者保護事業奬勵費取扱規程ノ件

（大正九年三月　監獄局長通牒　甲第一〇一號）

本日司法省令第四號ヲ以テ標記ノ件制定相成候處右施行ニ付テハ左記ノ通御取計相成度候

一　免囚保護事業奬勵費取扱規程第三條ニ依リ提出セシムヘキ事業成績表、收支計算書及資產表ハ別紙樣式ニ依リ作成セシムルコト

二　大正九年度以降ノ奬勵金ハ其ノ年度始ニ於テ之ヲ下付シ當該年度ノ保護事業ノ費途ニ供セシムヘキ旨ニ付申請書類ハ必ス成規ノ期日迄ニ差出シ得ル樣準備セシメラレタキコト

追テ右期日ヲ怠ルトキハ奬勵金下付ノ詮議相成ラサル場合アルヘシ

三　大正九年度ノ奬勵金ハ八年度ノ分ヲ受ケ間モナク下付セラルルコトト相成ル結果保護會ニ於テハ一時ニ多額ノ金員ヲ擁スルコトト相成リ爲ニ不用ノ物品ヲ購入スル等其ノ使途ヲ誤ルコトナキヲ保シ難ク尙奬勵金ヲ會ノ基本金ニ組入レ又ハ不動產購求等ニ投スルカ如キハ奬勵費下付本來ノ趣旨ニモ副ハサル次第ニ付出來得ル限リ保護事業直接ノ費除ニ活用シ之カ使途ニ付萬違算ナキ樣豫メ計劃セシメラレタキコト

四　申請書ニ添付スヘキ事業成績表、收支計算書及資產表ハ貴官ニ於テ精査ノ上進達セラルヘク又支部ヲ有スル保護會ニ在リテハ本部ニ於テ聯合會ニ在リテハ各加盟保護會ノ分ヲ取纏メ別ニ同樣式ニ準シ作成シタル總括表ヲ添付セシメラレタキコト

五　典獄ノ巡視ハ之ヲ勵行シ其ノ事業成績、收支計算ノ狀況、資產ノ狀態、業務執行及保護思想宣傳ノ方法等ニ付精密ニ之ヲ調査シ相當指導監督ヲ爲スハ勿論一面地方官憲有志等ニモ交渉シ保護思想ノ普及ニ努力セラレタキコト

【大正】年度事業成績表

縣　郡　町　年　月　創立

保護ノ種類	越人員	新保護人員	資格異動 入	資格異動 出	保護ヲ解キタル人員 保護ノ必要ナキニ至リタルモノ	親族引受	他人引受	他ノ保護會へ移轉	感化院ヘ轉入	退會シタルモノ	退會無斷	入監	死亡	何何	計	年度末人員	本年度內ノ延人員	創立後本年度末日迄ノ延人員

| 収容シテ保護シタル者 | | |

本年度内ニ保護ヲ解キタル者	年度末現在者	合計
人	人	人
人	人	人
人	人	人
人	人	人
人	人	人
人	人	人
人	人	人

記載例

一　本表ハ會計年度ニ依リ作成スルモノトス

一　年度内保護ノ種類ヲ變更シタル場合ニ於ケル掲表ハ左ノ例ニ依ル

イ　直接保護ヨリ間接保護又ハ間接保護ヨリ直接保護ニ轉換シタルモノハ資格異動欄ニ其ノ出入ヲ墨書ス（例ヘハ被保護者ノ一人カ直接保護ヨリ間接保護ニ轉換シタルトキハ收容シテ保護シタル者ノ資格異動欄出ノ部ニ「一」ヲ掲ク間接保護シタル者ノ當該欄入ノ部ニ「一」ヲ掲ク間接保護ヨリ直接保護ニ轉換シタル場合亦此ノ例ニ依ル）

ロ　直接保護又ハ間接保護ノ各同部内ニ於ケル細別間ノ轉換ハ資格異動欄ニ其ノ出入ヲ朱書ス

一　年度末人員ハ直接保護又ハ間接保護ノ各同部内ニ於ケル越人員、新保護人員及資格異動ノ入人員（墨書、朱書共）ヲ合計シタルモノヨリ資格異動ノ出人員（墨書、朱書共）及保護ヲ解キタル人員ヲ控除シ計出ス

一　延人員ハ其ノ年度内又ハ創立後ニ於ケル各相當欄保護ノ實日數ヲ計上スルモノトス

保護ノ初日ハ一日ヲ以テ計算シ保護ヲ解キタル日ハ之ヲ算入セス資格異動ノ場合モ亦之ニ準ス

一　直接保護ヨリ間接保護ニ轉換シタル後其ノ保護ヲ解クトキハ間接保護相當欄ニ之ヲ計上ス間接保護ヨリ直接保護ニ轉換シタル場合亦此ノ例ニ依ル

一　同一人ニ對シ數種ノ一時的保護ヲ加ヘタル者ハ其ノ主タル種別ノ欄ニ墨書シ其ノ他ノ種別欄ニハ其ノ數ヲ朱書ス

一　直接保護又ハ間接保護ヲ解ク場合ニ於テ特別ノ保護ヲ加ヘタルトキハ其ノ種類ニ從ヒ「一時的ニ保護シタル者」ノ項内相當欄ニ其ノ數ヲ墨書ス但シ二種以上ノ一時的保護ヲ加ヘタル場合ハ前項ノ例ニ依リ計上ス

一　刑ノ執行猶豫又ハ微罪不檢擧ニ係ル者ニ對シ保護ヲ加ヘタルモノアルトキハ本表相當欄ニ合算記入ス仍其ノ人員及保護ノ種類ハ之ヲ備考ニ再掲ス

一　附表資格異動ニ依ル出場者欄ニハ收容後間接保護ニ轉換スル前日迄ノ期間ヲ各相當欄ニ計上シ保護ヲ解キタル者ノ欄ニハ其ノ年度内ニ於ケル直接保護ヨリ解カレタル人員ヲ計上ス

【大正】　年度收支計算書

收入之部		
科目	金額	
前年度繰越額	圓	
本年度收入額		

支出之部		
科目	金額	
事務費	圓	
役員俸給及手當		
役員旅費		
備品費		
圖書印刷費		
免囚保護事業奬勵費下付金		
道府縣郡區市町村補助金		
會費		
寄附金		
作業收入		
被保護者償還金		
何何		
合計		

【大正】　年度收支計算書